

# 徳島県立博物館年報

第25号 (平成27年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum  
No. 25 (for the fiscal year of 2015)

# 目 次

徳島県立博物館の使命	2	V 情報の発信と公開	
I 展 示		1. 博物館の広報活動	43
1. 常設展	3	2. テレビ・ラジオへの出演等	43
2. 企画展	6	3. インターネットによる情報提供	44
3. 特別陳列	11	4. 外部ネットワークとの連携	45
4. 企画展示室の会場提供	13	5. 情報システムの概要	45
5. 館外での展示	13	VI 県民協働・参画	
6. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	14	1. 博物館友の会	47
7. 展示関係出版物	16	2. 博物館公募ボランティア	48
II 普及教育		3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	49
1. 普及行事	17	VII シンクタンクとしての社会貢献	
2. 学校教育支援事業	21	1. レファレンス業務	50
3. 普及教育関係出版物	25	2. 各種委員会委員等の受諾	50
4. 徳島新聞「こども新聞」への協力	26	3. 講師の派遣	52
III 調査研究		4. 大学教育への寄与	52
1. 課題調査	27	5. 学会・研究会等の運営への寄与	54
2. 分野別（個別）調査研究	29	6. 博物館ネットワーク	54
3. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）の実施	31	VIII 管理運営・マネジメント	
4. 科学研究費補助金等による研究	32	1. 組織・職員	57
5. 他機関との共同研究	32	2. 予算	57
6. 研究成果の公表	33	3. 文化の森の連携事業	58
IV 資料の収集・保存と活用		4. 期間限定観覧料割引券の発行	58
1. 採集資料	37	5. 防災及び危機管理	58
2. 購入資料	37	6. 博物館協議会	59
3. 寄贈資料	37	7. 各種研修会への参加	59
4. 寄託資料	38	8. 視察等博物館関係来訪者	59
5. 資料の貸し出し	39	IX 中期活動目標と自己評価	
6. 写真・映像の提供	39	1. 中期活動目標	60
7. 資料の提供	40	2. 27年度実績と自己評価	68
8. 資料の交換	40	X 観覧者統計	83
9. 館蔵資料数	41	XI 施設の概要	
10. 資料収集委員会	41	1. 沿革	87
11. 文献資料の収集	41	2. 施設の概要	88
12. 資料の保存	41	3. 博物館各室面積	89
		XII 例 規	91

# 徳島県立博物館の使命

## 徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—県民とともに活動し、成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

### 知

#### 知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

### 探

#### 地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

### 伝

#### 未来にまもり伝える博物館

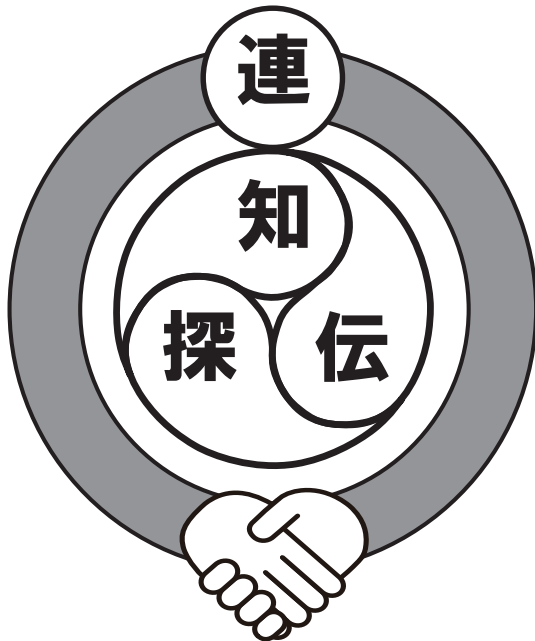
博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

### 連

#### 県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんとの対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱  
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

#### 使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
  - (1) 展示
  - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
  - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
  - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 県民とのつながりを大切にする博物館
  - (1) 情報の発信と公開
  - (2) 県民協働・参画
  - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
  - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

# I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

そのようななかで、平成27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った。これは、26年度に実施した、文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の成果を反映したものである（詳細は年報24号p.49・50参照）。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、23年度から予算減少等の理由から2回とし、1回分を所要経費の少ない「特別陳列」に変更した。

学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりや資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、民間との連携等予算獲得への工夫が必要となっている。

## 1. 常設展

### (1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の3つで構成している。

#### ●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波

5. 藩政のもとで

6. 近代の徳島

7. 徳島の自然とくらし

#### ●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／  
生物の生活と自然のしくみ など

#### ●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

メガテリウム全身骨格（レプリカ）

パノクツス全身骨格及び甲羅

マクラウケニア全身骨格（レプリカ）

トクソドン全身骨格（レプリカ）

スミロドン全身骨格（レプリカ）

ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）

ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

### (2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開を図るため、自然史関係の展示も行っている。

#### ●ミャンマーの植物～未知の大地に新たな植物を求めて～

4月7日（火）～6月21日（日）

展示資料点数 53点（館蔵資料1点）

ミャンマー連邦、とくに中西部のチン州南部に位置するナマタン国立公園周辺の調査成果を中心に、この未知の大地の植物相について、その一部を紹介した。

#### ●戦争の時代と徳島

6月23日（火）～8月30日（日）

展示資料点数 100点（館蔵資料85点）

近代日本の歩みを俯瞰すると、アジア・太平洋戦争に至るまで戦争がくり返し行われ、日本がアジアに勢力を膨張させた時代であるといえる。館蔵資料を中心に、戦争関係資料を通して、戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和の尊さを考える契機になることを願い開催した。



「戦争の時代と徳島」の展示風景



「シカとカモシカ」の展示風景



「脱穀用具展」の展示風景

●脱穀用具展

9月19日(土)～11月15日(日)

展示資料点数 22点(館蔵資料22点)

重労働だった脱穀作業を効率よくこなすため、さまざまな脱穀用具が開発され、使われるようになった。展示では、とくに江戸時代後期以降から機械化以前の脱穀用具に焦点をあて、館蔵資料を紹介した。

●白亜紀の化石

11月17日(火)～1月17日(日)

展示資料点数 98点(館蔵資料91点)

徳島県内の阿讃山脈や勝浦盆地にも、白亜紀(約1億4500万年～約6600万年前)の地層が広く分布しており、多くの化石が産出する。この展示では、徳島県内および国内外の白亜紀のさまざまな化石を紹介した。

●シカとカモシカ

1月19日(火)～3月21日(月・休)

展示資料点数 69点(館蔵資料64点:標本類36点)

徳島県に生息する代表的な偶蹄類の2種ニホンジカとニホンカモシカを取り上げ、これら2種の解剖学的違いや生息状況の現状、生態の違いなどについて紹介した。近年ニホンジカは全国的に増えすぎて林業被害

だけでなく、希少植物への食害、ニホンカモシカへの影響、生態系そのものの改変など様々な問題を引き起こしていることから、これらの問題を取り上げるとともに、他の害鳥獣についても紹介した。

●みんなで調べた西日本のタンポポ

3月23日(水)～28年度(5月29日(日))

展示資料点数 30点(館蔵資料30点)

タンポポの種類を調べると、身近な自然環境がわかるといわれている。今回の展示では、2014年と2015年の2年間にわたり、広い範囲でタンポポを調査した、「タンポポ調査・西日本2015」の結果について報告・紹介した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを行い、以下の作品資料を展示した。

①26年度(3月26日(木))～10月14日(水)

〈小テーマ・吉成葎亭の作品〉

釣鐘曳図 1点、水遊び図 1点、白椿図 1点

②10月15日(木)～2月28日(日)

〈小テーマ・粉本と狩野派絵師〉

探幽筆老子図粉本 1点、古信筆菊慈童図粉本 1点、典信筆王子猷訪戴安道図粉本 1点

③3月1日(火)～28年度(5月15日(日))

〈小テーマ・渡辺広輝の作品〉

春秋鶉図 双幅 1点、楊貴妃図 1点

(4) トピックコーナーでの小展示

27年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●タンポポ調査が始まります

26年度(3月3日(火))～5月31日(日)

展示資料点数 1点(館蔵資料1点)

2015年のタンポポ調査の開始にあわせて開催した。



「タンポポ調査・西日本2015」の2014年調査結果を紹介し、これまでに明らかになったタンポポの分布等を紹介した。特に四国で初めて見つかったモウコタンポポの標本（香川県産）を展示した。

●シーボルト日本動物誌（ファウナ・ヤポニカ）

6月2日（火）～7月20日（月・祝）

展示資料点数 8点（館蔵資料8点：実物3点）

「日本動物誌」はシーボルトが日本に滞在している間に収集した標本や採集記録、描かれた絵をもとにオランダ国立自然史博物館（通称：ライデン博物館）の研究者3名が執筆した分類学的文献である。シーボルトが編者となって、1833～1850年の17年間に43分冊の形で出版された。本書は日本産動物について近代分類学の手法で研究した初のまとまった成果であり、現在でも日本の動物を研究するうえでなくてはならない文献であると共に、手彩色を施された美しいカラー図版を多数含んでおり、美術的価値も高い。当館の収蔵する貴重な実物資料を公開した。



「シーボルト日本動物誌（ファウナ・ヤポニカ）」の展示風景



「阿蘇山の最近の噴火」の展示風景

●徳島県のセミ

7月14日（火）～8月30日（日）

9月19日（土）～27日（日）

展示資料点数 71点（館蔵資料71点）

徳島県に生息する全14種のセミの標本を展示するとともに、各種の分布や生態を紹介した。

●テグスと蛾

9月29日（火）～11月29日（日）

展示資料点数 5点（館蔵資料5点）

テグスサン、クスサン等の繭を材料につくられる天然テグスとその加工用具を、かつてテグス行商をした鳴門市堂浦漁民の歴史とあわせて紹介した。

●阿蘇山の最近の噴火

12月1日（火）～1月31日（日）

展示資料点数 12点（館蔵資料4点）

最近の阿蘇山の噴火と噴出物を、阿蘇ジオパーク推進協議会から提供いただいた資料もまじえて展示した。

●新着考古資料紹介～石器・須恵器・アクセサリ～

2月2日（火）～3月27日（日）

展示資料点数 35点

近年、寄贈いただいた北海道美深町で採集された石器や阿南市寺田山古墳出土の須恵器・装身具類（アクセサリ）等を展示した。

●ゾルンホーフェンの化石

3月29日（火）～28年度（5月29日（日））

展示資料点数 7点（館蔵資料7点）

始祖鳥も産出したドイツ南部にあるゾルンホーフェンという化石産地と、産出する化石（カプトガニ、トンボ、アンモナイトなど）について紹介した。

(5) 博物館ロビーでの小展示

27年度は常設展示入り口横の博物館ロビーにおいて小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、その時に適した内容があれば実施する。

●地方自治法施行60周年記念貨幣展示

5月14日（木）～5月17日（日）

独立行政法人造幣局では、平成19年に地方自治法施行60周年を迎えたのを機に、20年から47都道府県ごとに順次記念貨幣を発行している。徳島県をテーマとした貨幣の発行・販売が行われる機会に併せて、記念貨幣を展示した（造幣局・徳島県主催）。

●常設展示室フレッシュアップ記念

「ミニ 人形&怪獣フィギュア展」

10月3日（土）～11月23日（月・祝）

展示資料数 31点（館蔵資料3点）

常設展示室のフレッシュアップを記念するとともに

## 6 展示

に、文化の森開園25周年記念事業共通テーマ「ヒトガタをめぐる冒険」の一環として開催した。平成25年3月に寄贈を受けた、初代天狗久作の人形頭と4代大江巳之助作の衣装人形を紹介した。あわせて、三好信司氏（板野町在住）製作の怪獣フィギュア（ガレージキット）を展示した。

### ●鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念連携展示

「鳥居龍蔵が歩いた南アメリカの自然」

1月23日（土）～2月28日（日）

展示資料数 21点（館蔵資料21点）

鳥居龍蔵記念博物館の開館5周年を記念し、龍蔵が訪れた南アメリカの自然について、館蔵資料を通して紹介した。

## 2. 企画展

平成27年度は、次の2回の企画展を行った。

### (1) 第1回企画展

「瓦から見る古代の阿波 ― 寺院と役所 ―」

日本における屋根瓦の生産は、588年（崇峻元）の奈良県の飛鳥寺建設に始まり、飛鳥・奈良時代を通して全国的に拡がっていく。この時代、瓦を葺くのは寺院や役所といったごく一部の建物に限られており、瓦は古代の寺院や役所を象徴する資料といえる。

7世紀後半になると、地方に対しても仏教奨励策がとられ、寺院数は急増する。さらに、741年（天平12）には国分寺建立の詔が發布され、官営寺院である国分寺・国分尼寺が各国に建立された。阿波国においても、7世紀後半には寺院造営が始まり、8世紀中葉には国分寺・国分尼寺が建立される。また、寺院造営と並行して、阿波各地に役所が設置されたと考えられている。

この企画展では、阿波の古代寺院跡から出土した瓦や、これらと関連が強い各地の瓦、さらに役所跡からの出土資料を通して、古代阿波の様相の一端を紹介した。

●主催 徳島県立博物館

●期間 平成27年4月24日（金）～6月7日（日）  
（開館日数39日）

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円（65歳以上100円）  
高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 4,218人

●展示構成

#### I 瓦作りのはじまり

##### 1 飛鳥寺

〈主な展示資料〉飛鳥寺跡出土軒丸瓦（安居院蔵）

##### 2 隼上り瓦窯跡

〈主な展示資料〉京都府宇治市隼上り瓦窯跡出土軒丸瓦、陶硯（宇治市教育委員会蔵）

##### 3 瓦作りの技

〈主な展示資料〉瓦製作工具復元模型、DVD「古代瓦を復元する」（上映）（三豊市教育委員会蔵）

#### II 阿波の古代寺院

##### 1 寺院造営と瓦作りのひろがり

###### (1) 寺院跡と出土瓦

①郡里廃寺跡②立善寺跡③内原成松窯跡群

④石井廃寺跡⑤河辺寺跡⑥大日寺跡

〈主な展示資料〉各寺院跡出土の軒丸瓦・軒平瓦（美馬市教育委員会等蔵）、大日寺跡出土鬼瓦・螺髪（吉野川市教育委員会蔵）

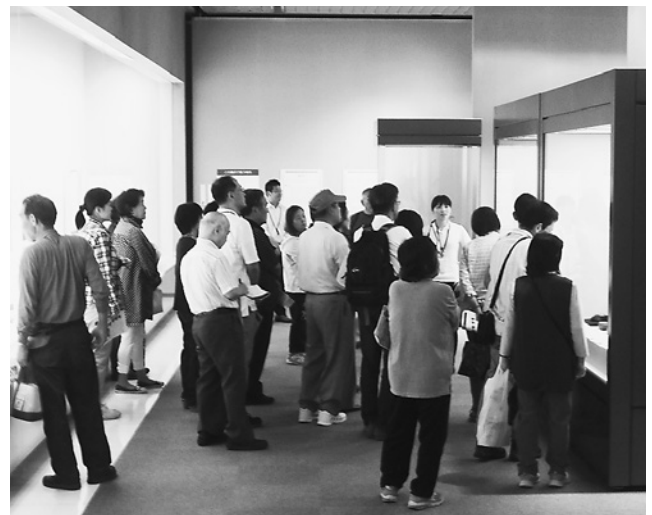
###### (2) 瓦から見る古代の阿波①

― 豪族による寺院造営 ―

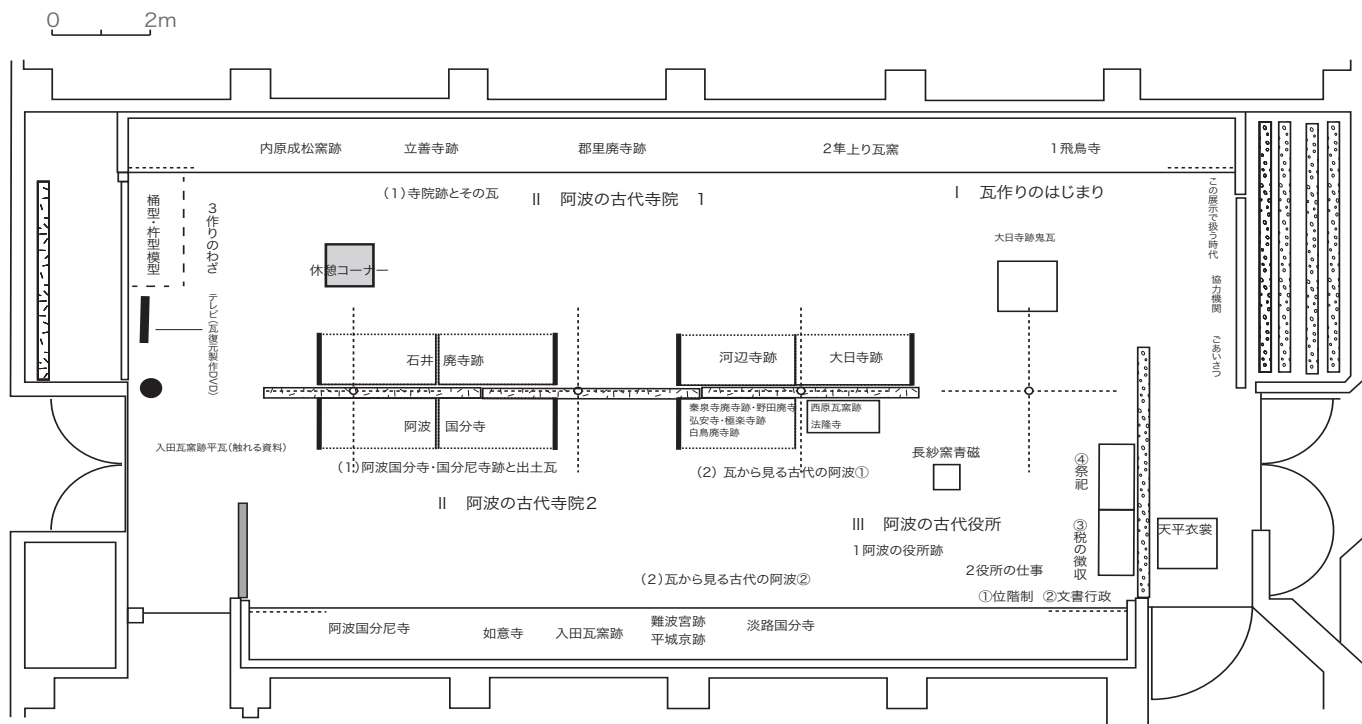
〈主な展示資料〉阿波市西原瓦窯跡出土軒瓦（川井豊吉氏蔵）、奈良県法隆寺跡出土軒瓦（法隆寺蔵）、香川県白鳥廃寺跡出土軒瓦（東かがわ市教



「瓦から見る古代の阿波」の展示風景



「瓦から見る古代の阿波」展示解説の様子



「瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—」の展示配置

徳島県立博物館企画展

# 瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—

平成27年4月24日(金) ▶ 6月7日(日)

休館日/月曜日 ※5月4日(月・祝日)は開館、5月7日(木)は休館

開館時間 / 午前9時30分から午後5時まで  
会場 / 徳島県立博物館 1階 企画展示室  
観覧料 / 一般200円(65歳以上100円)、高校生・大学生100円、小中学生50円  
※20歳以上の団体は2割引  
※土・日曜日、祝日は小・中学生及び高校生無料  
※学校教育での利用は無料  
※障がい者とその介助者1名は無料

交通のご案内  
徳島駅からバス 約25分  
タクシー 約15分  
文化の森から徒歩 約35分  
タクシー(バス停徳島駅前バス) 約30分  
徳島県立博物館「徳島IC」から 徒歩 約30分  
※無料駐車場あり

文化の森総合公園 徳島県立博物館  
〒770-8070 徳島県八万町南寺山  
TEL 089-658-3036 FAX 089-668-7197  
http://www.museum.tokushima-ec.jp

「瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—」ちらし(表)

徳島県立博物館企画展

# 瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—

日本における屋根瓦の生産は、588年(崇峻元)の飛鳥寺建立に始まり、飛鳥・奈良時代を通して全国的に広がっていった。現在、瓦葺きの建物は一般的に見られますが、この時代、瓦を葺くのは寺院や役所といったごく一部の建物に限られていることから、瓦は、古代の寺院や役所を象徴する資料といえます。

阿波国でも、7世紀後半には寺院造営が始まり、8世紀中頃に国が運営する寺院である国分寺・国分尼寺が建立されました。また、寺院造営と並行して、阿波各地に役所が設置されたと考えられています。

この企画展では、阿波の古代寺院跡から出土した瓦や、これらに関連が強い各地の瓦、さらに役所跡からの出土資料を通して、古代阿波の様相の一端を紹介します。

**展示構成**

- I 瓦作りの始まり  
1 飛鳥寺 2 単上り瓦窯 3 瓦作りの技
- II 阿波の古代寺院  
1 寺院造営と瓦作りのひろがり 2 阿波国分寺の造営
- III 阿波の古代役所  
1 阿波の役所跡 2 役所の仕事

**関連行事**

(1) 展示解説  
日時 / 4月26日(日)・5月31日(日)・6月7日(日) 14:00~15:00  
会場 / 徳島県立博物館 1階 企画展示室  
備考 / 観覧料が必要、申し込み不要

(2) 天平衣裳を着てみよう!  
日時 / 5月3日(日) 13:30~16:30  
会場 / 文化の森 ミーティングルーム  
備考 / 無料、申し込み不要

(3) 国府の遺跡散歩  
日時 / 5月10日(日) 13:30~17:00  
会場 / 徳島市国府町周辺  
備考 / 無料、小学4年生以上対象、申し込みが必要  
※往復はがきにて行事名、参加希望者全員の氏名(学年等)、③住所、④電話番号をご記入の上、4月30日(木) 必着でお申し込みください。

(4) 記念講演会「阿波・淡路の古代寺院と仏教政策」  
日時 / 5月17日(日) 13:30~15:00  
会場 / 文化の森 イベントホール  
講師 / 京都府立大学教授 豊田哲也氏  
備考 / 無料、申し込み不要

アクセスはすぐわかる!  
在庫が豊富なネット書店!  
受け取りは小山助学館・さくら書房全店で!

HonyaClub  
http://www.koyamajyogakukan.com

小山助学館 本店 / 徳島市万代町6丁目41-4  
TEL(088)654-2135 FAX(088)623-3744

美術品取扱作業お受け致します!!  
無料で下見・御見積させていただきます。 熱線は、若い子やへと丁寧に受け付けています。

梱包・輸送・展示のお手伝いなど、お気軽にご相談ください。

日本通運株式会社徳島支店 沖洲事業所  
〒770-0079  
徳島県徳島市東沖洲1丁目20番地2  
TEL 089-654-0222 fax 089-654-4994  
(徳島・山形)

「瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—」ちらし(裏)



## 8 展示

育委員会蔵)、香川県極楽寺跡出土軒瓦(藤井昇氏蔵)、高知県秦泉寺跡出土瓦(高知市教育委員会蔵)

### 2 阿波国分寺の造営

#### (1) 阿波国分寺・国分尼寺跡と出土瓦

- ①阿波国分寺跡②阿波国分尼寺跡
- ③入田瓦窯跡

〈主な展示資料〉各遺跡出土の軒丸瓦・軒平瓦・須恵器・土師器(徳島市立考古資料館等蔵)

#### (2) 瓦から見る古代の阿波②

— 阿波国分寺造営に携わった瓦職人 —

〈主な展示資料〉淡路国分寺・国分尼寺跡出土瓦(南あわじ市教育委員会蔵)、大阪府難波宮跡出土瓦(大阪市教育委員会蔵)、奈良県平城宮跡出土瓦(奈良文化財研究所蔵)

### Ⅲ 阿波の古代役所

#### 1 阿波の役所跡

〈主な展示資料〉観音寺遺跡出土木簡(複製)・阿波国府跡出土墨書土器(徳島市立考古資料館蔵)

#### 2 役所の仕事

- ①位階制②文書行政③税の徴収④祭祀

〈主な展示資料〉観音寺遺跡出土木簡(複製)(徳島市立考古資料館蔵)、平城宮跡出土木簡(複製)(当館蔵)、庄遺跡出土木製祭祀具、中庄東遺跡出土和同開珎(徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵)

●展示資料数 251点(館蔵資料7点、寄託資料2点、借用資料242点)

### ●関連行事

#### ①展示解説

第1回: 4月26日(日) 14:00~15:00

参加者 24人

第2回: 5月31日(日) 14:00~15:00

参加者 20人

第3回: 6月7日(日) 14:00~15:00

参加者 35人

#### ②天平衣裳を着てみよう!

日時 5月3日(日) 13:30~16:30

会場 文化の森ミーティングルーム及びエントランス

参加者 99人

#### ③国府の遺跡散歩

日時 5月10日(日) 13:30~17:00

会場 徳島市国府町周辺

参加者 28人

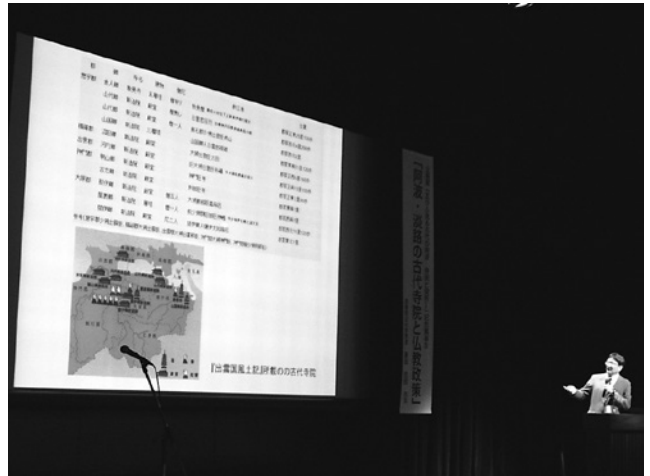
#### ④記念講演会「阿波・淡路の古代寺院と仏教政策」

講師 菱田哲郎氏(京都府立大学文学部教授)

日時 5月17日(日) 13:30~15:00

会場 文化の森イベントホール

参加者 104人



記念講演会「阿波・淡路の古代寺院と仏教政策」の様子



「天平衣裳を着てみよう!」の様子

#### (2) 第2回企画展「阿波木偶箱まわしの世界 — 門付け、大道芸 —」 (文化の森開園25周年記念事業)

三番叟とえびすの人形4体を用いる門付け「三番叟まわし」と、浄瑠璃を語りながら数体の人形を1人遣いで交互に操り路傍で人形浄瑠璃芝居のさわりを演じる大道芸「箱廻し」から成る「阿波木偶箱まわし」は、「阿波人形浄瑠璃」と並ぶ徳島に特徴的な人形文化である。

「三番叟まわし」は、正月に欠かせない儀礼として四国の広い地域で迎え入れられていた。また「箱廻し」は、戦前まで徳島から日本各地へと巡業し、徳島の人形文化を全国へ発信してきた。

この展示では、「阿波木偶箱まわし」の世界を、当館と阿波木偶箱まわし保存会が共同で行ってきた研究成果をもとに紹介した。あわせて日本の伝統的な門付け、大道芸について紹介した。

- 主催 徳島県立博物館
- 特別協力 阿波木偶箱まわし保存会
- 期間 平成27年10月31日(土)～11月29日(日)  
(開館日数26日)
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般200円(65歳以上100円)  
高校・大学生100円、小・中学生50円
- 観覧者数 2,968人
- 展示構成

- (1) 門付け「三番叟まわし」とは
  - ①「三番叟まわし」
  - ②「えびすまわし」
  - ③日本の様々な門付け
- (2) 大道芸「箱廻し」とは
  - ①戦前までの「箱廻し」
  - ②再現された「箱廻し」

- ③その他の大道芸
- (3) 「阿波木偶箱まわし」全国への足跡
  - ①「三番叟まわし」の足跡
  - ②「箱廻し」の足跡
  - ③「阿波木偶箱まわし」芸人による座組興行
- (4) 現在の「阿波木偶箱まわし」
  - ①「阿波木偶箱まわし保存会」の活動
  - ②「阿波木偶箱まわし保存会」と共演した世界の  
人形

●展示資料点数 248点  
(館蔵資料81点、借用資料167点)

- 関連行事
  - (1) 文化の森 大秋祭り!! オープニング行事「三番叟奉納」
    - ①日時 平成27年11月3日(火・祝)  
9:30～10:00



文化の森大秋祭り!! オープニング行事  
「三番叟奉納」の様子



「第1回ワークショップ」の様子



「阿波木偶箱まわしの世界」展示解説の様子



記念公演会「フィナーレ」の様子





- ②会場 文化の森・シンボル広場
- ③出演 阿波木偶箱まわし保存会
- ④参加者数 87人
- (2) 展示解説およびワークショップ（1人遣い人形  
伝承教室）
  - ①日時 第1回：平成27年11月1日（日）  
13：30～16：00  
第2回：平成27年11月15日（日）  
11：00～17：00
  - ②会場 博物館企画展示室
  - ③講師 阿波木偶箱まわし保存会
  - ④参加者 第1回：58人、第2回：227人
- (3) 門付け芸、大道芸の記念公演
  - ①日時 平成27年11月22日（日）  
13：30～16：00
  - ②会場 文化の森・イベントホール
  - ③出演 村田社中（千秋萬歳）  
筑豊大介（周防猿まわし）  
旭堂南鱗  
（バナナ啖呵売、ガマの油売り）  
浅草雑芸団（伝統雑芸、放下芸）  
阿波木偶箱まわし保存会  
（三番叟まわし、箱廻し）
  - ④参加者 234人

- 2 貝類の分類
- 3 貝殻の形と色・模様
- 4 貝類がすむいろいろな環境  
陸上／淡水／汽水域・干潟／磯／内湾／  
海浜／陸棚／外洋域の表層／深海／  
他の動物の表面や体内／熱帯の海／冷たい海
- 5 貝の利用  
食材／楽器／工芸品／真珠／貝紫染め／  
魔除け／その他（碁石や風鈴など）
- 6 いろいろな時代の貝類  
古生代の貝類／中生代の貝類／新生代の貝類
- 7 徳島とその周辺の貝化石
- 8 徳島とその周辺の貝
- 番外 ギャラリー  
きれいな貝、大きな貝、変わった形をした貝など

●展示資料点数 約1,500点（館蔵資料）

●関連行事

展示解説

日時 7月20日（月・祝）14：00～14：30

参加者 50人

### 3. 特別陳列

#### (1) シェルズ

##### — 貝類の現在と過去をさぐる —

貝類（軟体動物）は、節足動物に次いで種数の多いグループである。その一部は食用として、あるいは貝殻が工芸品や楽器などに利用されるなど、人間生活とも密接なつながりがある。また貝化石は、最も多く産出する大型化石であり、化石記録がたいへん豊富である。この展示では、多様性に満ちた貝類とその化石が示す現在と過去を、豊富な資料をもとに紹介した。また、一部を河野光氏（阿南市）、金子光晴氏（東温市）にボランティアとして展示協力していただいた。

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 平成27年7月18日（土）～8月30日（日）  
（開館日数38日）
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 無料
- 観覧者数 12,963人
- 展示構成

- 1 貝類とは

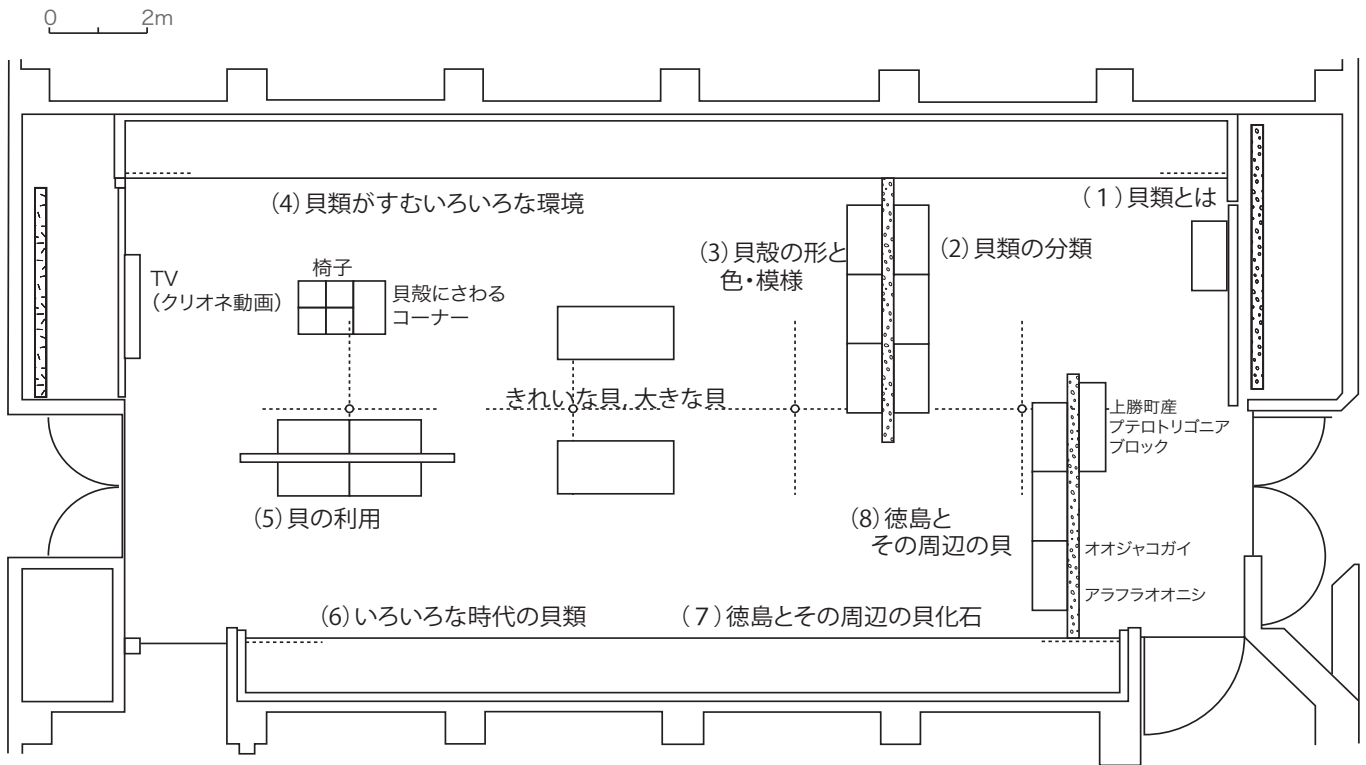


「シェルズ」展示風景



「シェルズ」展示風景





「シェルズ」の展示配置



「シェルズ」ちらし (表)



「シェルズ」ちらし (裏)

## (2) 鳥居龍蔵 — 世界に広がる知の遺産 —

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の開館5周年を記念し、改めて鳥居龍蔵の生涯と業績を振り返り、その人物像を見つめ直すとともに、彼が残した膨大な資料のもつ意義を明らかにすることを目的として開催した。鳥居は、アジア各地で現地調査にもとづく人類学・民族学・考古学の研究を進めたが、その実態や著作活動に触れるとともに、それらを支えた知的基盤や人的ネットワークに注目し、鳥居龍蔵の幅広い「知の遺産」を紹介した。

- 主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館  
徳島県立博物館
- 期間 平成28年1月23日（土）～2月28日（日）  
（開館日数32日）
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般 200円（65歳以上100円）  
高校・大学生100円 小・中学生50円
- 観覧者数 1,831人
- 展示構成
  - 1 生涯と著作
  - 2 知の基盤
  - 3 知の家族
  - 4 知の広がり
  - 5 知の交差
  - 6 知のコレクション
- 展示資料点数 389点（館蔵資料1点）

## (3) 2015年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主催 文化の森6館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 平成27年12月9日（水）～12月15日（火）
- 会場 近代美術館ギャラリー（展示）  
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 270人

## 4. 企画展示室の会場提供

### (1) ufotable15周年展

徳島県等の主催によるイベント「マチ★アソビ Vol.15」の一環として、ufotable15周年展が平成27年9月26日～10月12日の会期で開催された（ufotable（ユーフォーテーブル）はアニメ制作会社で、徳島にも拠点を置いて「マチ★アソビ」のプロデュースを手がけている）。博物館では、企画展示室を会場として

提供した。他に、隣接する文化の森多目的活動室が会場として使用された。観覧者数8,180人。

## 5. 館外での展示

### (1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。

27年度の貸し出し実績は、次のとおりである（パッケージ名称、貸出先、期間）。

- ・徳島大空襲（パネルセット）（美波町日和佐図書・資料館）  
期間 平成27年7月7日（火）～7月31日（金）

### (2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。

#### ●移動展「空から見た徳島」

主催 徳島県立佐那河内いきものふれあいの里  
徳島県立博物館

期間 平成27年7月1日（水）～9月30日（水）

会場 徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター

観覧者数 1,366人

資料点数 30点（パネル）（館蔵資料30点）

#### ●移動展・海陽町立博物館第41回企画展「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」

主催 徳島県立博物館・海陽町立博物館

協力 海の観察会

期間 平成27年10月3日（土）～10月18日（日）

会場 海陽町立博物館企画展示室

観覧者数 640人

資料点数 500点（パネル含）（館蔵資料30点）

#### ●移動展「朱を考古学する — 弥生時代の辰砂採掘遺跡群の実像に迫る —」

主催 徳島県教育委員会

（教育文化政策課・博物館）

協力 阿南市文化振興課

期間 平成27年12月9日（水）

～平成28年1月6日（水）

会場 阿南市文化会館 ラウンジ

観覧者数 500人

資料点数 42点（館蔵10点）



「朱を考古学する」展示風景

#### 関連行事

##### 記念講演会

「朱を考古学する ― 弥生時代の辰砂採掘遺跡群  
の実像に迫る―」

日時 12月26日（土）  
13：30～16：00

会場 阿南市文化会館 視聴覚室

参加者 250人

##### 基調講演

「朱を考古学する」  
高島芳弘（当館）

##### 報告

「古代における朱の使用方法」  
西本和哉氏（徳島県教育委員会教育文化政策課）  
「なぜ今、朱を考古学するのか」  
早瀬隆人氏（徳島県教育委員会教育文化政策課）  
「阿南市長生町採集の辰砂採掘道具について」  
岡本治代（当館）  
「阿南市の弥生時代と辰砂採掘遺跡群」  
向井公紀氏（阿南市文化振興課）

## 6. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

### (1) 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は

乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」（中規模な展示更新）を行った（年報19号参照）。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。

大規模な展示更新が見込めないなかで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った（詳細は(2)参照）。

### (2) 常設展示室のフレッシュアップ（文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」）

26年度に実施した文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の成果を受け、文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の案内表示等の改装・更新を行った。年齢や障がいの有無、国籍の違いにかかわらず、できるだけ多くの人に利用していただけるよう、常設展示室の各種サイン、パネル表示の改装・更新を行った。なお、改装にあたり、9月1日から9月18日までの期間、常設展示室を閉室とした。

主な改装箇所は、以下のとおりである。

#### ①常設展への誘導

1階から2階常設展受付までの床面に、当館のイメージカラーで作った「○」シールを貼り、誘導サインとした。

#### ②博物館正面入口の看板

展示資料のイラストを使って新規作製し、より目立つ場所へ移設した。

#### ③「常設展のごあんない」のサイン

従来のを、配色を調整してより鮮明にし、外国人向けに英語表記を追加した。

#### ④クジラの展示コーナー

常設展入口のロビーに、クジラの骨格標本を展示した。26年度企画展「まんまるワールド」で初公開したイチョウハクジラの骨格標本を常設とした。また、背景となるガラス壁面には、見やすさを考慮してタペストリーを設置した。



⑤床面の誘導サイン

常設展入口のロビー床面に、総合展示、ラプラタ記念ホール、部門展示、トイレへの案内誘導サインを貼った。

⑥ラプラタ記念ホール入口柱の案内看板

ラプラタ記念ホール、部門展示、トイレへの案内看板を新たに設置した。ここに部門展示のポスターが掲示できるようにした。

⑦総合展示入口の看板

総合展示の入口が明確にわかるように、新たに看板を設置した。

⑧自立式サイン

総合展示のゾーン7つと、ラプラタ記念ホールについて、解説文をそなえた自立式サインを設置し、それぞれの境界を明確にした。

⑨項目解説パネル

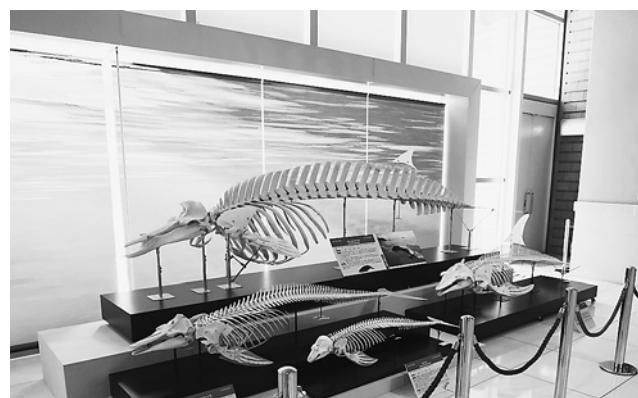
デザインを一新し、とくに弱視の方に見やすい配色にした。

⑩QRコード

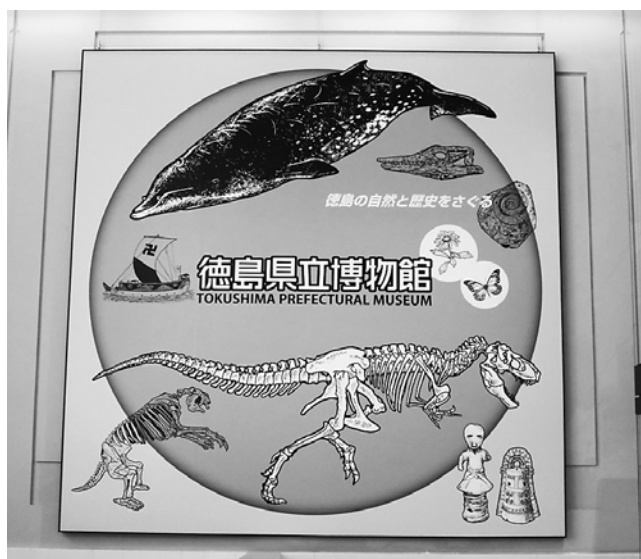
各所にQRコードを設置し、スマートフォンなどを用いて展示解説の文字情報を5言語（日本語、韓国語、中国語（簡体字）・中国語（繁体字）、英語）で読むことができるようにした。なお、展示室内は「Tokushima Free Wi-Fi（とくしま無料 Wi-Fi）」が使えることとなった。

⑪受付カウンター

カラーシートを貼り、弱視の方に見やすいデザインに修繕した。



クジラの展示コーナー



博物館正面入口の看板



床面の誘導サイン



総合展示入口の看板



QRコード

(3) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の案内表示等を部分的に改装したものの、全面更新が未だ困難な状況にあることから、現行常設展



の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを継続している。27年度は、展示室を利用したイベントの充実や、キッズ・チャレンジコーナーの更新などを行った。

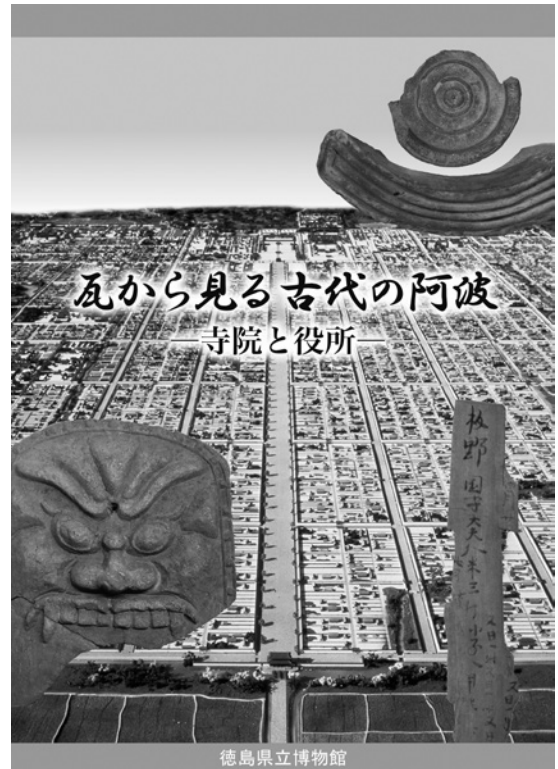
主な取り組みは、以下のとおりである。

- ①部門展示（人文）における多様な展示の展開  
人文、自然のテーマを織り交ぜて6回の展示を行った（詳細は p.3・4 参照）。
- ②阿波の近世絵画の展示替えを3回行った（詳細は p.4 参照）。
- ③チャレンジコーナーの更新  
24年度から低年齢の子どもが利用しやすいよう、「キッズ・チャレンジコーナー」として畳と座卓を設置し、利用者からは好評を得ている。27年度は、展示室の保存環境を考慮して、畳からカーペットマットに交換した。
- ④トピックコーナーの更新  
速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。27年度は更新を7回行った（詳細は p.4・5 参照）。
- ⑤展示解説等の促進
  - ・部門展示「ミャンマーの植物」、「戦争の時代と徳島」、「脱穀用具展」、「白亜紀の化石」、「シカとカモシカ」、「みんなで調べた西日本のタンポポ」で展示解説を実施した。
  - ・20年度から引き続き、常設展示室内数箇所で、手作りのセルフガイドを設置・配布している。

## 7. 展示関係出版物

### ■企画展図録

- 第1回企画展図録 「瓦から見る古代の阿波 — 寺院と役所 —」  
編集・発行 徳島県立博物館  
2015年4月24日発行、A4判83ページ、600部  
友の会増刷200部
- 第2回企画展図録 「阿波木偶箱まわりの世界 — 門付け、大道芸 —」  
編集・発行 徳島県立博物館  
監修 芝原生活文化研究所、阿波木偶箱まわり保存会  
2015年10月27日発行、A4判75ページ、600部  
友の会増刷200部



図録『瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—』（表紙）



図録『阿波木偶箱まわりの世界—門付け、大道芸—』（表紙）

## Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成27年度は、年間97回（中止3回）の普及行事を実施した（他にクイズラリーを24回行った）。新しい内容の行事を行ったり、教員のためのイベントを開催したりして、時代に合った催し物を計画している。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、「歴史散歩」「野外生きものかんさつ」「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域での開催を増やすなどの工夫を行っている。

### 1. 普及行事

#### ■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

9月13日(日)	掛け軸や巻物にしたしもう	6人
10月4日(日)	土器作り①成形	9人
12月19日(土)	土器作り②焼成	7人
1月31日(日)	小学生のための昔の道具しらべ	24人
2月28日(日)	勾玉をつくろう	24人
3月6日(日)	古代の乳製品「蘇」をつくろう	11人



ワクワクむかし体験「掛け軸や巻物にしたしもう」

#### ■歴史散歩

県内を中心に、主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

7月5日(日)	徳島大空襲の史跡を歩こう	18人
9月6日(日)	徳島・美馬の遺跡見学バスツアー	中止
10月4日(日)	伊島を歩こう	14人
11月29日(日)	城下町洲本を歩こう	14人
12月13日(日)	一宮城を歩こう	25人
3月27日(日)	若杉山たんけん	26人



歴史散歩「徳島大空襲の史跡を歩こう」

#### ■野外いきものかんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会を通して学ぶシリーズ。



野外生きものかんさつ「初めての植物かんさつ（晩春編）」



4月19日(日)	中級クラス植物観察会 4月	9人
5月2日(土)	中級クラス植物観察会 5月	8人
5月17日(日)	磯の生きものかんさつ	81人
5月30日(土)	初めての植物かんさつ (晩春編)	19人
6月14日(日)	初めての植物かんさつ (梅雨期編)	14人
6月28日(日)	さがしてみよう! でんでんむし	36人
7月18日(土)	川魚かんさつ	中止
7月25日(土)	中級クラス植物観察会 7月	8人
7月26日(日)	漂着物を探そう!	43人
9月20日(日)	初めての植物かんさつ (秋編)	16人
9月27日(日)	河口の生きもの	46人
11月1日(日)	中級クラス植物観察会 11月	8人
12月12日(土)	中級クラス植物観察会 12月	8人
1月24日(日)	初めての植物かんさつ (冬編)	12人
2月7日(日)	中級クラス植物観察会 2月	10人

11月15日(日)	パイナップルで年賀状を作ろう① 繊維作り	27人
12月6日(日)	リースを作ろう	26人
12月13日(日)	パイナップルで年賀状を作ろう② 紙漉	21人

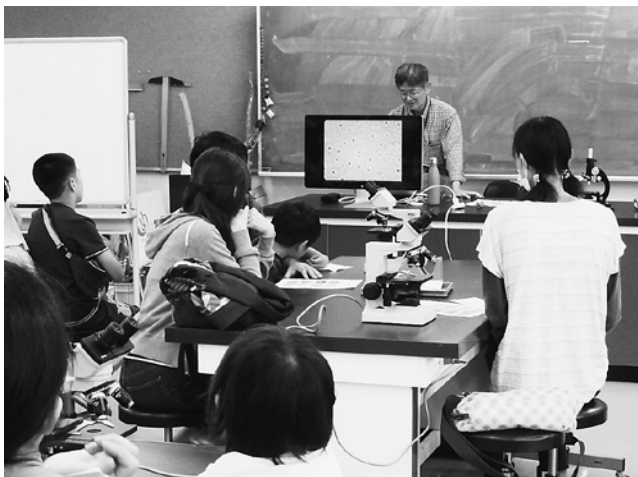


みどりを楽しもう・味わおう  
「パイナップルで年賀状を作ろう 繊維作り」

■ミクロの世界

電子顕微鏡や光学顕微鏡を用い、動植物や化石などを観察し学ぶシリーズ。

7月5日(日)	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	39人
11月29日(日)	電子顕微鏡で昆虫を見よう!	12人
12月20日(日)	電子顕微鏡で化石を見よう!	6人
2月21日(日)	電子顕微鏡で植物を見よう!	15人



ミクロの世界「スンプでかんたん顕微鏡かんさつ」

■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や調理を通して学ぶシリーズ。

7月25日(土)	夏休みの自由研究に! 葉っぱのスタンプとカルタ作り	56人
10月18日(日)	ドングリクッキーを作ろう	29人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。

5月24日(日)	白亜紀の地層見学 【香川県まんのう町】	30人
6月21日(日)	化石のレプリカをつくろう	44人
10月11日(日)	白亜紀の地層見学 【徳島県勝浦町】	23人
10月25日(日)	徳島市中心部の地質見学	8人
3月13日(日)	木の葉化石の発掘体験	32人
3月20日(日)	貝化石のクリーニングをしよう	11人



楽しい地学体験教室「白亜紀の地層見学」

### ■生きものしらべ隊

昆虫や植物などの調べ方、標本の作り方を学び、生きものの専門家をめざすシリーズ。

7月18日(土)	昆虫標本を作ろう(初級)①	中止
7月19日(日)	昆虫標本を作ろう(初級)②	27人
8月1日(土)	植物標本を作ろう①観察・採集	21人
8月2日(日)	植物標本を作ろう②乾燥・名前調べ	23人
8月9日(日)	昆虫標本を作ろう(初級)③	26人
10月25日(日)	落ち葉の中の生きもの	12人

### ■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。

9月20日(日)	江戸幕府と徳島藩の政治改革	34人
12月13日(日)	縄文・弥生移行期の東西交流	23人
2月14日(日)	紀州熊野と阿波 — 中近世の御師文書から —	20人
3月27日(日)	みんなで調べた西日本のタンポポ	4人

### ■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。27年度は、8回セットで実施した。

4月25日(土)	くずし字に親しむ①	21人
5月16日(土)	くずし字に親しむ②	21人
6月20日(土)	古文書を楽しむ③	21人
7月18日(土)	古文書を楽しむ④	19人
9月19日(土)	古文書を楽しむ⑤	12人
10月17日(土)	古文書を楽しむ⑥	17人
11月21日(土)	古文書を楽しむ⑦	13人
12月19日(土)	古文書を楽しむ⑧	16人

### ■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全10回のうち6回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

5月24日(日)	瓦から見る古代の阿波	27人
6月28日(日)	古墳入門	17人
7月26日(日)	出羽島とカツオ漁	39人
8月23日(日)	アクセサリーに魅せられて	10人
10月4日(日)	漂着物学入門	19人
10月25日(日)	海部刀入門	26人
11月22日(日)	古墳時代の武器・武具 — 入門編 —	17人
12月20日(日)	中世の出土銭 — 入門編 —	16人
1月24日(日)	徳島の希少昆虫類	13人
2月28日(日)	古代史入門 — 文字資料は語る —	29人

### ■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

#### ●企画展「瓦から見る古代の阿波—寺院と役所—」 関連行事

4月26日(日)	企画展「瓦から見る古代の阿波」 展示解説	24人
5月3日(日)	天平衣裳を着てみよう!	99人
5月10日(日)	国府の遺跡散歩	28人
5月17日(日)	記念講演会「阿波・淡路の古代寺院 と仏教政策」	104人
5月31日(日)	企画展「瓦から見る古代の阿波」 展示解説	20人
6月7日(日)	企画展「瓦から見る古代の阿波」 展示解説	35人

#### ●企画展「阿波木偶箱まわしの世界」関連行事

11月1日(日)	企画展「阿波木偶箱まわしの世界」 展示解説およびワークショップ (一人遣い人形伝承教室)	58人
11月3日(火)	文化の森大秋祭り!! オープニング 行事「三番叟奉納」	87人
11月15日(日)	企画展「阿波木偶箱まわしの世界」 展示解説およびワークショップ (一人遣い人形伝承教室)	227人
11月22日(日)	門付け芸、大道芸の記念公演	234人

#### ●特別陳列「シェルズ」関連行事

7月20日(月)	特別陳列「シェルズ」展示解説	50人
----------	----------------	-----

#### ●部門展示関連行事

4月19日(日)	部門展示「ミャンマーの植物」 展示解説	20人
5月30日(土)	部門展示「ミャンマーの植物」 展示解説	15人
6月28日(日)	部門展示「戦争の時代と徳島」 展示解説	23人
8月15日(土)	部門展示「戦争の時代と徳島」 展示解説	30人
9月23日(水)	部門展示「脱穀用具展」 展示解説	3人
11月23日(月)	部門展示「白亜紀の化石」 展示解説	18人
2月7日(日)	部門展示「シカとカモシカ」 展示解説	9人
3月21日(月)	部門展示「シカとカモシカ」 展示解説	8人
3月27日(日)	部門展示「みんなで調べた西日本の タンポポ」展示解説	20人





クイズラリー

### ■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

なお未就学児（0～6歳）の参加が年々多くなっているため、27年度より区分して表示する。

4月11日	107人	(未就学58・小49・中0・高0)
4月25日	80人	(未就学27・小45・中6・高2)
5月9日	72人	(未就学21・小46・中4・高1)
5月23日	97人	(未就学38・小57・中2・高0)
6月13日	104人	(未就学41・小57・中5・高1)
6月27日	100人	(未就学44・小52・中4・高0)
7月11日	95人	(未就学38・小55・中2・高0)
7月25日	167人	(未就学77・小86・中4・高0)
8月8日	155人	(未就学74・小71・中10・高0)



文化の森こどもの日フェスティバル  
「昔のあそびいろいろ」

8月22日	140人	(未就学60・小72・中6・高2)
9月12日	106人	(未就学44・小56・中5・高1)
9月26日	104人	(未就学51・小50・中3・高0)
10月10日	124人	(未就学53・小64・中6・高1)
10月24日	120人	(未就学62・小54・中3・高1)
11月14日	120人	(未就学58・小55・中3・高4)
11月28日	96人	(未就学57・小36・中1・高2)
12月12日	97人	(未就学43・小46・中8・高0)
12月26日	103人	(未就学38・小37・中9・高19)
1月9日	116人	(未就学60・小54・中2・高0)
1月23日	149人	(未就学75・小65・中9・高0)
2月13日	84人	(未就学48・小34・中1・高1)
2月27日	89人	(未就学41・小47・中1・高0)
3月12日	88人	(未就学46・小39・中2・高1)
3月26日	114人	(未就学57・小49・中7・高1)
参加者合計	2,627人	(未就学1211・小1276・中103・高37)

### ■その他の普及行事

●文化の森こどもの日フェスティバル 5月5日(火)  
文化の森6館による春期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「化石のクリーニング実演」「魚釣りゲーム」「ミクロの世界」「昔のあそびいろいろ」「しおりをつくろう(友の会と共同)」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「ぬり絵とすごろくで楽しもう!」を行った。

参加者：2,194人

### ●教員のための博物館の日 in 徳島 2015

7月29日(水)

教職員に、博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうことを目的としたイベント。国立科学博物館の提唱により、同館及び趣旨に賛同した各地の博物館で開催されている。当館では、25年度に初めて開催し、3回目となる。(詳細はp.25参照)。

参加者：32人

●夜の博物館 ドキドキ体験ツアー 8月1日(土)  
夜間の常設展、企画展、地学収蔵庫を解説付きで見学した。

参加者：72人

●標本の名前を調べる会 8月22日(土)  
毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか4名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者：56組

### ●文化の森サマーフェスティバル 8月23日(日)

文化の森6館による夏期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、普段見ることができない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館わくわくバックヤードツアー」を実施した。また、2階常設展示室において「恐竜の大型模型づくり」「博物館資料のプラバンをつくらう!」「土器や石器をさわってみよう!」「木や草でハガキを作ろう」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「民族衣装でコスプレ!」を、それぞれ行った。

参加者：1,918人

### ●文化の森 大秋祭り!! 11月3日(火)

文化の森6館による秋期の共同イベントで、オープニング行事として、阿波木偶箱まわし保存会による「三番叟奉納」を行った。また、各館を回るウォークラリーをはじめ、博物館では、2階常設展示室において「博物館資料のレプリカをつくらう!」「古代人に変身!」「標本をさわってみよう! タッチング・コーナー」「博物館わくわくバックヤードツアー」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「絵あわせパズルと馬頭琴ばとうきんを体験してみよう!」を、それぞれ行った。

参加者：1,249人

### ●文化の森ウィンターフェスティバル 2月11日(木)

文化の森6館による冬期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による企画「博物館Vキングー恐竜と古代ー」を実施した(詳細はp.48・49参照)。

参加者：1,168人

### ●科学体験フェスティバル in 徳島への出展

徳島大学で開催された第19回科学体験フェスティバル in 徳島(8月8日(土)~9日(日))に、「博物館資料のレプリカを作ろう!」をボランティアスタッフとの協働で出展した。参加者には、おゆまる(熱すると



博物館スペシャル「夜の博物館 ドキドキ体験ツアー」

やわらかくなる樹脂)でアンモナイトや寛永通宝のレプリカをつくってもらい、博物館資料や博物館の活動について理解を深めてもらった(詳細はp.48参照)。

参加者：1,723人(8日686人、9日1,037人)

ボランティアスタッフ数：

20人(8日10人、9日10人)

## 2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12~13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携(博学連携)のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

25年度に四国で初めて実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」を、27年度も継続して行った。このイベントを開催することにより、教職員に博物館の施設や事業、資料などについての理解を深めてもらい、授業など学校における活動に博物館を活用する方法を知ってもらうことを目指した。



遠足「受付案内員による解説」

## (1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- ①上八万小学校（徳島市） 5月15日（金）  
5年生 53人  
メダカと環境（講師：佐藤）
- ②上八万小学校（徳島市） 5月15日（金）  
3年生 56人  
昆虫の体とつくり（講師：山田）
- ③論田小学校（徳島市） 5月19日（火）  
3年生 64人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④わかかさ幼稚園（徳島市） 10月27日（火）  
園児 53人  
虫取り・秋の自然に触れる（講師：山田）
- ⑤吉井小学校（阿南市） 11月5日（木）  
6年生 12人  
認め合う心（三番叟まわし）（講師：庄武）
- ⑥柿原小学校（阿波市） 11月24日（火）  
6年生 28人  
大地のつくりと変化（講師：中尾）
- ⑦王地小学校（三好市） 11月27日（金）  
6年生 19人  
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑧不動小学校（徳島市） 11月27日（金）  
3年生 14人  
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑧八万南小学校 徳島市 2月3日（水）  
3年生 95人  
昔の道具とくらし（講師：庄武）

## (2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①渋野小学校（徳島市） 4月24日（金）  
1～6年生 245人  
タンポポ調査（講師：小川）
- ②見能林小学校（阿南市） 4月28日（火）  
6年生 68人  
大昔のくらし（講師：高島）
- ③山城中学校（三好市） 5月1日（金）  
1年生 24人

植物とはどんな生物だろう（講師：小川）

- ④川島小学校（吉野川市） 5月8日（金）  
6年生 38人  
縄文のむらから古墳の国（講師：岡本）
- ⑤八万南小学校（徳島市） 5月15日（金）  
3年生 95人  
大好き八万（講師：磯本）
- ⑥山城小学校（三好市） 6月3日（水）  
3年生 21人  
モンシロチョウの育ちとつくり（講師：山田）
- ⑦山城小学校（三好市） 6月3日（水）  
1・2年生 20人  
身近な昆虫（飼い方）（講師：山田）
- ⑧徳島市立高等学校（徳島市） 6月5日（金）  
2年生 34人  
律令国家への道（講師：岡本）
- ⑨広野小学校（名西郡神山町） 6月25日（木）  
4～6年生 37人  
水生生物の調査（講師：山田）
- ⑩徳島中学校（徳島市） 6月30日（火）  
2年生 166人  
戦争と平和「命の大切さ」（講師：長谷川）
- ⑪徳島市立高等学校・徳島大学（徳島市）  
7月23日（木）  
高校1・2年生及び徳島大学留学生 25人  
徳島の都市形成（歴史研究部課外活動）（講師：松永）
- ⑫放課後子ども教室「相生子どもクラブ」（那賀町）  
8月5日（水）  
1～4年生 20人  
昆虫のお話（1～4年）（講師：山田）
- ⑬平島児童クラブ（阿南市） 8月6日（木）  
1～6年生 50人  
昆虫講座（講師：山田）
- ⑭見能林小学校（阿南市） 9月9日（水）  
3年生 67人  
昆虫と植物（講師：山田）
- ⑮徳島大学あゆみ保育園（徳島市） 9月11日（金）  
保育園児 19人  
園外保育（ミニ遠足）河口の生きもの  
（講師：佐藤・山田）
- ⑯八万小学校（徳島市） 9月12日（土）  
1～6年生 13人  
アンモナイトワールド（講師：辻野）
- ⑰加茂名中学校（徳島市） 9月15日（火）  
2年生 146人  
平和学習（徳島大空襲）（講師：松永）
- ⑱津田小学校（徳島市） 9月24日（木）



- 3年生 123人  
昆虫教室（講師：山田）
- ①⑨川内中学校（徳島市） 9月29日（火）  
2年生 165人  
戦争から平和を学ぶ（講師：松永）
- ②⑩方上小学校（徳島市） 10月23日（金）  
5・6年生 57人  
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ②⑪助任小学校（徳島市） 10月29日（木）  
6年生 131人  
おそいかかる空襲（講師：松永）
- ②⑫新町小学校（徳島市） 11月18日（水）  
3年生 19人  
新町川たんけん（講師：佐藤）
- ②⑬柿原小学校（阿波市） 11月18日（水）  
6年生 28人  
大地のつくりと変化（講師：中尾）
- ②⑭論田小学校（徳島市） 11月25日（水）  
6年生 50人  
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）
- ②⑮桑島小学校（鳴門市） 12月11日（金）  
6年生 38人  
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ②⑯岩脇小学校（阿南市） 12月16日（水）  
6年生 44人  
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）
- ②⑰上八万小学校（徳島市） 1月16日（土）  
3～6年生 7人  
昆虫標本づくり（講師：山田）
- ②⑱山瀬小学校（吉野川市） 1月19日（火）  
3年生 36人  
変わるわたしたちの暮らし（講師：庄武）
- ②⑲津田小学校（徳島市） 1月26日（火）  
3年生 127人  
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ③⑩羽ノ浦小学校（阿南市） 1月26日（火）  
3年生 97人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑪川田小学校（吉野川市） 1月27日（水）  
3年生 10人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑫大松小学校（徳島市） 1月27日（水）  
3年生 67人  
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ③⑬福島小学校（徳島市） 2月2日（火）  
3年生 89人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑭鴨島小学校（吉野川市） 2月3日（水）  
3年生 62人  
昔のくらし～昔の道具について調べよう～  
（講師：磯本）
- ③⑮川島小学校（吉野川市） 2月4日（木）  
3年生 42人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑯北島南小学校（北島町） 2月8日（月）  
3年生 80人  
さぐってみよう昔のくらし（講師：磯本）
- ③⑰西麻植小学校（吉野川市） 2月9日（火）  
3年生 16人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑱見能林小学校（阿南市） 2月16日（火）  
3年生 67人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ③⑲牛島小学校（吉野川市） 2月16日（火）  
3年生 12人  
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ④⑩知恵島小学校（吉野川市） 2月17日（水）  
3年生 19人  
変わるわたしたちの暮らし（講師：磯本）
- ④⑪吉井小学校（阿南市） 2月18日（木）  
3年生 15人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑫一宮小学校（徳島市） 2月19日（金）  
3年生 10人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑬山城小学校（三好市） 2月24日（水）  
3年生 11人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑭徳島聴覚支援学校小学部（徳島市） 2月26日（金）  
2・3年生 2人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑮林崎小学校（鳴門市） 3月1日（火）  
3年生 54人  
古い道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑯昭和小学校（徳島市） 3月4日（金）  
3年生 77人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ④⑰里浦小学校（鳴門市） 3月23日（水）  
3年生 21人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）

## (3) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

- ①川内中学校（徳島市） 4月20日～5月11日  
貸出資料：ナウマンゾウ化石（レプリカ）1、石鏃17、復元青銅器（銅鐸1、銅剣1、銅戈1、銅矛1）計22点  
使用目的：中1社会科（授業提示用）
- ②勝浦中学校（勝浦町） 6月6日～6月14日  
貸出資料：復元青銅器（銅剣1・三角縁神獣鏡1）、須恵器1 計3点  
使用目的：中1社会科（授業に使用）
- ③鳴門教育大学附属中学校（徳島市） 6月2日～6月5日  
貸出資料：復元三角縁神獣鏡1・忌部山古墳出土須恵器4 計5点  
使用目的：中1社会科（歴史分野授業で活用）
- ④加茂名中学校（徳島市） 9月10日～9月24日  
貸出資料：焼夷弾破片1・徳島大空襲の遺物2・写真パネル11 計14点  
使用目的：中2総合的な学習（平和学習「徳島大空襲について」の授業で使用）
- ⑤助任小学校（徳島市） 10月20日～10月29日  
貸出資料：戦争被災資料磁器片2、焼夷弾破片1、写真パネル11 計14点  
使用目的：小6（徳島大空襲についての理解を深めるための授業に使用）
- ⑥上八万小学校（徳島市） 10月27日～11月4日  
貸出資料：外国のタマムシ1・外国のカミキリムシ1・腕の長い甲虫1 計3点  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）
- ⑦市場小学校（阿波市） 11月4日～11月16日  
貸出資料：アンモナイトの化石10・三葉虫の化石10・サメの歯化石10 計30点  
使用目的：小6理科（「大地のつくりと変化」で使用）
- ⑧海南小学校（海陽町） 11月8日～11月14日  
貸出資料：アンモナイトノジュール3・アンモナイトの化石15・三葉虫の化石15・サメの歯化石15・ナウマン象歯レプリカ1・植物化石1 計50点  
使用目的：小6理科（「大地のつくりと変化」で使用）
- ⑨上八万小学校（徳島市） 11月14日～11月24日

貸出資料：タヌキ、キツネ、ハクビシン、ニホンザル仮剥製ニホンカモシカ仮剥製カモシカ頭骨、ニホンカモシカ頭骨、イノシシ頭骨ニホンジカ角メダカ・カダヤシ貸出用模型 計12点

使用目的：小全理科（学校展示で使用）

- ⑩上八万小学校（徳島市） 11月14日～11月24日  
貸出資料：外飛ぶ種子浮かぶ種子標本 一式  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）
- ⑪上八万小学校（徳島市） 12月8日～12月11日  
貸出資料：ナウマン象臼歯（複製）1・トウキョウホタテ1 計2点  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）
- ⑫海部高等学校（海陽町） 1月10日～1月20日  
貸出資料：兵庫北関入船納帳（複製）写真 計3点  
使用目的：文部科学省「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」における徳島県立総合教育センターを配信拠点とするテレビ会議システムによる遠隔授業の教材として使用。
- ⑬上八万小学校（徳島市） 1月19日～1月22日  
貸出資料：ボストリコセラス1・イグアナドン科恐竜の歯1・プテロトリゴニア（二枚貝）1・クラドフレビス（シダ植物）1 計4点  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）
- ⑭川島小学校（吉野川市） 1月30日～2月4日  
貸出資料：糸車1 計1点  
使用目的：小1国語（学習資料として活用）
- ⑮八万小学校（徳島市） 2月5日～2月16日  
貸出資料：羽釜1・箱膳1・飯櫃1・こて1・炭火アイロン1・たらい1・わらざうり1・竿秤1・箱まくら1・置き炬燵1 計10点  
使用目的：小3社会科（「昔の道具とくらし」の授業で使用）
- ⑯鳴門教育大学附属中学校（徳島市） 2月22日～3月4日  
貸出資料：火縄銃 計1点  
使用目的：中1社会科（歴史授業で使用）
- ⑰上八万小学校（徳島市） 2月23日～2月26日  
貸出資料：ディデイモセラス1・アンモナイト10・三葉虫10・オウムガイ1 計22点  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）
- ⑱上八万小学校（徳島市） 3月15日～3月18日  
貸出資料：モルフォチョウ2・チョウの擬態1・ガはどれでしょう1 計4点  
使用目的：小全理科（学校展示で使用）

#### (4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| ①南部中学校（徳島市）       | 5月20日～22日  |
| 3年生 3人            |            |
| ②徳島中学校（徳島市）       | 6月3日～4日    |
| 3年生 2人            |            |
| ③鳴門教育大学附属中学校（徳島市） | 7月1日～3日    |
| 2年生 3人            |            |
| ④城西中学校（徳島市）       | 7月7日～8日    |
| 2年生 3人            |            |
| ⑤八万中学校（徳島市）       | 7月8日～10日   |
| 3年生 3人            |            |
| ⑥徳島中央高等学校（徳島市）    | 7月28日～30日  |
| 1年生 1人            |            |
| ⑦城東高等学校（徳島市）      | 8月1日～2日    |
| 1年生 1人            |            |
| ⑧城ノ内中学校（徳島市）      | 11月19日～20日 |
| 3年生 2人            |            |



職場体験「化石クリーニング」

#### (5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

- ①教員のための博物館の日 in 徳島2015  
 （大学・研究機関等研修、10年次研修）  
 7月29日（水） 参加者32人
- ・博物館を活用しよう（講師：真鍋）
  - ・自然の不思議：植物のタネと実（講師：茨木）
  - ・大昔の暮らしを学ぼう（講師：岡本）
  - ・ワクワク博物館ツアー（講師：佐藤・長谷川）
  - ・学校向け貸出資料を知ろう（講師：学芸員全員）

- ②徳島県小学校教育研究会理科部会夏期臨地研修会  
 8月5日（水） 参加者20人  
 ・昆虫分野の講義と見学（講師：山田）
- ③板野郡小学校教育研究会理科部会研修会  
 8月20日（木） 参加者30人  
 ・昆虫について、施設見学（講師：山田）



徳島県小学校教育研究会理科部会夏期臨地研修会

#### (6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることとしている。

### 3. 普及教育関係出版物

#### (1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する"Culture Club"、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ（全ページカラー）で9,000部を印刷している。

平成27年度は、次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 99（2015年6月25日発行）

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 表紙           | アダンソンオキナエビス      |
| Culture Club | 未知の大地 ミャンマーの花々   |
| 特別陳列         | シュルズ             |
|              | — 貝類の現在と過去をさぐる — |



- 館蔵品紹介 絵はがき「徳島名物盆踊り」  
 情報ボックス 阿南市北の脇海岸に埋められていた古銭  
 Q & A 高野山に、徳島から運ばれた石碑があるそうですが、どんなものですか？

● No. 100 (2015年9月25日発行)

- 表紙 「三番叟まわし」用具一式  
 Culture Club 徳島県産オヤニラミの生物地理学的研究  
 企画展 阿波木偶箱まわしの世界 一門付け、大道芸 一  
 館蔵品紹介 アンモナイトの顎器  
 情報ボックス 文化の森が開園 25 周年を迎えます  
 Q & A 最近、徳島県で新たな外来昆虫が確認されたそうですが、何ですか？

● No. 101 (2015年12月1日発行)

- 表紙 狩野派粉本「楓に大瑠璃」、「二見ヶ浦・壇芝瑞」  
 Culture Club 徳島藩の改革とその評価 一 改革は失敗？それとも成功？ 一  
 情報ボックス 常設展の一部をフレッシュアップしました！  
 野外博物館 ウミホタル  
 館蔵品紹介 北海道の石器

● No. 102 (2016年3月25日発行)

- 表紙 徳島県産タガメ  
 Culture Club 内モンゴル・遼寧省旅行記究  
 企画展 自然だいすき！みんなの自然コレクション  
 館蔵品紹介 笠井新也関係資料  
 情報ボックス 博物館資料と市町村合併  
 Q & A 常設展の入口にある「徳島藩江戸上屋敷」とは何ですか？

(2) その他

●年間催し物案内

1 年間の普及行事予定を掲載した A4 判ちらし。7 万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3 判または A4 判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

## 4. 徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年4月から27年3月まで、金曜日の夕刊に「こども新聞」を掲載してきた。博物館ではこのコーナーの執筆及び編集協力（テーマ選定、校閲）を行ってきた。27年度、博物館の協力により掲載された記事は24本である（詳細は p. 33~36 参照）。

## Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

### 1. 課題調査

平成27年度は、次の2つの課題調査を行った。

#### (1) 祖谷地方の在来作物

##### — 保全と活用に向けて —

祖谷地方は、四国山地に位置し、秘境ともいわれ、山深い地勢の中で特有の農耕を営んできた地域である。限られた耕作地の中で、1950年代まで焼畑農耕が行われ、ソバ、ヒエ、アワ、キビなどの雑穀類や芋類、また換金作物としてのミツマタなどを栽培してきた。これらの作物の中には、東アジア一帯の山間地で栽培されてきた作物と共通する品種も見られ、日本の農耕文化の成り立ちや、作物の伝播について考える重要な要素とされている。また、斜面の畑地で栽培されるジャガイモについては、祖谷で栽培しなければ味が変わるといわれ、山間地ならではの土地条件に適した栽培品種を育んできたといわれている。

これら在来作物の中には、これまで明確に記録されてこなかったものや、品種の位置づけがあいまいなものも多い。また近年、祖谷での在来作物は、農耕形態の変化や地域の過疎高齢化に伴い栽培されなくなる傾向にある。

本調査では、祖谷地方の在来作物についての網羅的な記録作成を目指し、在来作物の品種、栽培方法と栽培現況、利用方法についての聞き取り調査及び作物の標本収集を行った。調査で得た情報の蓄積、解析がすすめば、特産物としての商品化や過疎高齢化にも対応できる省力化した栽培方法の開発につながる基礎資料

を提示でき、在来作物の保全と活用、さらには地域の活性化に貢献できると考えている。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：庄武憲子（民俗）

茨木 靖（植物）

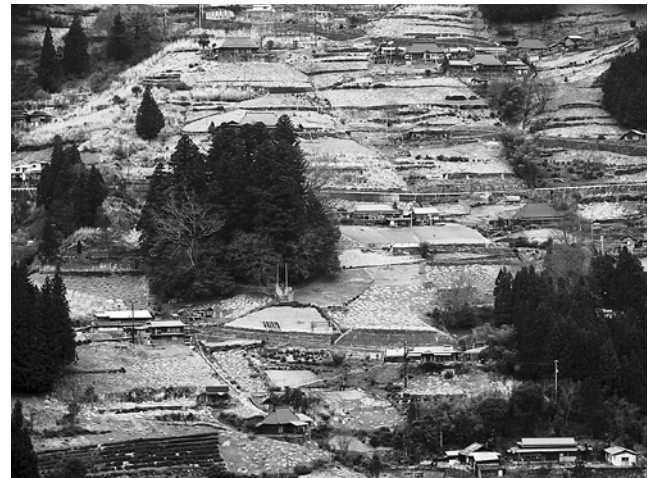
館外調査員：梅本信也氏（京都大学フィールド科学教育研究センター里域生態系部門）

藤川和美氏（高知県立牧野植物園）

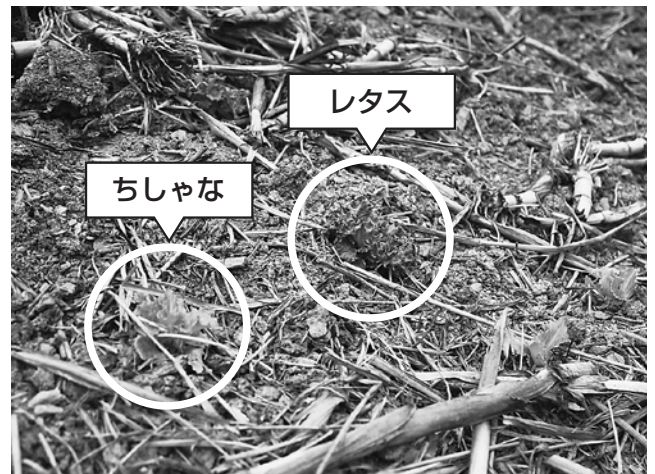
#### ●調査の概要及び成果

第1回調査 徳島県三好市 3月30日

26年度の調査と合わせ、穀類、豆類のほかに<sup>そさい</sup>蔬菜類についても多種の新しい品種とともに昔ながらの品種を栽培していることがわかった。また、山菜類について特徴的なものを利用しており、その一部を当館研究



東祖谷落合の畑地



東祖谷栗枝渡での「ちしゃな」と「レタス」(栗枝渡)



報告に掲載した。今後他地域の状況と比較することで、より祖谷地域に特徴的な作物の概要が明確になると考えている。

## (2) 徳島県のタンポポの分布調査

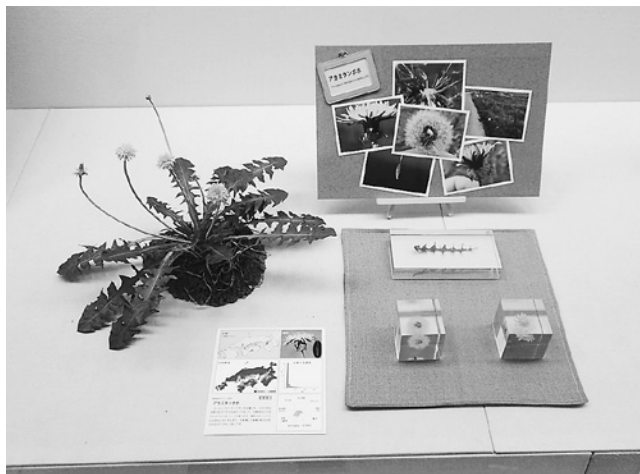
県内には、カンサイタンポポやシロバナタンポポなどの在来種と、セイヨウタンポポやアカミタンポポなどの外来種が生育している。この在来種と外来種のタンポポの割合を調べることにより、都市化の度合いを把握することができる。

平成20・21年に行われた「タンポポ調査・西日本2010」では、外来種の割合は西日本において徳島県が最も低い結果となり、良い自然環境が残されていることが明らかとなった。

その5年後の26年度末からは、「タンポポ調査・西日本2015」が開催され、徳島県でもこれにあわせて調査を始めた。これにより、前回の「タンポポ調査・西日本2010」と比較することにより、変化の動向・推移を把握することが可能であると考えられる。調査によって得られた成果は、自然環境の変化を考察する上で、貴重な基礎データとなるであろう。



タンポポ調査の成果報告を案内するチラシ



トピックコーナーでの小展示「タンポポ調査がはじまります」の様子

調査にあたっては27年度全国科学博物館活動等助成事業を申請し、助成を受けた。山間部などの調査が入らない地域の調査のための旅費や、展示用のタンポポのアクリル封入標本の購入などに活用した。

なお、この調査は市民参加型調査であり、県民のみなさんに調べてもらうことで、身の回りの自然環境や生物多様性に関心をもってもらおうという効果が期待できる。

### ●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物）

### ●調査概要

- ①「タンポポ調査・西日本2015」実行委員会と打ち合わせをしながら、調査方法、調査用紙のフォーマットを決めた。
- ②現地調査は、26年と27年の2回実施し、調査期間は、それぞれ3月1日から5月31日までとした。
- ③徳島県では、徳島県立博物館が県の調査事務局となり、調査の呼びかけやデータの集約を行うこととした。
- ④当館トピックコーナーでの小展示「タンポポ調査がはじまります」を、26年3月4日（火）～6月1日（日）まで行い、調査の参加を呼びかけた。
- ⑤27年3月1日より「タンポポ調査・西日本2015」を開始した。前回の「タンポポ調査・西日本2010」を上回るペースで、調査用紙が寄せられた。
- ⑥26、27両年の調査で、徳島県で7,410枚の調査用紙が集まった（前回の「タンポポ調査・西日本2010」では7,371枚）。また、参加者数は約626人（前回は502人）であった。前回の調査と比べ、参加者の広がりや関心の高まりをうかがう事ができる。
- ⑦集まった調査用紙をデータ化し、西日本で集約して、結果の検討を行った。
- ⑧西日本全体で調査結果をまとめ、調査報告書およびA3両面カラーのパンフレットを作成した。
- ⑨徳島県の報告用チラシ80,000枚作成し、県内各小・中学校の全児童・生徒に配布した。
- ⑩28年3月23日（水）～5月29日（日）に部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」を開催した。それに合わせて、ミュージアムトーク「みんなで調べた西日本のタンポポ」、展示解説「西日本のタンポポ」を実施し、多くの県民のみなさんに調査結果を紹介した。



## 2. 分野別（個別）調査研究

### 佐藤陽一（動物・脊椎動物）

#### ①徳島県淡水魚類相調査

園瀬川および鮎喰川等で魚類相調査を行った。

#### ②徳島県希少野生生物生息状況調査「オヤニラミ」

当館が18年度から開始した徳島県産オヤニラミ調査は、23～25年度にかけては県希少野生生物保護検討委員会のもと集団遺伝学的な状況の把握も進めてきた。26年度からはこれまでの調査成果を活かして、「岡川オヤニラミ再生プロジェクト」（日亜化学、愛媛大学との共同プロジェクト）としても実施することとなった。27年度はこの一環として、桑野川の県天然記念物指定区間下流の生息状況および外来個体群の生息する支川南川の調査を行った。

#### ③徳島県希少野生生物生息状況調査「オオウナギ」

近年、県南地域において確認事例が続いているオオウナギの生息環境を把握する目的で、文献記録等の調査および水質調査を行った。文献記録等のこれまでの生息記録は、『徳島県立博物館研究報告』第26号に「徳島県におけるオオウナギの記録」としてまとめた。

#### ④アゴヒゲアザラシの迷行記録調査

徳島県に3例ものアゴヒゲアザラシが迷行したことを受けて、その原因を探るためこれまでの全国の迷行記録を整理した。また、和歌山県の迷行場所の視察も行った。成果は『徳島県立博物館研究報告』第26号に「徳島県におけるアゴヒゲアザラシの出現記録」としてまとめた。

### 山田量崇（動物・無脊椎動物）

#### ①南部インドの農業生態系における半翅類の分類と生態に関する研究

有用天敵であるハナカメムシ類を中心とした難同定分類群の同定法の確立と生態的知見の蓄積を行った（インド国立農業昆虫研究所と共同）。

#### ②トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明（科研費助成による研究）

野外調査によって実験及び解析のためのサンプリングを行った。

#### ③外来昆虫の分布拡大経路の解明

徳島に侵入した外来カメムシ類の分布拡大経路を追跡調査した（加藤敦史氏と共同）。

#### ④県産無脊椎動物相の調査

県産のダニ類及びクモ類の標本収集を行った。

### 小川 誠（植物）

#### ①タンポポの分布調査

「タンポポ調査2015・西日本」を実施し、徳島県のタンポポを調査した。合わせて、参加者から集まったデータを集約し、西日本のタンポポの実態を明らかにした。

#### ②市民参加型調査のツールの開発

タンポポ調査など市民参加型調査で活用できるツールを開発した。特に位置情報の記録に大切な世界測地系メッシュの地図を作成し、インターネットで公開した。

#### ③自然に興味をもってもらうためのツールとしてのブラックライトの活用

自然に興味をもってもらうためのツールとしてのブラックライトの活用方法を検討した。その成果を28年度企画展「自然だいすき！みんなの自然コレクション」で展示した。

### 茨木 靖（植物）

#### ①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った（木下覺氏らと共同）。

#### ②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

#### ③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池淵正明氏、濱直大氏らと共同）。

### 中尾賢一（地学）

#### ①新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県で堆積構造の観察と貝化石の採集および二枚貝類の分類学的研究を行った。

#### ②海産無脊椎動物の分類学的・生物地理学的研究

県内外の海岸に打ち上げられている貝類および干潟に生息する貝類を採集し、利用の実態も含めて調査した。

#### ③鳴門海峡海底の貝および脊椎動物化石の調査 分類学的、年代学的検討を行った。

### 辻野泰之（地学）

#### ①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

#### ②徳島県鳴門市および兵庫県南あわじ市で産出するアンモナイト化石に関する研究

特に異常巻きアンモナイト：プラビトセラスに関する研究を行った（東京大学総合研究博物館や北九州市立自然史歴史博物館と共同）。

### ③鳴門市の地質に関する研究

特に鳴門市周辺の和泉層群に関する研究を行った（徳島大学と共同）。

### ④勝浦町および上勝町に分布する物部川層群に関する調査（東北大学と共同）

## 高島芳弘

### ①若杉山遺跡を中心とする徳島県における水銀朱生産関連遺跡の確認調査

辰砂採掘遺跡である若杉山遺跡を中心として、ここから津乃峰山にかけての石柁分布地点の確認調査及び採集資料の再検討を行った。

### ②鳥居龍蔵の慶陵調査の研究

中国内モンゴル赤峰市の慶陵の現況確認、遼寧省博物館に所蔵されている慶陵から発見された哀冊（皇帝、皇后の墓碑）の調査を行うとともに、鳥居龍蔵と緑子による哀冊調査地を確認した。

## 岡本治代（考古）

### ①徳島県における古代瓦の調査

名西郡石井町石井廃寺跡等で出土した古代瓦の調査を行った。

### ②若杉山遺跡を中心とする徳島県における水銀朱生産関連遺跡の確認調査

辰砂採掘遺跡である若杉山遺跡を中心として、ここから津乃峰山にかけての石柁分布地点の確認調査及び採集資料の再検討を行った。

### ③展示室における資料保存環境の管理・調査

奈良大学魚島純一教授と連携し、展示室におけるIPM活動、文化財害虫のトラップ調査を行った。

## 長谷川賢二（歴史）

### ①中世修験道史の研究

修験道史及び中世宗教史の研究史整理を踏まえ、中世後期における熊野三山檢校・聖護院門跡に服属した修験道組織の形成、中世阿波国における山伏集団の展開等について、総括した。

### ②鳥居龍蔵関係資料の調査

鳥居龍蔵記念博物館所蔵資料の整理作業を通じ、鳥居の経歴や未刊原稿の位置づけについて検討した。

### ③四国遍路史の研究

四国遍路形成史についての再検討作業の一環として、15世紀における聖護院道興の四国巡錫の内実を

検討した。

### ④藩撰地誌『阿波志』に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

## 松永友和（歴史）

### ①江戸幕府と徳島藩に関する調査

江戸幕府と徳島藩の政治史に関する文献史料を調査した。その成果の一部は、ミュージアムトーク「江戸幕府と徳島藩の政治改革」で紹介した。

### ②徳島における戦争資料に関する調査

徳島を中心に、戦争に関する文献や資料を調査した。その成果の一部は、部門展示「戦争の時代と徳島」で公表した。

### ③四国遍路に関する調査

四国遍路について、徳島県内の札所寺院や県外の機関に収蔵されている資料を調査した。その成果の一部は、『徳島県立博物館研究報告』第26号に「資料紹介 四国遍路札所寺院の本末争論関係資料について一雲辺寺所蔵文書の紹介と翻刻一」として公表した。

### ④鳴門の渦潮に関する調査

「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会の委員として、歴史分野（人々の往来）を担当し、調査を行った。

### ⑤藩撰地誌『阿波志』に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

## 庄武憲子（民俗）

### ①阿波木偶箱まわしの足跡調査および関係資料に関する調査

阿波木偶箱まわし保存会と共同で、徳島に特徴的な人形文化である三番叟まわしおよび箱廻しの足跡調査および関係資料の調査を行った。成果の一部を企画展「阿波木偶箱まわしの世界 一門付け、大道芸一」で公表した。

### ②祖谷地方の在来作物調査

課題調査として三好市東祖谷、西祖谷山村で作物についての聞き取り調査、採集を行った。

### ③ユニバーサルミュージアムについての取り組み

平成26年度の「みんなで創るユニバーサルミュージアム」事業の成果をふまえ、文化の森施設内表示の更新に取り組んだ。

## 磯本宏紀（民俗）

## ①漁業移住に関する民俗学的研究

漁民の出稼ぎ・移住に関する聞き取り調査、文献調査を行った。漁業移住の実態と、それにもなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

## ②鳴門の獅子舞に関する調査

鳴門市及び周辺地域の獅子舞について、悉皆調査を行った。鳴門市大麻町姫田、北灘町折野、宿毛谷、鳥ヶ丸において聞き取り調査及び観察調査を行った（阿波学会民俗班、徳島大学文化人類学教室及び鳴門市教育委員会との共同調査）。

## ③武知家住宅における民具調査

武知家住宅調査委員会委員として民俗を担当し、武知家所蔵の藍作及び染生産用具をはじめとする生産用具等の調査を行った（石井町教育委員会との共同調査）。

## ④鳴門の渦潮に関連した漁業及び漁民に関する調査

「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会の委員として生業（漁業）を担当し、調査を行った（「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会との共同調査）。

## ⑤海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究

日韓の海の文化体系を比較し、海をめぐる生活文化の類似と相違及びその要因を明らかにすることを目的とする共同研究に参加している（平成27～29年度）。三重県鳥羽市、大韓民国慶尚南道、全羅南道において調査を行い、国立歴史民俗博物館で開催された研究会に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

## ⑥戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究

昭和10年代のアチックミュージアムの水産史研究の実態解明に必要な資料の掘り起こしと既存資料の再評価、活動を推進した研究員やアチック同人の活動の相関関係の把握により、アチックの活動の学術史上の再検討を目的とする共同研究に参加している（平成27～29年度）。静岡県沼津市、鹿児島県喜界町、千葉県外房地方で調査を行った（国際常民文化研究機構共同研究）。

## ⑦鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）

『新鳥取県史 民俗1 民俗編』において執筆した。

## ⑧地域における歴史文化研究拠点の現状と課題に関する研究

28年度以降の共同研究に向けて、日本列島各地お

よび東アジアにおける地域文化の保存・発信の現状を多角的にとらえ、直面している課題についての情報収集をはかることを目的とした共同研究に参加した。高知県高知市、福島県会津若松市での研究会に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

## 大橋俊雄（美術工芸）

## ①森崎家資料の調査

阿波藩の複数の絵師の家に伝えられた粉本類である森崎家資料（館蔵）について、家ごとに分類検討し、江戸時代における阿波の画壇の実態を調査した。

## ②飯塚桃葉に関する調査

18世紀後半に活躍した阿波藩の御用蒔絵師飯塚桃葉について、近年の研究動向、新発見の作品をふまえながら、より具体的な位置づけを検討した。あわせて採用された意匠の意味を検討した。

## ③藤重家に関する調査

阿波蜂須賀家とつながりをもった塗師藤重家について、資料を収集した。とくに東北大学附属図書館にある秋田家史料中の藤重藤元・藤円書状についてその背景を調べた。

## ④刀剣・刀装具などの金工作品、およびそれらの作者の調査

阿波で作られた海部刀、阿波の装剣金工の作品などについて調査した。

## ⑤江戸時代における好古の潮流をめぐる調査

柴野栗山、屋代弘賢、住吉広行など徳島に係わりの深い人物を焦点をあてて、江戸後期における好古の潮流について調べた。

## 3. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）の実施

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。平成27年度は次の通り実施した。

5月26日（火） 中尾賢一「穴内層（高知県安田町）産コロモガイ類の未記載種について」

8月4日（火） 岡本治代「阿波の瓦職人 ― 企画展を通して ―」

9月29日（火） 小川 誠「今なぜ那賀川なのか」

10月7日（水） 高島芳弘「内モンゴル・遼寧省の調



査旅行」

- 2月3日(水) 磯本宏紀「[海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化系の日韓比較研究]とそれにかかわる話題」
- 2月23日(火) 齋藤壮央氏「[知床半島における砂防・治山ダムとオシロコマの生息環境及び頭部形態の関係]

#### 4. 科学研究費補助金等による研究

- 若手研究(B)：トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明(平成25～27年度)  
研究代表者：山田量崇
- 基盤研究(C)化石から探る現生種貝類の起源(平成25～27年度)  
研究代表者：近藤康生(高知大学理学部教授)  
当館の分担研究者：中尾賢一
- 基盤研究(B)：四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較(平成25～28年度)  
研究代表者：寺内 浩(愛媛大学法文学部教授)  
当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和
- 国際常民文化研究機構共同研究(一般)：戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究(平成27～29年度)  
研究代表者：加藤幸治(東北学院大学文学部教授)  
当館の共同研究者：磯本宏紀
- 平成27年度 NFDoneleafund：南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成  
研究代表者：木場英久(桜美林大学大学)  
当館の共同研究者：茨木 靖

#### 5. 他機関との共同研究

- タンポポ調査・西日本2015  
身近な花であるタンポポの分布を調べ、環境の変化などを西日本一帯で調べる取り組み「タンポポ調査2015・西日本」を他機関と協働して行った(徳島県の調査についてはp.28を参照)。  
調査範囲は「タンポポ調査・西日本2010」と同様、福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀の19府県にわたった。各府県で実行委員会を立ち上げ、そこには博物館や大学関係者が参

加した。

各府県の実行委員会が集まり、全体の実行委員会「タンポポ調査・西日本実行委員会」を結成し、当館の小川学芸員が事務局のメンバーとなった。

27年は3月から5月に調査を行い、サンプル検討会やスタッフ会議を通じて、同定の水準を合わせ、調査方法の見直しを行った。また、各府県の実行委員会を入力したデータを当館でチェック、集計した。さらに、各府県の実行委員会から、外来種のタンポポのタネを大阪市立大学に送付し、DNA解析を行い、雑種の割合を調べた。2年間の調査成果をまとめ、カラーチャートと報告書を作成し配布した。

##### ●水銀朱生産関連遺跡の調査

徳島県教育委員会教育文化政策課及び阿南市文化振興課と共同で、若杉山遺跡をはじめとする県内の水銀朱生産関連遺跡、遺物の調査を行った。具体的には、若杉山遺跡をはじめとする徳島県内の水銀朱等赤色顔料生産関連遺跡の踏査を行うとともに、これらの遺跡から出土した石器の調査を行った。

調査成果は、平成27年12月9日(水)から平成28年1月6日(水)まで阿南市文化会館夢ホールで開催した移動展「朱を考古学するー弥生時代の辰砂採掘遺跡群の実像に迫るー」及び、12月26日(土)の記念講演会で県民に紹介した。また、これらの調査成果をまとめた報告書『赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 石器編』(徳島県教育委員会)の作成に協力した。

##### ●部門展示室におけるIPM活動及びトラップ調査

近年、多くの博物館では、害虫による資料への被害を防ぐ方法として、殺虫剤や防虫剤などの薬剤だけに頼るのではなく、定期的な点検や清掃などを組み合わせる「IPM(総合的有害生物管理)」と呼ばれる方法をとっている。当館でもこの流れを受け、文化財用の殺虫剤・防虫剤を適切に使用するとともに、収蔵庫・展示室の定期点検及び清掃を行っている。

本研究では、博物館におけるIPM活動の実践、並びにその効果に関するデータの蓄積を目的とし、奈良大学文学部文化財学科魚島純一教授(保存科学)及び奈良大学の保存科学を専攻する学生と共同で、部門展示室の清掃・トラップ設置作業を行った(詳細はp.42)。今後継続的にトラップ調査を行い、清掃後の文化財害虫の動向を観察する予定である。

## 6. 研究成果の公表

### (1) 徳島県立博物館研究報告第26号の発行

2016年3月29日発行、A4判109ページ、600部

(\*印：館外研究者)

#### 論文

森江孝志\*：那賀町立相生中学校グラウンドで見出された気界アカホヤ火山灰. p. 1-7.

#### 調査報告・資料紹介

中尾賢一：鳴門海峡北西部の海底から得られた貝化石とその<sup>14</sup>C年代. p. 9-15.

大原賢二\*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2015年). p. 17-38.

佐藤陽一・谷田部明子\*・桐畑哲雄\*：徳島県におけるアゴヒゲアザラシの出現記録. p. 39-47.

佐藤陽一：徳島県におけるオオウナギ *Anguilla marmorata* の記録. p. 49-55.

清水孝昭\*：愛媛県瀬戸内海域から得られたイズヒメエイ. p. 57-62.

清水孝昭\*：愛媛県宇和海から得られたイタチザメ幼魚の記録. p. 49-67.

松永友和：四国遍路札所寺院の本末争論関係資料について—雲辺寺所蔵文書の紹介と翻刻—. p. 69-86.

小川 誠：身近な植物で紙を作る新手法. p. 87-95.

西 記代子：イギリス国立海事博物館によるeボラントピアの試みについて. p. 97-100.

#### 短報

茨木 靖・庄武憲子：祖谷地方で食用にされているセイゴナについて. p. 101-103.

茨木 靖・木場英久\*：スズメノナギナタ *Parapholis incurve*(L.) C. E. Hubb. の徳島県への帰化. p. 105-106.

### (2) 公表論文・報告・記事等一覧

(\*印：館外研究者)

#### ●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

佐藤陽一・谷田部明子・桐畑哲雄(2016.3) 徳島県におけるアゴヒゲアザラシ *Erignathus barbatus* の出現記録. 徳島県立博物館研究報告, (26) : 39-47.

佐藤陽一(2016.3) 徳島県におけるオオウナギ *Anguilla marmorata* の記録. 徳島県立博物館研究報告, (26) : 49-55.

長田庸平\*・長島聖大\*・山田量崇(2015.8) オオハネナシヒラタカメムシをカワラタケより採集. *Rostria*, (58) : 65-66.

長田庸平\*・山田量崇(2015.8) ヨコヅナサシガメによるガガンボ類への捕食事例. *Rostria*, (58) : 63-64.

☆ Ballal, C. R. \* & Yamada, K. (2016.3) Chapter 6-Anthocorid Predator. In : Omkar (ed.), *Ecofriendly Pest Management for Food Security*, pp. 183-216. Elsevier, Amsterdam.

☆ Ballal, C. R. \*, Yamada, K. & Joshi, S. \* (2016.3) Morphology and biology of the litter-inhabiting *Buchananiella indica* Muraleedharan (Hemiptera : Anthocoridae). *Entomon*, 41 : 11-20.

大原賢二\*・山田量崇(2016.3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2015年). 徳島県立博物館研究報告, (26) : 17-38.

#### 〈一般著述〉

佐藤陽一(2015.6) シーボルトと日本動物誌. 徳島新聞6月5日夕刊(子ども新聞).

佐藤陽一(2015.8) オヤニラミ. 徳島新聞8月21日夕刊(子ども新聞).

佐藤陽一(2015.9) 徳島県産オヤニラミの生物地理学的研究. 徳島県博物館博物館ニュース (Culture Club), (100) : 2-3.

佐藤陽一(2016.1) ニホンカモシカ. 徳島新聞1月29日夕刊(子ども新聞).

山田量崇(2015.5) 外来陸生カメムシ. 昆虫と自然, 50(6) : 12-15.

山田量崇(2015.5) カ. 徳島新聞5月15日夕刊(子ども新聞).

山田量崇(2015.10) 絹糸を作る蛾. 徳島新聞10月16日夕刊(子ども新聞).

山田量崇(2015.9) 最近、徳島県で新たな外来昆虫が確認されたそうですが、何ですか？ 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (100) : 7.

山田量崇(2015.12) 常設展の一部をフレッシュアップしました！ 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (101) : 4-5.

山田量崇(2016.2). 資料収集における博物館と人とのつながり. 四国ミュージアム研究会編「もっと博物館が好きっ！—みんなと歩む学芸員—」, 教育出版センター : 122-127.

#### ●植物

〈学術的著述〉

小川 誠(2016.3) 身近な植物で紙を作る新手法. 徳島県立博物館研究報告, (26) : 87-95.

茨木 靖・庄武憲子(2016.3) 祖谷地方で食用にされているセイゴナについて. 徳島県立博物館研究報告, (26) p. 101-103.

茨木 靖・木場英久\* (2016. 3) スズメノナギナタ *Parapholis incurve* (L.) C. E. Hubb. の徳島県への帰化. 徳島県立博物館研究報告, (26) : p. 105-106.

〈一般著述〉

小川 誠 (2015. 9) 文化の森が開園25周年を迎えます. 徳島県立博物館ニュース(情報ボックス), (100) : 6

小川 誠 (2015. 11) ナカガワノギク. 徳島新聞11月20日夕刊 (こども新聞).

小川 誠 (2016. 3) タンポポ調査. 徳島新聞3月18日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2016. 3) イネ科. 大橋博好他編. 改訂新版日本の野生植物, 平凡社 : 23-99.

茨木 靖 (2015. 6) 未知の大地ミャンマーの花々. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (99) : 2-3.

茨木 靖 (2016. 3) 自然だいすき! みんなの自然コレクション. 徳島県立博物館ニュース (企画展), (100) : 4.

●地学

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

中尾賢一 (2016. 3) 鳴門海峡北西部の海底から得られた貝化石とその14C年代. 徳島県立博物館研究報告, (26) : p. 9-15.

中尾賢一・西山賢一\* : 洞窟入口の転石の表面形状の観察結果. 佐世保市教育委員会編「史跡福井洞窟発掘調査報告書」: 303.

☆ Tanabe, K\*, Tsujino, Y., Okuhira, K\* & Misaki, A.\* (2015. 7) Apparatus of the Late Cretaceous heteromorph ammonoid *Pravitoceras*. *Journal of Paleontology*, 89 : 611-616.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2015. 6) アダンソンオキナエビス. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (99) : 1.

中尾賢一 (2015. 7) カジトリグルマ. 徳島新聞7月31日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2015. 8) ツツガキ. 徳島新聞8月7日夕刊 (こども新聞)

中尾賢一 (2015. 12) 最近の阿蘇山の噴火. 徳島新聞12月18日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2015. 12) ウミホタル. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (101) : 6.

辻野泰之 (2015. 4) ベレムナイト. 徳島新聞4月17日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2015. 9) アンモナイトの顎器. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (100) : 5.

辻野泰之 (2015. 12) プラビトセラス. 徳島新聞12月5日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2016. 2) 市民 (化石愛好家) との協働による展示会の試み —「みんなの化石コレクション」を例にして—. 四国ミュージアム研究会編「もっと博物館が好きっ! —みんなと歩む学芸員—」, 教育出版センター : 160-166.

●考古

〈学術的著述〉

高島芳弘 (2016. 3) 丹波坑口. 徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 石器編」, 徳島県教育委員会 : 64-67.

岡本治代 (2016. 3) 奥ノ谷遺跡. 徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 石器編」, 徳島県教育委員会 : 80-83.

西本和哉\*・岡本治代 (2016. 3) 赤色顔料採掘技術の実験と復元. 徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 石器編」, 徳島県教育委員会 : 89-94.

〈一般著述〉

高島芳弘 (2015. 12) 朱を考古学する —朱の原料、歴史を探る—. 徳島新聞12月21日朝刊.

高島芳弘 (2016. 2) 鳥居龍蔵知の遺産 記念博物館開館5周年展から6 遼皇帝の墓碑の拓本. 徳島新聞2月16日朝刊.

高島芳弘 (2016. 3) 中国東北部、内モンゴル旅行記. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (102) : 2-3.

岡本治代 (2015. 5) 瓦から見る古代の阿波. 徳島新聞5月1日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2015. 9) 博物館の資料を守る. 徳島新聞9月4日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2015. 12) 北海道の石器. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (101) : 7.

岡本治代 (2016. 2) 鳥居龍蔵知の遺産 記念博物館開館5周年展から5 遼の瓦と磚. 徳島新聞2月15日朝刊.

岡本治代 (2016. 2) 阿南市寺田山古墳. 徳島新聞2月19日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2016. 2) 何ができるか、何をすべきか —考古学と現代—. 四国ミュージアム研究会編「もっと博物館が好きっ! —みんなと歩む学芸員—」, 教育出版センター : 250-255.

●歴史 (☆: 査読付学術雑誌)

〈学術的著述〉

長谷川賢二 (2015. 9) 阿波国諸名字帳; 竜寿院諸国旦那帳; 四国先達・旦那帳. 阪本敏行・長谷川賢二編「熊野那智御師史料 —旧宝蔵院所蔵史料の翻刻と解題—」, 岩田書院 : 49-57, 85-106.



長谷川賢二 (2016. 3) 「修験道組織の形成と地域社会」, 岩田書院 : 320p.

☆松永友和 (2015. 8) 天保上知令と大坂代官. ヒストリア, (251) : 29-56.

松永友和 (2016. 3) 資料紹介 四国遍路札所寺院の本末争論関係資料について—雲辺寺所蔵文書の紹介と翻刻—. 徳島県立博物館研究報告, (26) : 69-86.

#### 〈一般著述〉

長谷川賢二 (2015. 5) 高野山に運ばれた阿波の板碑. 徳島新聞 5月29日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2015. 6) 高野山に、徳島から運ばれた石碑があるそうですが、どんなものですか? 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (99) : 7.

長谷川賢二 (2015. 8) 空海の世界 高野山1200年至宝展から—3 灌頂暦名写; 4 弘法大師入定図; 5 御草履 伝弘法大師所持. 徳島新聞 8月12日; 8月13日; 8月14日朝刊.

長谷川賢二 (2015. 9) 本の紹介: 世界人権問題研究センター編「職能民へのまなごし」. 部落解放, (714) : 60-61.

長谷川賢二 (2015. 9) 修験道史研究の歩み; 山伏集団の形成と諸相; 必読文献案内二〇選. 時枝務・長谷川賢二・林淳編「修験道史入門」, 岩田書院 : 33-50, 93-108, 205-213.

長谷川賢二 (2016. 2) 鳥居龍蔵知の遺産 記念博物館開館5周年展から2 貴州省苗人分布図. 徳島新聞 2月12日朝刊.

長谷川賢二 (2016. 2) 結集と討議の原点をかえりみて—四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流集会と四国ミュージアム研究会のこと—. 四国ミュージアム研究会編「もっと博物館が好きっ! —みんなと歩む学芸員—」, 教育出版センター : 319-331.

長谷川賢二 (2016. 3) 笠井新也関係資料. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (102) : 5.

松永友和 (2015. 7) 空襲と徳島. 徳島新聞 7月3日夕刊 (こども新聞)

松永友和 (2015. 12) 徳島藩の改革とその評価—改革は失敗? それとも成功?—. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (101) : 2-3.

松永友和 (2016. 2) 鳥居龍蔵知の遺産 記念博物館開館5周年展から3 有史以前の日本. 徳島新聞 2月10日朝刊

松永友和 (2016. 2) 地域・家の歴史と博物館展示—部門展示「富岡町本吹田家の歴史」を通して—. 四国ミュージアム研究会編「もっと博物館

が好きっ! —みんなと歩む学芸員—」, 教育出版センター : 29-34.

松永友和 (2016. 3) 常設展の入口にある「徳島藩江戸上屋敷」とは何ですか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (102) : 7.

#### ●民俗

##### 〈学術的著述〉

竹内利夫\*・庄武憲子 (2015. 12) 「誰にも」の一人一人を思いながら: 徳島のユニバーサルミュージアムの取り組み (特集 誰にもやさしい博物館のあり方). 博物館研究, 50 (12) : 10-13.

磯本宏紀 (2016. 3) 阿讃国境地域の生業と信仰をめぐる交流—阿波から讃岐、讃岐から阿波への人の移動と交流—. 徳島地域文化研究, (14) : 1-13.

磯本宏紀 (2015. 11) 徳島県旧木沢村のカラサオから地域情報をよみとる. 民具研究, (152) : 25-30.

磯本宏紀 (2015. 11) 書評: 田辺悟著「民具学の歴史と方法」. 民具研究, (152) : 153-156.

磯本宏紀 (2015. 3) 海部郡域の「箱廻し」追跡調査、「北山式三番操」と墨書された御幣. 「阿波木偶箱まわし」伝承推進実行委員会編「2014年度『阿波木偶箱まわし』伝承推進事業報告書—さらなる伝承に向けて—」, 「阿波木偶箱まわし」伝承推進実行委員会 : 37-42, 268-269.

##### 〈一般著述〉

庄武憲子 (2015. 9) 「三番叟まわし」用具一式. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (100) : 1.

庄武憲子 (2015. 9) 阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸—. 徳島県立博物館ニュース (企画展), (100) : 4.

庄武憲子 (2015. 11) 阿波木偶箱まわし. 徳島新聞 11月13日夕刊 (こども新聞).

庄武憲子 (2016. 1) みんなで創るユニバーサルミュージアム事業. 留学生交流拠点整備事業運営スタッフ編「平成25-27年度文部科学省留学生交流拠点整備事業 多文化共生のまちづくり未来への第一歩」: 42-45.

磯本宏紀 (2015. 6) 絵はがき「徳島名物盆踊り」. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (99) : 5.

磯本宏紀 (2015. 8) 年中行事8: 踊り念仏. 徳島新聞 8月4日朝刊.

磯本宏紀 (2015. 9) 出羽島とカツオ漁. 徳島新聞 9月18日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2016. 3) 漁業; 漁師の生活・作業空間; 龍神信仰; 船霊信仰; 美保関信仰. 鳥取県公文書館県史編さん室編「鳥取県史民俗1 民俗編」, 鳥取県 : 274-291, 470-479, 645-649, 649-654, 678-

681.

磯本宏紀 (2016.3) 新刊紹介: 青木中著「むらのくらし—ふるさと賛歌第2集—」. 徳島地域文化研究, (14): 124-127.

磯本宏紀 (2016.3) 博物館資料と市町村合併. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (102): 6.

磯本宏紀 (2016.3) ひな祭り. 徳島新聞 3月4日夕刊 (こども新聞).

#### ●美術工芸

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

☆大橋俊雄 (2015.11) 「宇治の蜩—漆芸意匠における意味—」. 漆工史, (38): 8-17.

〈一般著述〉

大橋俊雄 (2015.8) 空海の世界 高野山 1200 年至宝展から—1 弘法大師坐像 (萬日大師); 2 両界曼荼羅図 (血曼荼羅). 徳島新聞 8月10日; 8月11日朝刊.

大橋俊雄 (2015.11) 粉本. 徳島新聞 11月27日夕刊 (こども新聞).

大橋俊雄 (2015.12) 狩野派粉本 「楓に大瑠璃」 「二見ヶ浦・壇芝瑞」. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (101): 1.

### (3) 学会・研究会等での発表

(\*印: 館外研究者)

#### ●動物

清水孝昭\*・佐藤陽一・高木基弘\* (2015.9) 徳島県におけるオヤニラミの遺伝的攪乱. 日本魚類学会年会 (奈良).

佐藤陽一 (2016.2) 徳島県におけるアゴヒゲアザラシの迷行記録. 第43回四国魚類研究会 (西予).

山田量崇 (2015.9) 雄交尾器から見たハナカメムシ族の外傷性受精. 日本昆虫学会第75回大会 (福岡).

#### ●地学

西山賢一\*・鳥井真之\*・星出和裕\*・横田修一郎\*・井上 弦\*・若月 強\*・中尾賢一 (2015.11) 阿蘇カルデラ東部、坂梨地区における土石流の発生頻度. NPO 法人熊本自然災害研究会第24回 (平成27年度) 研究発表会 (熊本).

辻野泰之・前田晴良\* (2015.6) 後期白亜紀 (コニアン期~カンパニアン期前期) における異常巻きアンモノイド *Baculites* の形態変化. 日本古生物学会2015年年会 (つくば).

棚部一成・御前明洋\*・辻野泰之・Kruta Isabelle\*・Landman Neil H.\* (2015.6) 後期白亜紀異常巻きアンモノイト類の顎器形態とその分類学・古生態学的意義. 日本古生物学会 2015 年年会 (つくば).

ルグラン ジュリアン,\*・山田敏弘\*・寺田和雄,\*・

辻野泰之・西田治文.\* (2015.6) 日本に花が咲いた時: 花粉化石からみた被子植物の侵入と多様化. 日本古生物学会2015年年会 (つくば).

#### ●考古

岡本治代 (2015.9) 阿波国分寺造瓦組織の形成と展開—石井廃寺跡・立善寺跡出土瓦から—. 徳島地方史研究会 9月例会 (徳島)

#### ●歴史

長谷川賢二 (2015.10) 徳島大空襲の同時代記録が語ること. 鳴門史学会2015年度研究大会 (徳島).

松永友和 (2015.11) 四国遍路札所寺院の本末争論資料について. 徳島地方史研究会 11月例会 (徳島)

#### ●民俗

庄武憲子 (2015.7) 門付け・「三番叟まわし」について (特集 四国の小さな神々). 四国民俗学会 (高知)

磯本宏紀 (2016.1) 近代瀬戸内漁民の朝鮮海出漁. 国立歴史民俗博物館共同研究「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」における研究会 (佐倉).

## IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成27年度は3人（人文1、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

### 1. 採集資料

#### ●動物（脊椎動物）

エゾシカ頭骨	1点
シロハラ	1点

#### ●動物（無脊椎動物）

県産クモ類	多数
-------	----

#### ●動物（昆虫）

ヒメスズメバチ	1点
徳島県産半翅類	多数
日本産水生・半水生半翅類	多数

#### ●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

#### ●地学

愛媛県産アクチノ閃石	1点
穴内層産貝化石	多数

### 2. 購入資料

平成27年度は資料購入が行われていない。

購入資料合計0点

### 3. 寄贈資料

#### ●動物（脊椎動物）

ウミガメ背甲	1点	榊本忠彦氏
カミツキガメ	1点	徳島県生活安全課
シロマダラ	1点	廣野美知子氏
アオダイショウ（脱皮片）	1点	出口文明氏
カジカ（勝浦川産）	1点	広岡佑太氏
オオウナギ（志和岐川産）	1点	浜野龍夫氏
クジャクほか剥製	3点	溝杭カヲル氏
吉野川航空写真・画像データ	3点	

国土交通省吉野川河川国道事務所

オオルリ	1点	讃山 潤氏
マムシ	1点	西森 基氏
ノゴマ	1点	柴折史昭氏
愛媛県産外来魚標本	32点	辻 幸一氏
シマヘビ（脱皮片）	1点	笠井智恵氏
オオウナギ幼魚標本（宍喰川産）	1点	

国土交通省徳島河川国道事務所

シロハラ	1点	雑賀敬章氏
------	----	-------

「愛媛のコウモリ」および「石鎚のシカ」資料

イシドジョウ標本	2点	面河山岳博物館
ルリビタキ	1点	中島 淳氏
トラツグミ	1点	大麻中学校広塚分校
カマヒレマツゲハゼ標本	2点	

国土交通省那賀川河川事務所

ハシブトガラス仮剥製	1点	側垣共生氏
オオウナギ? 幼魚標本	2点	

国土交通省吉野川河川国道事務所

オオウナギ? 幼魚標本	2点	
タンゴスジシマドジョウ標本	2点	中島 淳氏

国土交通省吉野川河川国道事務所



那賀川河口産ハゼ類標本 4点 乾 隆帝氏  
 阿南安芸自動車道環境調査魚類標本一式  
 国土交通省吉野川河川国道事務所

●動物（無脊椎動物）

アシダカグモ 1点 長尾徳江氏  
 ムラサキオカヤドカリ 3点 浅香新八郎氏  
 オオトリノフンダマシ 1点 河野朝美・琉氏

●動物（昆虫）

ヒメハルゼミ 4点 丸山璃空氏  
 ウミミズカメムシ 2点 滝 明子氏  
 徳島県産昆虫標本 多数 河野仁一郎氏  
 クロセセリ 8点 佐々木孝明氏

●植物

徳島県産さく葉標本 2点 木下 覺氏  
 徳島県産さく葉標本 多数 佐賀康男氏  
 徳島県産さく葉標本 17点 中村喜代治氏  
 愛媛県産さく葉標本 10点 伊藤隆之氏  
 香川県産さく葉標本 13点 久米 修氏  
 島根県産さく葉標本 1点 野津貴章氏  
 福島県産さく葉標本 1点 黒沢高秀氏  
 沖縄県産イネ科植物標本 48点 木場英久氏  
 福島県産さく葉標本 91点 福島大学(FKSE)  
 北米産さく葉標本 95点  
 オレゴン州立大学(OSC)  
 北海道産さく葉標本 81点 北海道大学(SAPS)

●地学

勝浦町産アンモナイトほか化石 8点 平島 昭氏  
 鳴門海峡海底産化石 3点 八木忠弘氏  
 愛媛県・高知県産鉱物 4点 阿部 肇氏  
 北海道および徳島産化石 9点 平島 昭氏  
 降下火山灰 1点 中尾久澄氏  
 アフリカ産鉱物 1点 佐藤由理氏  
 降下火山灰 2点 中尾久澄氏  
 愛媛県および徳島県産鉱物 5点 阿部 肇氏  
 北海道産化石 18点 平島 昭氏  
 鳴門海峡海底産クジラ脊椎骨化石 1点 横瀬健二氏  
 阿蘇ジオパーク関連資料 10点 阿蘇ジオパーク推進室  
 鳴門海峡海底産化石 6点 八木忠弘氏  
 広島県産鉱物 4点 阿部 肇氏  
 那賀町立相生中学校産火山灰 3点 森江孝志氏  
 プラビトセラス住房部 1点 吉田広恵氏  
 ブラジル産魚類化石 5点 豊田順子氏  
 愛媛県産岩石・鉱物 2点 阿部 肇氏

水晶および蛍石 2点 阿部 肇氏  
 広島県生口島産鉱物 6点 阿部 肇氏  
 ナウマンゾウ上顎骨つき臼歯化石 1点 木内英明氏

北海道産アンモナイト化石17点 平島 昭氏  
 岡山県伊田鉱山産鉱物 3点 阿部 肇氏

●考古

北海道美深町採集石器 12点 西 敏晴氏

●歴史

戦争関係資料 60点 有内澄子氏  
 日中戦争従軍日記ほか 12点 谷 和代氏  
 中国引揚げ関係資料等 29点 多積敏久氏  
 焼夷弾尾翼ほか 2点 杉本清司氏  
 竹槍 1点 宮城文孝氏  
 教育勅語 1点 玉谷忠雄氏  
 千人針 1点 桑江恵美子氏  
 日露戦争関係資料等 49点 忠津博之氏  
 支那事変行賞賜金国庫債券八拾円ほか 4点 谷 和代氏  
 支那事変従軍記章ほか 9点 浜野 進氏  
 日中戦争関係資料ほか 9点 谷 和代氏  
 支那事変従軍記章ほか 12点 西 明子氏

●民俗

祭祀用馬具および衣装ほか 102点 中村 稔氏  
 女房頭ほか 3点 中谷千恵子氏  
 大江巳之助作 着付け人形（弁慶）ほか 2点 田北光子氏  
 大寺喜好氏関係図書 630点 中瀬博幸氏  
 四国八十八ヶ所巡礼用具ほか 20点 江本昭夫氏  
 鉦ほか 8点 森 侑氏  
 レコードほか 52点 丸岡一之氏  
 絵はがき 51点 久米幹男氏  
 イワタケヅナほか 6点 松本 弘氏  
 電話機、カメラ 8点 河田晟則氏  
 箕、篩、蒭、菰、竿秤、藍玉染手板鑑 9点 岡田 清氏

4. 寄託資料

平成27年度末現在で寄託されている資料は71件あり、27年度に新たに寄託された資料は、次のとおりである。

●歴史

弁頭密二教論卷上 1点 竹林院  
 仙光寺文書 20点 十川俊宥氏  
 霊験譚奉納額 1点 國分寺

井藤家資料	55点	井藤信輔氏
友成家資料	242点	坂田英子氏
●美術工芸		
スキー用具	1点	西野武明氏
公文廬淵筆	十二支風俗図屏風	
	1点	時本豊章氏
渡辺広輝筆	群鶴図	1点 阿波銀行小松島支店

## 5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細は p. 24 - 25 参照）。

### ●動物

アライソコケギンポ標本	2点	清水孝昭氏
タナゴ類標本	3点	
		近畿大学環境管理学科
森井コレクション・コウモリ類標本		

	34点	面河山岳博物館
カッコウ剥製	1点	高知県立文学館

### ●植物

トウヒレン類標本	42点	藤川和美氏
----------	-----	-------

### ●地学

パラプゾシア化石レプリカほか	6点	読売新聞大阪本社
噴砂切り取り標本	1点	
		和歌山県立紀伊風土記の丘
和泉層群および蝦夷層群産アンモナイト化石	25点	さぬき市雨滝自然科学館
マンモスの毛、ウミユリなど	16点	名古屋市科学館

### ●考古

若杉山遺跡出土石臼等	8点	
		大阪府立弥生文化博物館
廿枝遺跡出土ナイフ型石器等	28点	海陽町立博物館
庄遺跡出土木偶（複製）	1点	徳島県立近代美術館
小松島市根井出土古銭	513点	
		公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
阿波国造墓碑（複製）	1点	
		公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター

### ●歴史

徳島大空襲関係遺物	3点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
焼夷弾破片ほか	5点	徳島県立文学書道館
高松藩行列絵巻ほか	7点	

盛家旧蔵巡礼資料	330点	豊橋市二川宿本陣資料館
----------	------	-------------

		愛媛県歴史文化博物館
徳島大空襲関係遺物	1点	徳島県立文書館
徳島藩主書状卷子ほか	5点	
		徳島市立徳島城博物館
三好長慶錦絵ほか	2点	海陽町立博物館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館

### ●民俗

「北条時頼記」ほか	3点	
		徳島市立徳島城博物館
照蓮造立道標（複製）ほか	2点	
		徳島県教育委員会教育文化政策課

### ●美術工芸

みとものつら絵巻	1点	
		豊橋市二川宿本陣資料館
渡辺広輝筆	光格上皇修学院御幸儀仗図巻ほか	
	2点	
		北海道博物館・国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館
刀銘泰長ほか	4点	海陽町立博物館

## 6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

### ●動物

那賀川アゴヒゲアザラシ骨格標本画像	1点	(株)ユニット
オヤニラミ生息地（桑野川）画像	1点	阿南市環境保全課
ミナミメダカほか画像	4点	藍住西小学校
オヤニラミおよび生息地（桑野川）画像	6点	阿南市環境保全課
テグスサン成虫標本写真	1点	株式会社雅映堂

### ●植物

電子顕微鏡写真	7点	徳島新聞社
---------	----	-------

### ●地学

愛媛県市ノ川鉦山産輝安鉦写真	1点（3件）	
		西条市市之川公民館
液状化写真	2点	和歌山県立紀伊風土記の丘
メガテリウム写真	1点	株式会社技術評論社
愛媛県市ノ川鉦山産輝安鉦写真	1点（2件）	
		西条市市之川公民館
地震・震災関係画像	21点	きしわだ自然資料館
トクソドン、パノクツス写真	2点	株式会社技術評論社

●考古

若杉山遺跡遠景等 4点 大阪府立弥生文化博物館  
 城山航空写真等 3点 徳島市立考古資料館  
 廿枝遺跡出土ナイフ型石器写真等 15点 海陽町立博物館  
 若杉山遺跡出土石臼等写真3点 徳島県教育委員会教育文化政策課  
 田村谷銅鐸等写真 5点 徳島県教育委員会教育文化政策課  
 天河別神社4号墳出土斜縁二神二獣鏡写真 1点 鳴門市教育委員会  
 若杉山遺跡発掘調査時写真等 2点+1括 株式会社イースト・エンタテインメント

●歴史

徳島御城下絵図写真 1点 株式会社ユニット  
 七十一番職人歌合絵巻写真(大原女) 1点 河合出版株式会社  
 阿波名所図会ほか写真 3点 株式会社ハウフルス  
 七十一番職人歌合絵巻写真(鍛冶) 1点 学校法人河合塾  
 徳島大空襲後の徳島市街写真 1点 岡山シティミュージアム  
 三好長慶錦絵写真 1点 大阪ガス株式会社  
 徳島御城下絵図写真 1点 株式会社あわわ  
 松平阿波守忠英書状写真ほか 4点 徳島地方史研究会  
 地方測量図写真 1点 西尾市教育委員会  
 七十一番職人歌合絵巻写真(大原女、鍛冶、番匠) 3点 学校法人河合塾  
 三十二番職人歌合絵巻写真(鳥売り) 1点 株式会社清水書院  
 鶴岡放生会職人歌合絵巻写真(御簾編み) 1点 井上スダレ株式会社  
 和歌山県如意輪寺所蔵般若心経(隅寺心経)写真 1点 宮崎健司氏  
 七十一番職人歌合絵巻写真(大原女) 1点 河合出版株式会社

●民俗

阿波人形浄瑠璃舞台図画像1点 集英社  
 海正八幡神社祭礼神輿巡幸写真画像ほか 4点 徳島県教育委員会教育文化政策課  
 海部ハナ肖像写真 1点 株式会社メディコム  
 粗テグス写真・磨テグス写真・テグスヌキ写真 6点 株式会社雅映堂

●美術工芸

須木一胤筆 旧徳島城図画像 1点 日蓮正宗総本山大石寺宝物殿展示委員会

渡辺広輝筆 光格上皇修学院御幸儀仗図巻映像 1点 朝日放送株式会社ビジネス戦略局  
 森崎家資料 雑画帳など画像 5点 田村善昭氏  
 守住家資料 アイヌ民具等関係スケッチ画像 6点 北海道新聞社  
 葵紋付花重文辻ヶ花染小袖複製画像 1点 株式会社フラジャイル  
 守住貫魚筆「俗人物」画像 1点 芝原生活文化研究所  
 渡辺広輝筆 祖谷山絵巻映像 1点 四国放送報道情報センター  
 守住家資料「柴野栗山像写」画像 1点 太田 剛氏  
 鈴木鳴門筆 川中島合戦図ほか画像 2点 須藤茂樹氏

●その他

博物館外観・常設展示室画像 2点 (株)アフロ・コンテンツ部

## 7. 資料の提供

●動物

ツキノワグマ体毛(DNA解析用) 4点 高知大学農学部農学科

●植物

さく葉標本	81点	オレゴン州立大学(OSC)
さく葉標本	41点	北海道大学(SAPS)
さく葉標本	29点	福島大学(FUKU)
さく葉標本	101点	東北大学(TUS)
さく葉標本	22点	福井県立総合植物園(FUK)
さく葉標本	59点	ソウル大学(SNUA)

## 8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている(「3. 寄贈資料」及び「7. 資料の提供」参照)。



## ●分野別収蔵資料数（平成27年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	25,068	24,994	55	13	6
（無脊椎）	39,304	39,238	0	58	8
（昆虫）	203,033	201,700	0	7	1,326
植 物	194,506	194,155	282	61	8
地 学	9,652	9,544	106	2	0
考 古	7,304	7,159	73	13	59
歴 史	12,795	12,007	26	4	758
民 俗	17,306	17,296	5	5	0
美術工芸	9,836	9,827	0	4	5
合 計	518,804	515,920	547	167	2,170

## 9. 館蔵資料数

平成27年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、上の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

## 10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱する。

平成27年度は、委員会は開催していない。

## 11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

## ●図書冊数（データベース登録数による）

13,806冊（うち平成27年度分 寄贈図書80冊、購入図書187冊）

## ●購入雑誌

自然史系（11タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics, Systematic Botany, Lethaia

人文系（24タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

博物館学（2タイトル）：博物館研究、ミュージ

## ●当館刊行物の定期発送先（平成28年3月末現在）

博物館ニュース	1,183ヶ所
博物館年報	326ヶ所
研究報告（国内）	389ヶ所
（国外）	73ヶ所
展示解説	97ヶ所
企画展図録（自然）	119ヶ所
（人文）	200ヶ所

## 12. 資料の保存

## (1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

## ①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れの都度、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦130cm×横120cm×奥行140cm（約2.3m<sup>3</sup>）

である。平成17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

27年度は、減圧燻蒸装置による燻蒸を行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ3m（約60㎡）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

27年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を3回行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもとまって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

27年度は、考古収蔵庫、地学収蔵庫において、炭酸ガス製剤による簡易燻蒸を行った。次回は、26年度に全室密閉燻蒸を行った歴史民俗収蔵庫・生物収蔵庫とあわせて、29年度に燻蒸を行う予定である。

(2) 常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。最近では、23年度に部門展示室のケース内の一部で、害虫の発生が確認された。

害虫への対策として、27年度は、目視による点検及びトラップによるモニタリング、防虫剤の設置を行った。また、点検をするなかで、部門展示室のケース下の空間にホコリが溜まっている状況が確認され、これ

を餌とする害虫の発生が懸念された。そこで、奈良大学魚島純一教授との連携活動として、魚島教授および奈良大学の保存科学を専攻する学生の協力を得て、3月14日(月)に清掃作業を行った。また、清掃終了後、今後の文化財害虫の動向を確認するために粘着トラップをケースの下に設置した。引き続き経過を観察するとともに、定期的な常設展示室の巡回を行う予定である。

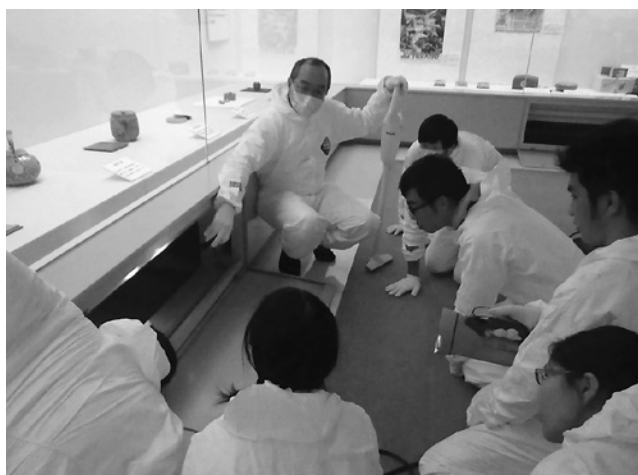
(3) 収蔵庫の点検と耐震化

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。27年度も収蔵庫定期点検表に基づいた各収蔵庫の点検を行った。点検項目は15個からなり、月に1回程度実施した。

また、24年度から収蔵庫の耐震化について検討を進めている。26年度に生物収蔵庫の棚の一部に落下防止の耐震ベルトを設置したが、27年度には歴史民俗蔵庫・地学収蔵庫・考古収蔵庫においても一部の棚に設置した。



収蔵庫の簡易燻蒸（炭酸ガス製剤噴霧）



奈良大学との連携による部門展示室ケース下清掃の様子



歴史民俗蔵庫での耐震ベルトの設置

## V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

### 1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

#### ●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	185ヶ所
中学校	88
高等学校・その他学校	71
学会・研究所・同好会等	63
県及び県教育委員会各課・機関	54
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	224
市町村及び大学図書館	35
博物館施設等	306
宿泊施設等	33
報道関係機関等	71

#### ●催し物案内の電子メールサービス

登録者351名（平成28年3月末現在）

#### ●報道機関への資料提供

平成27年度は、次のような資料提供を行った（※月間催し物案内を除く）。

5月14日	ボランティア企画型のイベント実施およびボランティアスタッフの公募について
6月19日	部門展示「戦争の時代と徳島」の開催について
7月14日	トピックコーナー「徳島県のセミ」の開催について
7月25日	企画展「シェルズ」の開催について
8月25日	部門展示「脱穀用具展」の開催について
9月29日	文化の森開園25周年記念事業 ヒトガタ

をめぐる冒険企画展「阿波木偶箱まわしの世界 一門付け、大道芸一」の開催について

9月29日	博物館常設展示室フレッシュアップ記念「ミニ人形&怪獣フィギュア展」及び記念品贈呈イベントの開催について
10月9日	アゴヒゲアザラシについて
10月16日	博物館開館25周年・鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念☆パスポートについて
10月31日	部門展示「白亜紀の化石」の開催について
11月1日	S字状アンモナイト：プラビトセラスの顎器化石の発見について
11月27日	トピックコーナー「阿蘇山の最近の噴火」の開催について
1月21日	トピックコーナー「新着考古資料展～石器・末木・アクセサリー～」の開催について
1月21日	鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念☆パスポートについて
3月5日	タンポポ調査・西日本2015の結果とその展示について
3月16日	平成28年度第1回企画展「自然だいすき！みんなの自然コレクション」の開催について
3月17日	タンポポ調査・西日本2015の結果とその展示について

#### ●文化の森橋への横断幕の設置

企画展「瓦から見る古代の阿波」の広報のため、県に都市公園占用許可申請を行い、会期中、文化の森橋に横断幕を設置した。

### 2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業の広報を目的としたテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

4月11日	小川 誠 四国放送（タンポポ調査について）
7月5日	長谷川賢二・松永友和 NHK 徳島放送局（歴史散歩「徳島大空襲の史跡を歩こ



う」について)

- 7月5日 松永友和 NHK 徳島放送局 (部門展示「戦争の時代と徳島」について)
- 7月6日 (再放送数回) 松永友和 ケーブルテレビあなん (トレンド・カフェ) (部門展示「戦争の時代と徳島」について)
- 7月26日 (再放送数回) 松永友和 エーアイテレビ (テレビミュージアム) (部門展示「戦争の時代と徳島」について)
- 8月12日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(徳島地裁検事正の空襲報告書について)
- 8月18日 辻野泰之 四国放送ラジオ「えんやこらワイド」(「標本の名前を調べる会」について)
- 11月18日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(S字状アンモナイト: プラビトセラスの顎器の発見、および部門展「白亜紀の化石」)
- 11月18日 辻野泰之 四国放送 (S字状アンモナイト: プラビトセラスの顎器の発見、および部門展「白亜紀の化石」)
- 11月 (放送日多数) 長谷川賢二 テレビトクシマほか県内CATV 全局「徳島県生き生きシニア放送講座」(講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」前編)
- 11月 (放送日多数) 長谷川賢二 テレビトクシマほか県内CATV 全局「徳島県生き生きシニア放送講座」(講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」後編)
- 3月25日 小川 誠 四国放送 (部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」について)

### 3. インターネットによる情報提供

#### (1) 電子メール

博物館の月間催し物案内を、事前に登録申請をした希望者に電子メール (以下メールと記す) で送っている (平成28年3月末現在の登録者351名)。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。

#### (2) ホームページ

##### A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11

年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは <http://www.museum.tokushima.ac.ed.jp/> に変更された。26年8月には、ホームページの全面的なりリニューアルを行い、トップページのメニューボタンの設置など、閲覧者が利用しやすいよう工夫している。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介 (開館日・交通案内など)
- ・展示案内 (企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動 (データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物 (展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)
- ・関連活動紹介 (友の会、博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー (子ども向けメニュー、映像コーナー等)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学の分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。27年度の主な追加事項は、下記の通りである。

- ・27年度博物館ボランティアの活動内容について
- ・みんなで調べる徳島のタンポポ「タンポポ調査・西日本」の情報について
- ・博物館常設展のフレッシュアップのお知らせ
- ・博物館常設展示室における公衆無線LAN (Wi-Fi) サービスの開始について
- ・博物館公式フェイスブックページへのリンク

## B. アクセスについて

27年度1年間で、ホームページへの総アクセス数が、約862万件あった。ホームページへの総訪問回数は約38万件あった。

### ●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総訪問者数	総アクセス数
2015年 4月	32,794	673,918
2015年 5月	34,912	802,689
2015年 6月	32,129	778,314
2015年 7月	36,416	839,562
2015年 8月	40,456	935,117
2015年 9月	29,829	688,097
2015年10月	45,277	826,447
2015年11月	35,785	752,015
2015年12月	16,108	562,481
2016年 1月	25,447	593,190
2016年 2月	22,802	575,300
2016年 3月	24,933	596,469
合計	376,888	8,623,599

### (3) Facebook(フェイスブック)ページの開設

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス(以下SNS)の普及にともない、博物館をはじめとする社会教育機関においてもSNS等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式Facebookページを開設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebookページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。27年度は、4件の記事を新たに掲載した。

### (4) QRコードを利用した多言語展示解説システム

常設展示室のフレッシュアップにともない、QRコードを利用した多言語展示解説システムを導入した。このシステムでは、常設展示室内の展示パネル上のQRコードをスマートフォンやタブレット端末等で読み取ることで、該当する展示解説のコンテンツを端末上に表示することができる。

なお、展示室内では、公衆無線LAN(Wi-Fi)を利用したインターネット接続も可能になるよう無線ルーター等を整備した。

## 4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収藏品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット(<http://science-net.kahaku.go.jp/>)を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収藏品データの検索も準備されており、26年度は、当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及びGBIF(Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構)のデータとしても横断検索できるようになった。

## 5. 情報システムの概要

平成23年度に文化の森のシステム更新(第5期システム更新)が行われ、27年度はその運用開始5年目であった。27年度中に行われた主な改善内容は、次の点である。

- ・サポート期限切れとなったアプリケーションの更新、削除等を行った。

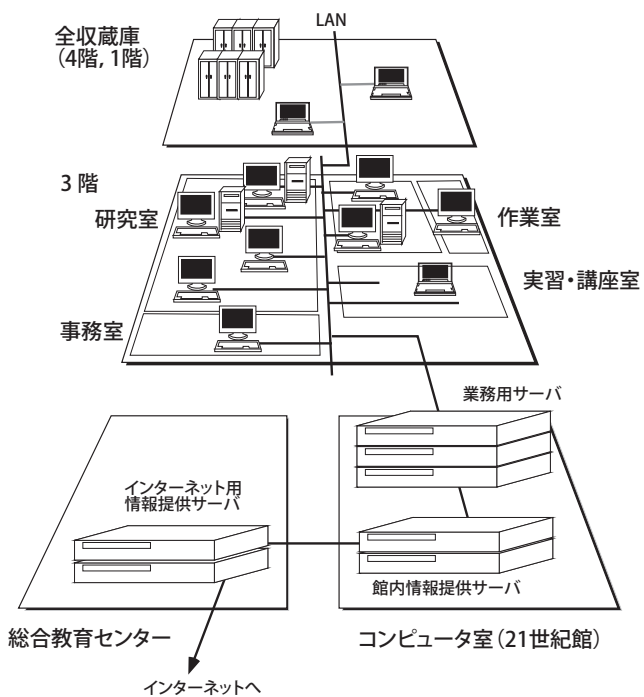
なお、博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第5期システムの運用にあたっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット(1000BaseT)のLANでつないでいる。ファイルサーバ(Windowsサーバ2008R2)とデータベースサーバ(FileMakerServer11Advanced)の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部(インターネット)用は総合教育センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成



## VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービス対象として各種の事業を展開しているが、その中に利用者が主体的に関わっていき、博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが、親しまれる博物館となっていくためには重要なことである。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、県民協働・参画を推進したいと考える。

### 1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて、広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援、友の会独自の行事などを行っている。事務局は当館内に置き、育成を図っている。

#### ■会員（平成27年度末）

個人会員（年会費 2,000円）	72人
（半年会費 1,000円）	1人
家族会員（年会費 3,000円）	47組 178人
（半年会費 1,500円）	4組 15人

#### ■役員（平成27年度）

会 長：鳥居 喬  
副会長：大杉洋子、行成正昭、高島芳弘（博物館長）  
幹 事：伊勢ひとみ、徳野壽治、中村由香、  
松家京子、水野和憲、阿部末美  
監 査：石尾和仁、住友セツ子

#### ■事業

##### ●博物館出版物の増刷・頒布

27年度博物館企画展の図録等（「瓦から見る古代の阿波―寺院と役所―」、「阿波木偶箱まわしの世界―門付け、大道芸―」、「鳥居龍蔵―世界に広がる知の遺産―」）の増刷・頒布を行った。

##### ●広報活動

27年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月催し物案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No. 56・57を発行

し、会員に送付した。

#### ① No. 56（2015年7月31日発行）

峠のお地蔵さん健在  
友の会行事報告 化石を探そう（安田町）  
友の会行事報告 京都日帰り研修  
友の会行事報告 リースを作ろう  
友の会行事報告 こんにゃく作り  
友の会行事報告 大敷網体験  
報告 平成27年度総会  
龍蔵と「仏塔」と「いただきさん」  
新スタッフ紹介

#### ② No. 57（2016年1月31日発行）

木喰さん  
友の会行事報告 深淵の自然観察  
友の会行事報告 古代の繊維を取ろう  
友の会行事報告 脇町を歩く～稲田家ゆかりの地を訪ねる～  
友の会行事報告 ウミホタルの観察会  
2015年度の行事を振り返って  
展示のごあんない  
鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念企画展  
鳥居龍蔵―世界に広がる知の遺産―  
徳島県立博物館 部門展示  
シカとカモシカ  
新刊紹介

【図録】阿波木偶箱まわしの世界―門付け、大道芸―

#### ●野外活動等

会員を対象とした行事を7回実施した。

- |                      |           |     |
|----------------------|-----------|-----|
| ①深淵の自然観察             | 5月23日(土)  | 19人 |
| 場所：三好市東祖谷            |           |     |
| ②古代の繊維を取ろう           | 6月28日(日)  | 19人 |
| 場所：博物館実習室            |           |     |
| ③脇町を歩く～稲田家ゆかりの地を訪ねる～ | 9月26日(土)  | 19人 |
| 場所：美馬市脇町             |           |     |
| ④ウミホタルの観察会           | 10月3日(土)  | 32人 |
| 場所：鳴門市大毛島            |           |     |
| ⑤奈良日帰り研修             | 10月31日(土) | 45人 |
| 場所：奈良県斑鳩町            |           |     |
| ⑥岡山・兵庫日帰り研修          | 11月28日(土) |     |



「古代の繊維を取ろう」の様子



「脇町を歩く～稲田家ゆかりの地を訪ねる～」の様子

場所：岡山県備前市・兵庫県赤穂市 32人

⑦梅見ハイキング 2月27日(土)

場所：神山町阿野 9人

●博物館のイベントへの協力

次のイベントに際し、博物館内に友の会のブースを設け、協力した。

①文化の森こどもの日フェスティバル

「しおりをつくろう」 5月5日(火)

場所：博物館常設展示室

## 2. 博物館公募ボランティア

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員が共同で企画・実施するイベント（博物館Vキング）を27年度も継続し、ボランティア約20名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。

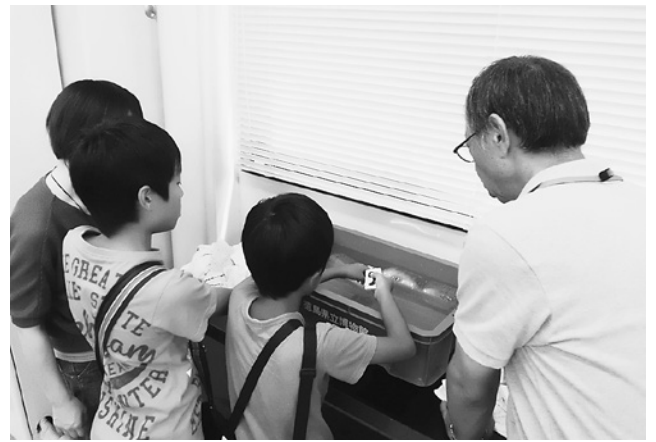
活動の結果は次のとおりである。

### ①科学体験フェスティバル in 徳島への出展

徳島大学で開催された第19回科学体験フェスティバル in 徳島（8月8日(土)～9日(日)）に、「博物館資料のレプリカを作ろう！」を出展し、おゆまる（熱するとやわらかくなる樹脂）でアンモナイトや寛永通宝のレプリカをつくってもらった。なお、このイベントでの出展は、博物館資料や博物館の活動の紹介を目的としたものである。

参加者 1,723人（8日686人、9日1,037人）

※ボランティアスタッフは8日10人、9日10人が参加した。



科学体験フェスティバル in 徳島  
「博物館資料のレプリカを作ろう！」の様子

### ②博物館Vキング 2月11日（木・祝）

文化の森ウィンターフェスティバルにおける当館のイベントとして、「博物館Vキング」を実施した。

この企画は、ボランティアスタッフを中心に企画し、当館職員と協働で準備したものである。準備の過程で、博物館資料を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を、「恐竜」と「古代」を共通のキーワード



博物館Vキング 「まっくら探検隊」の様子

ドとして開発した。「博物館Vキング」では、次の3つブースを出展した。「バルーンにペイント! 恐竜と銅剣」「まっくら探検隊! —サーチライトで見よう☆—」「コト転ガ〜レ、オモチャで遊ぼう」

参加者 1,168人

※ボランティアスタッフは19人が参加した。



Vキングの打ち合わせの様子

### 3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

#### ●展示

①部門展示（県民との協働研究の成果を展示）

「白亜紀の化石」

（11月17日～1月17日）

②特別陳列（展示への協力）

「シェルズ ―貝類の現在と過去をさぐる―」

（7月18日～8月30日）

#### ●普及教育

①普及行事における県民との協働（行事運営への協力等）

「漂着物を探そう!」（7月26日）

「部門展示『白亜紀の化石』展示解説」（11月23日）

「若杉山たんけん」（3月27日）

博物館ボランティアスタッフが贈る冬のフェスティバル

# 博物館Vキング

— 恐竜と古代 —

2/11  
Thu. 9:30-16:00

参加無料・事前予約不要

バルーンにペイント! 恐竜と銅剣  
バルーンアート用の風船で恐竜と銅剣をつくってもらえよ。もったい無さにペイントしてみよう!

まっくら探検隊!  
真っ黒な箱の中を探された、恐竜や大昔の人々の姿をみつけてクイズに答えよう!

コト転ガ〜レ、オモチャで遊ぼう  
恐竜型・羅輪型の木製コトおもちゃやまゆ玉ころがしなど、動くおもちゃで遊べるよ!

博物館Vキング—恐竜と古代—  
日時：2016年2月11日(木) 9:30～16:00  
会場：徳島県立博物館 2階 常設展示室内

文化の森総合公園  
**徳島県立博物館**  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山  
<http://www.museum.tokushima-cc.jp/>

博物館Vキングちらし



## VII シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

### 1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

平成27年度に行ったレファレンスの件数は754件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが377件（50%）で最も多く、次いでマス

#### ●分野別レファレンス件数（平成28年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	124
（無脊椎）	38
（昆虫）	145
植物	96
地学	85
考古	44
歴史	129
民俗	40
美術工芸	15
保存科学	3
その他	35
合計	754

コミ・出版関係が195件（26%）、博物館・図書館・官公庁等が86件（11%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が39件（5%）、大学生・院生・研究者等が26件（3%）、その他が20件（3%）であった。

### 2. 各種委員会委員等の受諾

平成27年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

高島芳弘

日本博物館協会参与

（平成27.4.1～28.3.31）

徳島県博物館協議会会長

（平成27.4.1～28.3.31）

徳島市立考古資料館協議会委員

（平成27.7.1～平成29.6.30）

史跡渋野丸山古墳調査整備検討委員会委員

（平成25.2～）

佐藤陽一

徳島県土木環境配慮アドバイザー

（平成19.4.1～28.3.31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員

（平成21.12.1～28.3.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成9.7.1～30.6.30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」

（平成19.4.26～28.3.31）

国土交通省那賀川河川事務所「那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境保全検討委員会」委員

（平成24.12.11～29.3.31）

国土交通省徳島河川国道事務所「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」委員

（平成26.10.31～29.3.31）

関西広域連合広域環境保全局「関西の残したい自然エリア選定検討委員会」委員

（平成26.10.15～28.3.31）

海陽町文化財保存活用検討委員会委員（オオウナギ部会長）

- (平成 27. 9. 1 ~ 28. 3. 31)  
日本魚類学会標準と名検討委員会副委員長  
(平成 15. 4. 1 ~)  
阿南市鯨座礁対策本部会議メンバー  
(平成 28. 1. 24 ~ 1. 27)
- 小川 誠  
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー  
(平成 19. 4. 1 ~ 29. 3. 31)  
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事  
(平成 21. 4. 1 ~ 29. 3. 31)  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成 24. 7. 1 ~ 28. 6. 30)
- 中尾賢一  
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」  
(平成 23. 12. 16 ~)  
福井洞窟専門調査担当者 (佐賀県佐世保市)
- 茨木 靖  
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員  
(平成 21. 12. 1 ~ 28. 3. 31)  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成 24. 7. 1 ~ 30. 6. 30)
- 辻野泰之  
日本古生物学会 化石友の会幹事  
(平成 27. 7. 1 ~ 29. 6. 30)  
日本古生物学会 将来計画委員会委員  
(平成 28. 1. 1 ~ 29. 6. 30)  
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」  
(平成 23. 12. 16 ~)
- 山田量崇  
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員  
(平成 21. 12. 1 ~ 28. 3. 31)  
徳島県田園環境検討委員会委員  
(平成 22. 1. 15 ~ 30. 1. 14)  
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」  
(平成 23. 5. 25 ~ 28. 3. 31)  
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員  
(平成 24. 4. 2 ~ 28. 3. 31)  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成 24. 7. 1 ~ 27. 6. 30)  
日本の昆虫編集委員  
(平成 25. 3. 14 ~ 29. 1. 29)  
関西広域連合広域環境保全局「関西の残したい自然エリア選定検討委員会」委員  
(平成 26. 10. 15 ~ 28. 3. 31)  
日本昆虫分類学会評議員  
(平成 27. 1. 1 ~ 29. 12. 31)
- 長谷川賢二  
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員  
(平成 19. 5. 1 ~)  
阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員  
(平成 27. 10. 27 ~ 28. 3. 31)  
徳島県戦没者記念館企画委員会委員  
(平成 27. 7 ~)  
日本山岳修験学会理事  
(平成 27. 9 ~ 29. 9)  
四国中世史研究会運営委員  
(平成 27. 4 ~ 29. 3)  
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員  
(平成 25. 9. 1 ~)
- 大橋俊雄  
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員  
(平成 25. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
- 庄武憲子  
四国民俗学会理事  
(平成 26. 4. 1 ~ 28. 3. 31)
- 磯本宏紀  
新鳥取県史編さん調査委員  
(平成 27. 4. 1 ~ 28. 3. 31)  
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員  
(平成 27. 4. 1 ~ 29. 3. 31)  
日本民具学会理事  
(平成 25. 11 ~ 28. 11)  
阿南市史羽ノ浦近現代編執筆委員  
(平成 26. 6. 1 ~ 30. 3. 31)  
武知家住宅調査委員会委員  
(平成 27. 6. 1 ~ 29. 3. 31)  
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会専門委員  
(平成 27. 8. 21 ~ 29. 3. 31)
- 松永友和  
徳島地方史研究会評議員  
(平成 25. 4 ~)  
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員  
(平成 25. 9. 1 ~)  
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会専門委員  
(平成 27. 8. 21 ~ 29. 3. 31)

### 3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している（詳細は p. 21 ~ 25 参照）。

- 4月27日 長谷川賢二  
徳島県自治研修センター「平成27年度新規採用職員研修 人権問題（同和問題の歴史と課題）」で講演「部落史と私たちの課題」
- 6月3日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）
- 7月18日 山田量崇  
徳島県建設技術センター「夜の昆虫観察会」講師（文化の森総合公園）
- 7月19日 松永友和  
大塩事件研究会（大阪市）の例会で講演「天保改革期大坂の人足寄場」
- 7月22日 岡本治代  
徳島県立文書館「平成27年度古文書保存講座」講師
- 8月1日 磯本宏紀  
徳島県郷土文化会館「平成27年度郷土文化講座」第4回で講演「盆の踊り」
- 8月17日 佐藤陽一  
「交流体験 IN 吉野川（下流編）」講師（徳島市入田町、鮎喰川）
- 8月29日 岡本治代  
徳島市立考古資料館「考古学入門講座」第4回で講演「徳島の古代瓦」
- 9月4日 長谷川賢二  
歴史クラブ例会で講演「聖護院門跡道興の四国巡錫の謎」（徳島県郷土文化会館）
- 9月7日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校上板校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（上板町老人福祉センター）
- 10月7日 長谷川賢二  
高野山真言宗阿波宗務支所平成27年度教師研修会で講演「部落史と現代の人権課題」（徳島県立総合教育センター）
- 10月9日 長谷川賢二  
加古川市企業人権・同和教育協議会野口ブロック人

- 権・同和教育研修で講演「徳島県の部落史」（当館）
- 10月14日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の形成過程」（徳島県立総合福祉センター）
- 10月20日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（小松島市総合福祉センター）
- 11月4日 庄武憲子  
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「民俗学①」「民俗学②」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月11日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月21日 小川 誠  
ワークショップ「どんぐりゴマで遊ぼう」「(子育てほっとスペース スキップ)」
- 12月6日 辻野泰之  
近畿地学会の大会で講演「棒状アンモノイド:バキュリテスの進化と古生態についての考察」
- 12月9日 西 記代子  
四国大学付属言語文化研究所特別研究例会「徳島の歴史文化と博物館」で講演「これも文化を守るひとつの方法」
- 12月17日 長谷川賢二  
徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（うずしお会館）
- 12月21日 長谷川賢二  
熊野三山協議会「熊野三山歴史講座」で講演「四国遍路の形成を考える」（和歌山県那智勝浦町体育文化会館）
- 1月22日 磯本宏紀  
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会で報告「生業（漁業）に関する中間報告」（鳴門市うずしお会館）
- 2月28日 辻野泰之  
徳島市立図書館「ジュラシックパーク3」の上映後の特別企画で講演「恐竜時代の世界」
- 3月21日 高島芳弘  
加茂谷へんろ道の会「若杉山 カタツムリ自然観察会と辰砂遺跡の見学会」講師

### 4. 大学教育への寄与

#### (1) 大学非常勤講師の受諾

平成27年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常



勤講師は次のとおりである。

辻野泰之

鳴門教育大学嘱託講師（博物館経営論）  
（平成 27. 4. 13 ～ 28. 3. 31）

山田量崇

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）  
（平成 27. 4. 3 ～ 27. 9. 23）

松永友和

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）  
（平成 27. 4. 3 ～ 27. 9. 23）

## (2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

27年度は、8月18日(火)～22日(土)に実習生の受け入れを行った（実習生のうち1人は23日(日)まで）。



博物館実習（昆虫標本整理）

実習生は19人で、大学別の内訳は次のとおりである。

鳴門教育大学	3人	四国大学	5人
徳島大学	4人	徳島文理大学	1人
京都女子大学	1人	甲南女子大学	1人
高知大学	1人	近大姫路大学	1人
立命館大学	1人	八洲学園大学	1人

なお、同時期に県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生を受け入れた。インターンシップ実習学生は2人で、次のとおりである。

四国大学	1人
都留文科大学	1人

### ●27年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (10名)		B 班 (11名)	
		実習名 (場所)	担当者	実習名 (場所)	担当者
8/18 (火)	午前	館長あいさつ (実習室)	高島	館長あいさつ (実習室)	高島
		ガイダンス・館内施設見学 (館内)	岡本	ガイダンス・館内施設見学 (館内)	岡本
	午後	脊椎動物標本整理 (液浸収蔵庫・実習室)	佐藤	無脊椎動物標本整理 (生物収蔵庫・実習室)	山田
8/19 (水)	午前	歴史資料の整理 (作業室・歴史収蔵庫)	長谷川・松永	触察教材づくり (実習室・常設展示室)	庄武
	午後	図書資料の整理 (書庫)	松永・茨木	普及行事の準備 (実習室)	小川
8/20 (木)	午前	地学標本の整理の方法と特別陳列 見学 (実習室・企画展示室)	中尾	普及業務について (講座室)	真鍋
	午後	民俗資料の整理 (実習室)	磯本	地学標本の整理の方法と特別陳列 見学 (実習室・企画展示室)	中尾
8/21 (金)	午前	考古資料の整理 (実習室・考古収蔵庫)	岡本	歴史資料の整理 (作業室・収蔵庫)	長谷川・松永
	午後	植物標本の整理 (分析室・生物収蔵庫)	茨木	化石レプリカの作製法 (実習室)	辻野
8/22 (土)	午前	標本の名前を調べる会 (実習室・講座室)	辻野	考古資料の整理 (地学考古作業室・考古収蔵庫)	岡本
	午後	標本の名前を調べる会 (実習室・講座室)	辻野	美術工芸資料の整理 (歴史収蔵庫)	大橋
8/23 (日)	午前	-	-	土器や石器を触ってみよう (常設展示室) ※八洲学園大学のみ	岡本
	午後	-	-	土器や石器を触ってみよう (常設展示室) ※八洲学園大学のみ	岡本

午前 (9:30～12:00)、午後 (13:00～16:00) 及び実習ノート記入、提出 (16:00～17:00)

カリキュラムは前頁表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

### (3) 学生・院生の指導

27年度に研究課題のために受け入れた学生・院生は次の通りである。所属、学年、人数及び研究テーマを記す。

- ・徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部修士課程1年 1人 魚類標本の作製・整理  
(平成26.2.4～28.3.31、インターンシップ系科目研修生派遣として)

### (4) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定(年報22号参照)にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。博物館講座室を会場として、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で講義を担当した。各科目の日程、受講者数は次のとおりである。

- ①博物館資料保存論 9月10～12日、15・16日  
徳島大8人、鳴門教育大9人、四国大22人
- ②博物館教育論 2月27・28日、3月1～3日  
徳島大8人、鳴門教育大9人、四国大26人
- ③博物館展示論 3月5・6日、8～10日  
徳島大7人、鳴門教育大10人、四国大25人

## 5. 学会・研究会等の運営への寄与

### (1) 学会・研究会等の開催

平成27年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおりである。

#### ●みどりクラブ例会

開催日：毎月1回／土曜日(不定)

会場：博物館講座室

参加者：10人程度

#### ●徳島地域文化研究会

・総会及び研究会

開催日：6月6日(土)

会場：博物館講座室

参加者：18人

・研究会

開催日：1月9日(土)

会場：図書館集会室2

参加者：10人

### (2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

#### ●みどりクラブ

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回(土曜日の18:30～)、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約15名で、毎回約10人の参加者がある。

#### ●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム(年2～3回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の発行(年刊)等を行っている。

#### ●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催(年2回程度)、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』(年刊)の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

#### ●日本半翅類学会

カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目(半翅類)に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当している。

#### ●海の観察会

主に県内の漂着物に関する調査・情報交換を行っている研究会で、年4回の例会を行っており、会誌『小松通信』を発行している。

#### ●漂着物学会

漂着物に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて漂着物に関心を持つ者相互の情報交換と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「漂着物学会誌」・会報「どんぶらこ」の発行、総会、例会などの事業を行っている。27年度から当館が事務局を担当している。

## 6. 博物館ネットワーク

### (1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在80館(園)が加盟している。4県が持ち回

りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、平成26・27年度は高知県立歴史民俗資料館が事務局館をつとめ、当館は理事館になっている。

27年度の役員会・総会及び研修・視察は、次のとおり開催された。

#### ●27年度役員会・総会

日時：11月11日(水)

役員会 11:00～、総会 13:30～

会場：高知県立美術館

議事：平成26年度事業報告及び決算について  
平成27年度事業計画及び予算について  
その他

講演：①奥野克仁氏（高知県立美術館チーフ）

「災害と博物館 — 高知県立美術館と災害 —」

②岡本桂典氏（高知県立歴史民俗資料館副館長）

「災害と博物館 — 高知県立歴史民俗資料館と災害 —」

#### ●研修・視察

日時：11月12日(木) 10:00～

場所：高知県立美術館

内容：(公財)日本博物館協会からの本部事業報告

視察：「篠山紀信展 写真力」ほか

## (2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、28年3月末現在では50館になっている。当館が事務局をつとめている。

#### ●27年度事業

##### ①役員会の開催

6月24日(水) 徳島市立徳島城博物館

2月24日(水) 徳島県立博物館

##### ②総会の開催

日時：6月24日(水) 13:00～16:40

場所：徳島市立徳島城博物館

議事：26年度事業報告及び決算報告

26年度監査報告

27年度役員選出

27年度事業計画及び会計予算

その他

講演：瀧山雄一氏（徳島市立徳島城博物館長）

「徳島城博物館の管理・運営」

庭園及び企画展の見学

##### ③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

##### ④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No. 48～50を発行・配布した。

##### ⑤研修会の開催 参加者16人

日時：12月8日(火) 13:40～16:00

場所：阿波和紙伝統産業会館

内容：講演会 工藤多美子氏(阿波和紙伝統産業会館)

「アートとの取り組み—和紙作りの現場から—」

見学 紙漉見学と解説

##### ⑥徳島博物館マップの作成

28年度に全面改訂した新版を発行するため、加盟館園の実務担当者で構成するワーキンググループを設置して作業を進めた。

## (3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク(略称「人権ネット」)は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、32機関・団体が加入している。27年度は、仏教大学・ツラッティ千本を会場として第20回総会が開催されたほか、京都市内のフィールドワークが行われた(9月17～18日)。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、大阪人権博物館、水平社博物館等、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

## (4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者157人が参加している。

27年度は、地域自然史環境情報提供事業として標本情報の整備に関する研究会(2回)、博物館連携推進事業として生物多様性協働フォーラムを開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座(樹脂封入標本講座)を開催し、100円ショップグッズを使った自然観察と巡回展などを行った。

## (5) 文化財の防災ネットワークへの協力

「歴史資料保全ネットワーク・徳島」が、平成26年8月の台風による水損資料(襖の下貼文書)のはぎ取り・乾燥作業を実施したので、25年度に締結された「文化財の防災に関する共同宣言」に基づき、当館からも職員を派遣して協力した。





水損資料（襖の下貼文書）を1枚ずつはがす作業の様子  
（文化財の防災ネットワークへの協力）

#### (6) 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査 GISデータの管理

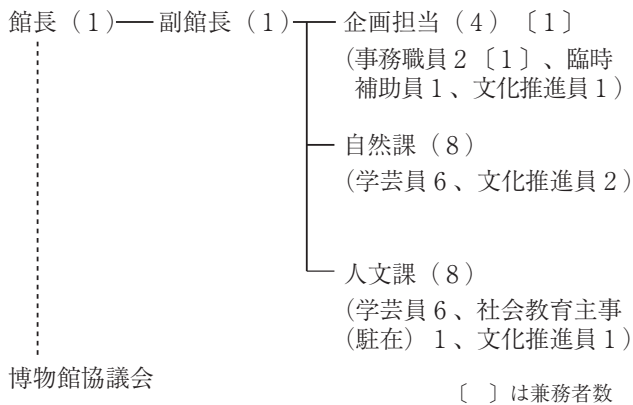
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画しただけでなく、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始し、正式版は27年5月より配布を開始した。27年度は2件の申請があり2件の配布を行った。

# VIII 管理運営・マネージメント

## 1. 組織・職員

### (1) 組織図（平成28年4月1日現在）



### (2) 職員名簿（平成28年4月1日現在）

館長	湯浅 利彦
副館長	久米みどり
〈企画担当〉	
課長補佐	真鍋 憲人
係長	鉄谷 雅史
主任主事	小倉 健太（二十一世紀館主任主事本務）
臨時補助員	井上 翔太
文化推進員	湯浅 絵美
〈自然課〉	
課長	佐藤 陽一（動物）
上席学芸員	小川 誠（植物）
〃	中尾 賢一（地学）
学芸係長	茨木 靖（植物）
主任	辻野 泰之（地学）
〃	山田 量崇（動物）
文化推進員	前川 雅美
〃	内田 裕子
〈人文課〉	
課長	長谷川賢二（歴史）
上席学芸員	大橋 俊雄（美術工芸）
上席学芸員	庄武 憲子（民俗）
主任	磯本 宏紀（民俗）
〃	松永 友和（歴史）
主任学芸員	岡本 治代（考古・保存科学）

社会教育主事（駐在） 植地 岳彦（考古・保存科学）  
文化推進員 西 記代子

### (3) 人事異動

〈平成28年3月31日付〉  
定年退職：高島 芳弘・館長

〈平成28年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉  
転入：湯浅 利彦・館長（小松島高等学校長）  
駐在：植地 岳彦・教育委員会生涯学習課係長兼社会教育主事  
兼務：湯浅 利彦・教育委員会文化の森振興本部部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）  
久米みどり・教育委員会文化の森振興本部副部长（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）  
真鍋 憲人・教育委員会文化の森振興本部企画振興部

### (4) 平成27年度非常勤・臨時職員

- 臨時補助員  
小濱 頌平（平成27.5.1～28.3.31）
- 文化推進員（非常勤特別職）  
平野由美子（平成24.12.1～27.8.31）  
西 記代子（平成25.10.1～）  
湯浅 絵美（平成27.4.16～）  
前川 雅美（平成27.4.16～）  
内田 裕子（平成27.9.1～）

## 2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下に示す。

●平成27年度博物館費（2月現計予算額）（単位：千円）	
予算総額	27,701
管理運営	12,813
展覧	8,050
調査研究	1,886
収集保存	3,336
普及教育	1,616

### 3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務し（27年度からは本部兼務のみ）、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進を図っている。27年度に取り組まれた主な内容は、次のとおりである。

#### ①文化の森全館連携事業の継続

26年度に引き続き、文化の森全館と連携を図り、5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」、8月23日の「文化の森サマーフェスティバル」、11月3日の「文化の森 大秋祭り!!」、2月11日の「文化の森ウィンターフェスティバル」を行った。

#### ②文化の森開園25周年記念事業の実施

27年度、文化の森は開園25周年を迎えたことから、「ヒトガタをめぐる冒険」をテーマに6館が連携したイベントを実施した。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界一門付け、大道芸一」を主たる事業と位置づけて開催した。また、文化の森3館棟のユニバーサル化や安全・安心の文化施設の推進に取り組み、展示室の解説パネルやエントランス、ロビーなどの案内サインの改修、訪日外国人向け多言語表記を行った。

#### ③鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念連携事業の実施

22年度に文化の森6番目の施設として開設された鳥居龍蔵記念博物館が開館5周年を迎えたことから、記念事業として、文化の森の各館がそれぞれの特徴を活かして鳥居龍蔵にまつわるイベントを開催した。博物館では、鳥居龍蔵記念博物館企画展の期間にあわせて、「鳥居龍蔵の歩いた南アメリカの自然」と題して、常設展ロビーに展示コーナーを設けた。鳥居龍蔵が調査に訪れた南アメリカの自然を、博物館の収蔵資料により紹介した。

### 4. 期間限定観覧料割引券の発行

27年度は、文化の森開園25周年及び鳥居龍蔵記念博物館開館5周年にあたることから、とくに関係の深い博物館・鳥居龍蔵記念博物館の両館について、セット観覧の割引を試行することにした。

博物館・鳥居龍蔵記念博物館の各常設展と、企画展

の3展示を同日中に観覧する有料観覧者を対象として、期間限定の観覧料割引券「文化の森開園25周年・鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念☆パスポート」を発行した。期間は、企画展「阿波木偶箱まわしの世界一門付け、大道芸一」、鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念企画展「鳥居龍蔵—世界に広がる知の遺産—」のそれぞれの会期にあわせて設定し、10月31日～11月29日、1月23日～2月28日であった。

### 5. 防災及び危機管理

#### (1) 危機管理体制

文化の森三館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

#### (2) 防災訓練

12月17日(木)に、二十一世紀館を中心に、防火防災訓練を行った。消防設備点検業者から文化の森の防火設備についての講義を受けた後、消防設備の機器の取り扱いに関するDVDを視聴し、防災意識を高めた。

#### (3) 耐震化対策の推進

地震災害の発生時に収蔵資料を守ることができるよう、収蔵の耐震化を推進した。すでに26年度、生物収蔵庫の棚の一部に落下防止の耐震ベルトを設置したが、27年度には歴史民俗蔵庫・地学収蔵庫・考古収蔵庫においても一部の棚に設置した。



耐震ベルトの設置状況



## 6. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に  
応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、  
博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の  
規定に基づき設置されている。

27年度は協議会を1回開催した。

### ●27年度博物館協議会

日時：平成27年9月30日（水）  
13：30～16：30

会場：近代美術館講座室

議事

- (1) 平成26年度事業の実施状況について
- (2) 平成27年度予算及び事業概要について
- (3) その他

### ●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成28年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会理事 (白地小学校長)
	野々村拓也	県中学校教育研究会社会科部会長 (鳴門教育大学附属中学校長)
	中村 顕也	県高等学校教育研究会地歴学会 副会長(富岡西高等学校教頭)
社会教育	松下 師一	松茂町総務課主幹 元松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠 璃芝居資料館館長補佐兼任学芸員
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
	中村 豊	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・ アンド・サイエンス研究部准教授
学識経験	玉有 繁 (会長)	元徳島文理大学教授
	玉田 香織	藍住町国際交流協会理事
	佐藤 陽香	徳島新聞社三好支局記者
家庭教育	大野 美加	八万中学校PTA本部役員

## 7. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研  
修会のほかに、次のような研修会等に職員を派遣し、  
博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。  
月日、研修会等名称(主催者。名称に主催者名が含ま  
れている場合は省略)、氏名の順に記す。

- 9月17・18日 人権資料・展示全国ネットワーク  
第20回総会 真鍋憲人
- 10月16～20日 歴史民俗資料館等専門職員研修会  
(文化庁・国立歴史民俗博物館) 岡本治代
- 2月28・29日 第12回四国ミュージアム研究会  
長谷川賢二・松永友和  
(28日のみ)

## 8. 視察等博物館関係来訪者

- 5月12日 文化庁文化財部美術学芸課 藤田励夫氏
- 5月10日 皇学館大学名誉教授 渡辺 寛氏
- 5月14日 愛媛県歴史文化博物館 今村賢司氏、松井 寿氏
- 6月3日 高知市教育委員会 梶原瑞司氏
- 6月12日 瀬戸内海歴史民俗資料館 田井静明氏、佐々木卓也氏
- 6月27日 北海道大学 鈴木幸人氏  
北海道博物館 春木晶子氏
- 7月5日 京都大学考古学研究室一行
- 8月2日 奈良大学 森田憲司氏
- 10月9日 加古川市企業人権・同和教育協議会  
野口ブロッカー一行
- 11月15日 香川県立ミュージアム  
野村美紀氏、三好賢子氏

# IX 中期活動目標と自己評価

## 1. 中期活動目標（平成26年9月17日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況は急速に変化してきた。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、及び公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、2期10年間（第1期：16～20年度、第2期：21～25年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化を進めてきた。ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動を進めていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとすることができ、今後も継続的に推進することが必要だと考える。

25年度をもって第2期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第3期目標（26～30年度）をまとめた。

### (1) 第2期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革を進め、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

とくに第2期目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の理念及び基本的性格(注)を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価を進めることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残したといえる。

(注)

「徳島県立博物館の理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次の通りである。

<基本理念>

#### ①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

#### ②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

#### ③研究を大切にする博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

#### ④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

＜基本的性格＞

- ①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。
- ②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
- ③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

## (2) 第3期中期活動目標の策定の経緯

第3期中期活動目標の策定にあたっては、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行った。その結果、新たに「〔連〕県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることにより、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう、見直していった。

## (3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—県民とともに活動し、成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

### 〔知〕知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

### 〔探〕地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

### 〔伝〕未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

### 〔連〕県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

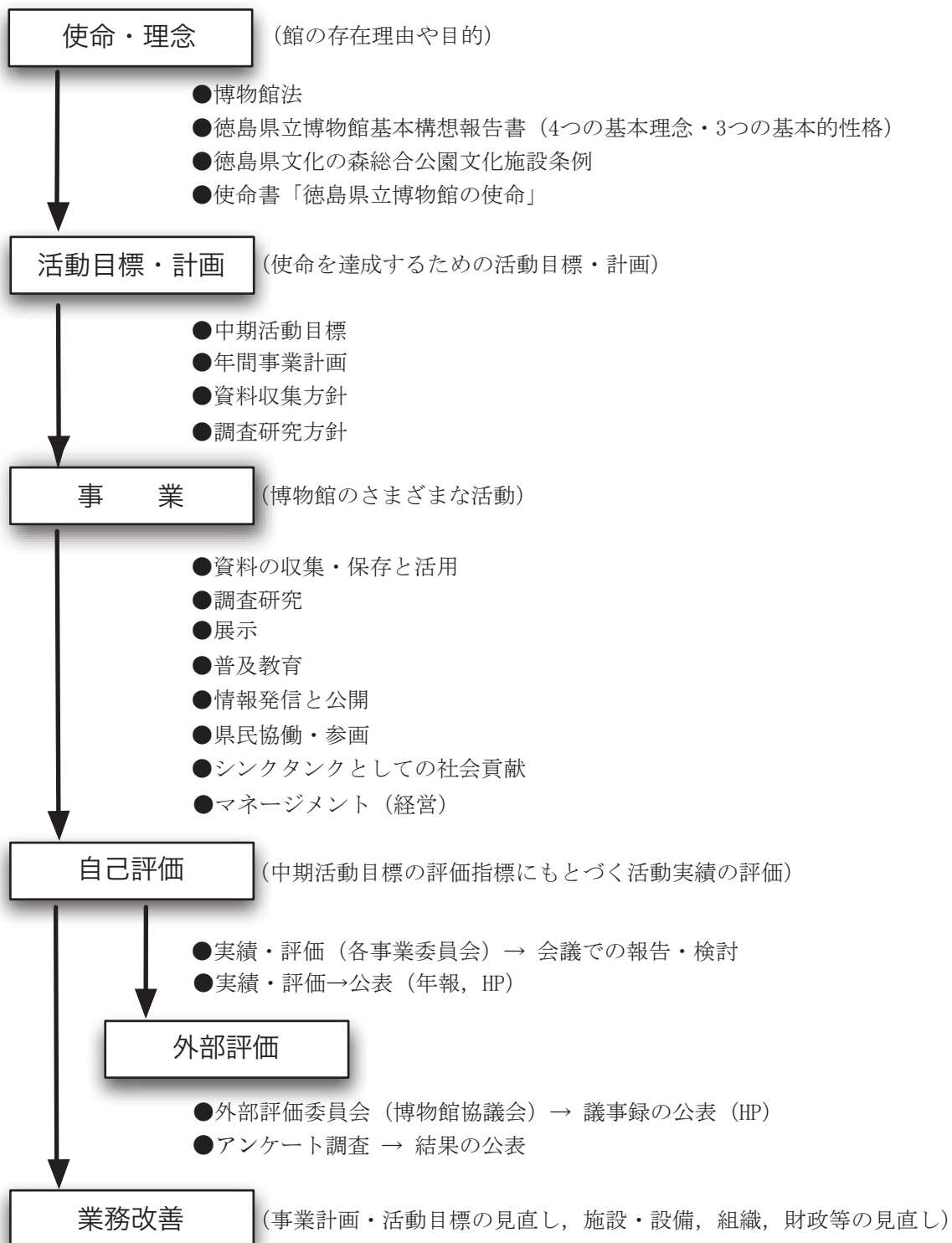
## (4) 第3期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成26～30年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績及び評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。



### 中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次の通りである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」県民とのつながりを大切に作る博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネジメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標及び目標値などを示す。

①展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんとの連携を大切にしながら、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%	
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%	
		展示改善の実施状況	新しい発見や体験につながる取り組み件数		定期的に展示替えるコーナーは除く
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		県外への発信度	県外観覧者の割合	5%/回	
		企画展の検討状況			
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	10回(特1・部4・トピック5)	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する。
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きい
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者を含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸出数」を含む
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

64 中期活動目標と自己評価

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化について楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を創りだします。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		3,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		館での授業件数			
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
		教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊/年	
		普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況			県民からの協力を受けた行事を含む

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を、県民のみなさん及び関連機関と連携しながら進め、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
		民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年(査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
		学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
		マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	2件/年	



④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、様々な形で活用します。(使命：「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
<b>収集</b>					
4-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H30年度末で521,000点	H25年度末現在で501,751点、H27に51万点の予定
		新規資料増加点数		4,000点/年	H21～25年度の平均増加点数3,954点
		採集資料件数		20件/年	H21～25年度の平均18.2件
		購入資料件数		3件/年	H17年度以降はH24年度の1件のみ
		寄贈資料件数		100件/年	H21～25年度の平均107.2件
4-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			H25年度末現在で70件
		新規寄託件数		3件/年	H21～25年度の平均は2件
4-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実を努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数(雑誌類を除く)		
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数	200冊/年	H21～25年度の受入の平均201.8冊
		寄贈		90冊/年	H21～25年度の寄贈の平均91.4冊
		購入		100冊/年	H21～25年度の購入の平均110.4冊
		購入雑誌タイトル数			
<b>保存</b>					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数) × 100	50%	
4-5 資料の安全な保存	収蔵庫の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数		12回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
		燻蒸回数		3回/年	
4-6 展示室の資料保存環境の改善	展示室における照明や空調を適切に管理するとともに虫菌害の防除に努め、安全な資料の保存環境を確保します。	展示室点検回数		12回/年	展示室あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
4-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
<b>活用</b>					
4-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展			
		常設展以外の展示			
4-9 貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し(22学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	H21～25年度の平均59件

⑤情報の発信と公開

博物館活動についての様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話を進めます。(使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数(月間催し物案内を含む)	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材し、報道した数		印刷メディアに限る(新聞・雑誌等)
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数		
		Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	

66 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP 総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	6,500,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
		内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	
		双方向的な情報交換の推進に向けた検討			

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんとの協働による展示や普及行事、県民参画型の調査、友の会や公募ボランティアによるイベントなどを推進することにより、地域の活性化に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400人/年	
		個人会員			
		家族会員			
		会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	
		個人会員			
		家族会員			
		友の会行事実施回数		6回/年	括弧内に参加者数を並記
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
		個人会員			
		家族会員			
6-2 公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数			
		公募ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ日数		
		企画運営型行事等件数	公募ボランティアによる企画運営型行事の数		科学体験フェスティバルを含む
		普及行事支援件数	友の会による普及行事支援の数		フェスティバルを含む
6-3 各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事及び調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6の再掲
		県民との協働による普及行事の実施状況			2-4の再掲。県民からの協力を受けた行事を含む
		県民参画型調査の件数		2件/年	3-3の再掲

⑦ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数 機関・団体等への協力状況	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
7-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数 学生・院生指導人数 博物館実習生受入人数 学芸員養成科目受講者数	3科目(博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論)の延べ受講者数	20人/年	
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業等の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧ マネージメント (経営)

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。(使命：効率的でバランスのとれた運営)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			



## 2. 27年度実績と自己評価

## (1) 展示

## ●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
1-1 常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	43,155人	37,945人	44,426人
	観覧者のリピーター率	40%	53% (7～8月) 55% (10～11月)	33% (8月)	31% (8月)
	観覧者の満足度 新たな知識	80%	92% (7～8月) 95% (10～11月)	92% (8月)	87% (8月)
	他人への推薦	80%	88% (7～8月) 88% (10～11月)	90% (8月)	86% (8月)
	展示改善の実施状況		2件 (ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	4,087人(天下の台所大坂と徳島)、9,465人(エイリアンスピーシーズ)	4,651人(いただきま～す)9,673人(まんまるワールド)15,525人(四国へんろ展)	4,218人(瓦から見る古代の阿波)2,968人(阿波木偶箱まわし)
	観覧者の満足度 新たな知識	80%/回	89%(天下の台所大坂と徳島)、90%(エイリアンスピーシーズ)	90%(いただきま～す)90%(まんまるワールド)93%(四国へんろ展)	84%(瓦から見る古代の阿波)92%(阿波木偶箱まわし)
	他人への推薦	80%/回	77%(天下の台所大坂と徳島)、80%(エイリアンスピーシーズ)	84%(いただきま～す)85%(まんまるワールド)91%(四国へんろ展)	81%(瓦から見る古代の阿波)89%(阿波木偶箱まわし)
	社会的評価	5件/回		いただきま～す11 まんまるワールド13 四国へんろ展19	瓦から見る古代の阿波5 阿波木偶箱まわし5
	県外への発信度	5%/回		3%(いただきま～す) 15%(まんまるワールド) 10%(四国へんろ展)	11%(瓦から見る古代の阿波) 11%(阿波木偶箱まわし)
	企画展の検討状況		27年度以降の計画の協議	28年度以降の計画の協議	29年度以降の計画の協議
1-3 多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	10回 (特1・部4・トピック5)	16回 (特1・部5・ト5・他江戸時代の絵師5)	19回 (特1・部6・ト6・他江戸時代の絵師4、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業2)	20回 (特1・部6・ト7・他江戸時代の絵師3、貨幣1、人形&フィギュア1、南米の自然1)
	特別陳列観覧者数	200人/日	257人(みんなの化石コレクション)	140人(国立公文書館所蔵資料展)	341人(シエルズ)
	観覧者の満足度	80%/回	90%(みんなの化石コレクション)	80%(国立公文書館所蔵資料展)	92%(シエルズ)
		80%/回	85%(みんなの化石コレクション)	データなし(国立公文書館によるアンケートのため)	87%(シエルズ)
	社会的評価	5件/回	みんなの化石コレクション4	国立公文書館所蔵資料展5	シエルズ2
	特別陳列等の検討状況		27年度以降の計画の協議	28年度以降の計画の協議	29年度以降の計画の協議

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
14 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	2回 (鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-、文化の森人権啓発展)	4回 (よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-、博物館Vキングみんなで創るユニバーサルミュージアムパネル紹介展、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展、文化の森人権啓発展)	2回 (鳥居龍蔵-世界に広がる知の遺産、文化の森人権啓発展)
	移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	2回 (美波町由岐公民館、美波町日和佐図書館)	2回 (アミコ6階、美波町日和佐図書・資料館)	3回 (佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター、海陽町立博物館、阿南市文化会館)
15 展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録 2	企画展図録 3、特別陳列図録 1	企画展図録 2
	展示解説等の実施状況		企画展解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事(外来生物を探そう等) 2回 クイズラリー 24回 常設展示室活用イベント 4回 部門展示解説 5回 セルフガイドの設置	企画展示解説 20回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事 8回 クイズラリー 24回 常設展示室活用イベント 4回 部門展示解説 7回 セルフガイドの増設 1件	企画展示解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展記念公演・実演(三番叟奉納、門付け・大道芸) 2回 企画展関連行事(ワークショップ等) 4回 特別陳列解説 1回 クイズラリー 24回 常設展示室活用イベント 4回 部門展示解説 9回
16 県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「みんなの化石コレクション」	「博物館Vキング-みんなで創るユニバーサルミュージアム-パネル紹介展」、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展」、「浜辺に揺りあがる焼き物たち」、「タンポポ調査が始まります」 2回	「阿波木偶箱まわし」「シェルズ」 「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」 「みんなで調べた西日本のタンポポ」
17 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		リニューアルした博物館への聞き取り調査(北九州市立いのちのたび博物館)ロビーの案内表示、キッズ・チャレンジコーナーの更新	リニューアルした博物館への聞き取り調査(京都国立博物館)、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業による案内表示等の試作、キッズ・チャレンジコーナーの更新	文化の森 25周年フレッシュアップ事業による各種サイン・パネルの改装、キッズチャレンジコーナーの更新

## ●自己評価

## (1-1)

- ・常設展観覧者数は44,426人で、26年度及び目標値を大きく上回った(26年度比6,541人増)。とくに春季(5月)、夏季(7・8月)、秋季(10・11月)で観覧者数が26年度と比べて大幅に増えていることから、文化の森開園25周年の各種イベントによる効果であろうと思われる。また、夏季については、24年度から始まった「家族でおでかけ節電キャンペーン」による常設展観覧料の無料期間(7月22日～8月31日)中に、台風等の天候不良がなかったことも大きい。なお、展示改装による閉室期間(8月31日～9月18日)の影響は少なかった(9月の26年度比353人減)。27年度はイベントや無料期間によるところが大きかったが、それらに頼らない魅力ある常設展の在り方を早急に検討する必要がある。
- ・27年度は常設展のアンケートを夏季(8月11日～8月16日;展示改装前)に実施した。リピーター率は31%で目標値を下回った。今後、リピーターを増やす工夫が必要である。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は87%で、目標値を上回ったものの過去3年間で一番低い。
- ・常設展を他の人に見るよう勧めたいと「思う」観覧者は86%で、目標値には達しているが26年度よりわずかに下がった。
- ・「キッズ・チャレンジコーナー」の感想を聞いたところ、「とてもよい」が21%(26年度25%;25年度29%)、「よい」が45%(26年度49%;25年度51%)となり、徐々に率が下がってきている。おおむね好評だが、利用者(大部分が幼児とその保護者)以外の観覧者の関心がないため、今後は幼児以外の観覧者を対象とした体験コーナーを考えるとともに、更新頻度を上げていく必要があると考える。

## (1-2)

- ・観覧者数は「瓦から見る古代の阿波」で4,218人、「阿波木偶箱まわしの世界」で2,968人であり、後者は残念ながら目標値(3,500人)に達しなかった。文化の森開園25周年記念の秋季イベントとの兼ね合いで開催時期や期間を調整せざるを得ず、結果的に目標値には達しなかったが、1日あたりの総観覧者数(114人/日)を見る限り、秋季の人文系企画展の中では決して少なくない数であった。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、「瓦から見る古代の阿波」では84%、「阿波木偶箱まわしの世界」では92%と、目標値を上回った。
- ・この展示を他の人に見るよう勧めたいと「思う」との回答は、「瓦から見る古代の阿波」では81%、「阿波木偶箱まわしの世界」では89%で、いずれも目標値に達した。
- ・新規の評価指標では多様化するマスコミの状況を鑑み、展示内容が報道された件数を「社会的評価」とした。「瓦から見る古代の阿波」で5件、「阿波木偶箱まわしの世界」は5件であった。目標値に達し、一定の社会的評価はあったようだが、26年度の各企画展と比べると報道件数は減少した。
- ・「瓦から見る古代の阿波」では、これまでに取り上げたことのない“瓦と地域のつながり”をさまざまな側面からアプローチしたことで、新規性と学術性の観点から好意的な意見を得た。
- ・「阿波木偶箱まわしの世界」は、文化の森開園25周年記念事業として開催し、文化の森大秋まつりオープニング行事「三番叟奉納」やワークショップ「1人遣い人形伝承教室」、門付け芸、大道芸の記念公演などの関連イベントを実施した。地域の伝統的な芸能文化を取り上げた内容や娯楽性の高いイベントの開催などが好評を博し、観覧者の満足度も非常に高かった。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素を織り交ぜた計画的な運営が必要である。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努力したいと考える。

## (1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は20回で、目標値を上回った。
- ・20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示(人文)の展示替えに自然史のテーマも組み込んでいる。実績として6回行った。
- ・トピックコーナーでは、即応性、話題性を重視した展示を行っている。7件の展示を行った。
- ・阿波の近世絵画の展示替えを3回行った。
- ・多様な展示の開催促進という目標は達したが、常設展示室の観覧者数の増加につながったか否かは定かでない。今後も、内容(テーマ)とそれに適した開催時期や期間等を十分に検討していく必要がある。



- ・27年度は、ロビーの無料観覧ゾーンにおける小展示を3回（貨幣展、人形&フィギュア、南アメリカの自然）行った。観覧者数の直接的な増加にはつながらなかったかもしれないが、効果的な広報（集客）の観点から、今後も必要に応じて実施したいと考える。
- ・特別陳列「シェルズ」の観覧者数は1日あたり341人（目標値200人）と、目標値を大幅に上回った。観覧者の満足度も92%と大変高かった。
- ・「シェルズ」の「社会的評価」は2件のみで目標値には及ばなかった。

(1-4)

- ・移動展等の回数は、徳島県立佐那河内いきものふれあいの里における「空から見た徳島」、海陽町立博物館における「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」、阿南市文化会館における「朱を考古学する－弥生時代の辰砂採掘遺跡群の実像に迫る－」の3回で目標値を上回った。また、パッケージ貸し出しとして、美波町日和佐図書館・資料館へ「徳島大空襲」（パネルセット）の貸し出しがあった。今後も、他機関の協力を得て、当館の資料公開を促進する移動展の開催を試みる予定である。

(1-5)

- ・毎年恒例となっている常設展活用イベント（博物館Vキング）を実施し、参加者数は26年度とほぼ同数だった。
- ・そのほか、常設展活用イベント4回（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森 大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）を行った。27年度は、いずれも文化の森全体のイベントとして開催された。博物館への参加者数は、「文化の森サマーフェスティバル」以外のイベントにおいて減少した。今後も他館と切磋琢磨しながら、博物館の特徴を活かしたより魅力的なイベント内容を工夫する必要がある。
- ・企画展の展示解説を5回、特別陳列の展示解説を1回、部門展示の展示解説を9回行った。企画展「瓦から見る古代の阿波」では記念講演会を1回、関連行事を2回、企画展「阿波木偶箱まわしの世界」では4回の関連行事を実施した。

(1-6)

- ・企画展「阿波木偶箱まわしの世界」、特別陳列「シェルズ」、移動展「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」、部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」を県民と協働し開催した。

(1-7)

- ・文化の森開園25周年記念フレッシュアップ事業として常設展示室の部分的な改装を行った（詳細はp.14・15参照）。これは26年度の「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の成果に基づいたもので、予算的措置を伴う改装・更新である。その他に「キッズ・チャレンジコーナー」の一部更新といった予算的措置を必要としない展示更新を行った。今後も随時行っていく予定である。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	88回	95回	97回
	普及行事参加者数	3,000人/年	11,028人	9,787人	9,212人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	94.2% (13行事)	93.8% (17行事)	92.9% (14行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	10回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	38件	47件	47件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	9件	11件	18件
	館での授業件数		12件	17件	8件
	教員研修件数		4件	7件	3件

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
2-2 学校教育支援事業の推進	職場体験件数		3件	8件	8件
	遠足件数		93件	97件	91件
	教員・生徒の満足度	80%	96.3%	100%	94%
2-3 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	0冊	0冊
	普及的記事の執筆数	40件/年	58件	78件	61件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民との協働による普及行事の実施状況		11件（友の会2件、公募ボランティア2件ほか）	6件（友の会2件、公募ボランティア1件ほか）	5件（友の会1件、公募ボランティア1件ほか）

## ●自己評価

### (2-1)

- ・普及行事の実施回数は、平成26年度の95回とほぼ同じ97回であった。参加者数は9,212人で、26年度より575人減少した。参加者数の減少は、「文化の森 大秋祭り!!」の参加者数が26年度を大幅に下回ったことと、26年度より企画展関連行事の数が減ったことに起因している。
- ・普及行事は、シリーズ名やその内容を見直し、13シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、屋外で実施する行事、工作・調理等をともなう行事には人気が集まる傾向がある。
- ・普及行事の参加者数9,212人のうち、参加者数が多いのは春・夏・秋・冬4回行う「文化の森フェスティバル」である(6,529人)。しかし、25年度から参加人数は減少傾向にある。フェスティバルの在り方や時期、内容等の見直し工夫を行う必要がある。
- ・普及行事への参加者の満足度は、これまで同様に高く、14行事で行ったアンケート結果では、92.9%が満足していると回答しており好評であった。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、「海部自然・文化セミナー」として、26年度より6回増え10回実施した。これは、目標値の2倍である。

### (2-2)

- ・27年度の出前授業数は、昨年同様47件で、目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が20件と多く、次いで吉野川市、阿南市、鳴門市の学校が多い。これらの4市が大半を占めているものの、三好市から4件、那賀町から1件と遠方からの利用もある。校種別では、小学校(県立聴覚支援学校小学部を含む)が40件、中学校が4件、高等学校が2件、そして保育園が1件あり、校種のひろがりが見られた。とくに小学校への出前授業の需要が多い理由として、学習指導要領や教科書等に博物館との積極的な連携・活用が明記されているため、学校現場においても博物館との連携や活用が求められていると考えられる。一方で、もともとの需要が少ない中学校、高等学校等との出前授業等での連携を検討する必要がある。出前授業の内容で多かったのは、小学校が「昔の道具とくらし」、「昆虫」、「大地のつくりと変化」に関するもの、中学校では「戦争」に関するものであった。中学校や高等学校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、教員・生徒の満足度は94%で高い評価を得ている。
- ・資料の貸出件数は18件であり、26年度から大幅に増えた。これは上八万小学校(7件)が「上八万ミュージアム」と題して、博物館自然資料を半年間にわたり種類をかえて学校展示を行ったためである。
- ・館内での授業は8件、教員研修は3件と、26年度より少なくなった。26年度に引き続き「教員のための博物館の日」を教員研修として実施した。この行事が契機となり出前授業の依頼を受けたケースがあり、博物館活動の広がりにおいて一定の効果が認められる。
- ・職場体験は、26年度と同じ8件であった。
- ・「遠足」については91件で、26年度の97件より若干減少した。
- ・小・中・高校生を対象に毎月2回実施しているクイズラリーの未就学児(0～6歳)の参加者数が、24年度640人、25年度996人、26年度1,058人、そして、27年度が1,211人と年々増加している。目的や対象年齢、実施方法等の見直し工夫が必要である。

(2-3)

- ・ 普及的記事の執筆数は61件で、目標値の40件を大幅に上回った。今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、27年度は24本の記事が掲載された。
- ・ 近年、ガイドブックを出版できていない。予算面、企画面の双方から検討を要する。

(2-4)

- ・ 「文化の森こどもの日フェスティバル」において、博物館友の会との協働によるブースを設置し、友の会会員とともに運営した。
- ・ イベントボランティアを公募し、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
- ・ 普及行事の内、「漂着物を探そう!」、「部門展示『白亜紀の化石』展示解説」「若杉山たんけん」の3行事を県民（ボランティア等）との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査実施状況	2件/年	3件 (外部との共同1)	2件 (外部との共同1)	2件 (外部との共同1)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	15件	15件	16件
	共同研究プロジェクト件数	3件/年	6件	5件	10件/年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2件/年	3件	4件	3件/年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請6件・採択1件/年	申請7・採択3 (継続2)	申請6・採択0 (継続4)	申請7・採択0 (継続3)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請1・採択1	申請1・採択1	申請5・採択3
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24本/年 (査読付き4本/年)	38本 (査読付き10)	32本 (査読付き8)	27本 (査読付き5)
	学会・研究会での発表件数	24件/年	15回	21回	12件
	マスコミへの資料提供件数	2件/年	2件	2件	3件/年

●自己評価

(3-1)

- ・ 課題調査は「祖谷地方の在来作物－保全と活用に向けて－」、「徳島県のタンポポの分布調査」の2件を実施し、このうち「祖谷地方の在来作物－保全と活用に向けて－」は外部との共同研究として行った。
- ・ 分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・ 学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員による館内公表会(セミナー)を6回実施した。

(3-2)

- ・ 27年度は他機関等の研究者との共同研究数については、16件で目標値を達成した。
- ・ 共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。文部科学省科学研究費補助金による「トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明」「化石から探る現生種貝類の起源」、「四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較」と、国際常民文化研究機構共同研究（一般）による「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」、NFDoneleaffundによる「南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成」、一般財団法人全国科学博物館振興財団（平成27年度全国科学系博物館活動等助成）「タンポポの分布調査」、鳴門の渦潮に関する歴史分野の調査、鳴門の渦



74 中期活動目標と自己評価

潮に関連した漁業及び漁民に関する調査、「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較調査」、「地域における歴史文化研究拠点の現状と課題」に関する研究がこれにあたり、目標を大幅に達成した。

(3-3)

・27年度の県民参画型調査については、合計3件で目標値を達成した。継続している漂着物の調査、アサギマダラのマーキング調査、タンポポ調査が実施された。

(3-4)

・27年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は6件（うち研究代表者分3件：基盤研究（C）2件、若手研究（B）1件）の申請を行った。

・農林水産省による農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業への申請を1件行った。

・27年度は、科研費等の公的研究助成金の申請数が7件で、申請数の目標値を達成したが、採択がなく、採択数では目標に達しなかった。なお、研究代表者として1件（「トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明」）、研究分担者としての2件（基盤研究（C）「化石から探る現生種貝類の起源」、「四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較」）の研究を継続して行った。科研費の継続件数が合計3件で、費用のかかる研究の継続を実現している。また、近年は研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの拡がりがかがえる。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。

・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。

・27年度は、民間の研究助成金に5件の申請を行った。そのうちの3件、国際常民文化研究機構共同研究（一般）による「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」、NFDoneleaffundによる「南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成」、一般財団法人全国科学博物館振興財団（平成27年度全国科学系博物館活動等助成）による「市民参加型調査のタンポポ調査・徳島2015の実施」が採択された。

(3-5)

・学術論文数は27本であり、目標値（24本）を上回った。

・学会・研究会での発表は12件で、昨年より減少し、目標値の半分にとどまった。外部研究者と共同で発表する機会が増えている一方、他の業務の増加や旅費の削減等により、学会等への参加が減っているためと考えられる。

・マスコミへの資料提供は、「アゴヒゲアザラシに関する資料提供」「S字状アンモナイト：プラビトセラスの顎器の化石の発見について」「タンポポ調査・西日本2015の結果とその展示の資料提供について」の3件であり、目標値を上回った。これらは調査研究の成果を公表したものであり、今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H30年度末で 521,000点	501,751	515,002	518,804
		新規資料増加点数	4,000点/年	5,467	13,251	3,802
		採集資料件数	20件/年	18	12	9
		購入資料件数	3件/年	0	5	0
		寄贈資料件数	100件/年	118	82	90
4-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		71	69	71
		新規寄託件数	3件/年	4	2	8
4-3	文献資料の充実	図書冊数(雑誌類除く)		13,416	13,655	13,806
		新規受入図書冊数	200冊/年	102	130	267

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
収集						
4-3	文献資料の充実	寄贈	90冊/年	33	42	80
		購入	100冊/年	69	88	187
		購入雑誌タイトル数		42	40	37
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	47.3	47.9	48.1
4-5	資料の安全な保存	収蔵庫点検回数	12回/年	自然8回 人文12回	自然10回 人文12回	自然12回 人文12回
		燻蒸回数	3回/年		3回 (燻蒸庫2+全室1)	4回 (燻蒸庫3+簡易1)
4-6	展示室の資料保存環境の改善	展示室点検回数	12回/年		3	3
4-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
4-8	展覧における利用促進	展示利用点数		4,281	2,477	2,543
		常設展		3,614	1,120	502
		常設展以外の展示		667	1,357	2,041
4-9	貸出等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	71	62	86

●自己評価

(4-1)

- ・収蔵資料点数は、平成26年度より3,802点増加したに止まり、目標値の4,000点/年を下回った。動物（脊椎）と民俗で1,000点近く増加したが、その他の分野でめばしい増加が見られなかったのが原因と思われる。
- ・採集資料件数は9件と少なく、目標値に達しなかった。
- ・寄贈資料件数は90件で、目標値の100件/年を下回った。

(4-2)

- ・新規寄託は8件で、目標値を大きく上回った。

(4-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・新規受入図書冊数は、26年度に比べ、寄贈・購入ともに大幅に増加した。
- ・購入雑誌タイトル数は、価格高騰と予算削減のため年々購読誌数が減少している。なお、27年度をもって英文雑誌の購読は終了することとなった。

(4-4)

- ・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移している。27年度は、26年度に比べ、登録率は微増したが目標値にはわずかに届いていない。

(4-5)

- ・収蔵庫の点検は、25年1月からチェックリストに基づき実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。人文課・自然課ともに毎月点検を行っており、すでに定期点検は定着してきていると言える。
- ・資料の安全な保存のため、収蔵庫内の耐震対策として、考古ならびに歴史民俗収蔵庫の一部の棚において落下防

止の耐震ベルトを設置した。

- ・27年度は、4回の燻蒸を行った。この内、1回は考古ならびに地学収蔵庫の簡易燻蒸である。

(4-6)

- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。とくに近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行った。また、常設展示室の定期点検について、チェックリストを作成し、資料収集保存委員会で3回の点検を行った。さらに、常設展示室を点検する中で部門展示室のケース下空間の清掃の必要性が確認されたため、奈良大学魚島純一教授と保存科学を専攻する学生の協力を得て、清掃作業及びトラップの設置を行った。
- ・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、これまでも実施していたが、26年度には検査領域を拡大した。27年度もこれに引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。今後も文化財害虫の侵入状況についても明確にし、適切な防虫対策を実行することが重要である。

(4-7)

- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

(4-8)

- ・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を記録している。27年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において502点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において2,041点の資料を利用した。展示で利用された館蔵資料は、26年度に比して、常設展以外では600点以上増加したが、常設展では600点以上減少している。これは、27年度には、部門展示において、多数の資料点数を要する昆虫分野の展示が行われず、「シカとカモシカ」や「脱穀用具展」など、大型資料を展示したことによる。

(4-9)

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては[2]普及教育を参照のこと）。27年度は86件で、26年度より20件以上増加しており、目標値を上回った。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30件/年	33件	28件	27件
	マスコミ取材報道件数		106件	125件	98件
	マスコミ出演等件数	15件/年	13件	23件	12件
5-2 広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
	広報関係出版物発送状況				
	年間催し物案発送件数(発送回数)		664件(1回)	651件(1回)	647件(1回)
	月間催し物案内発送件数(発送回数)		各89件(12回)	各89件(12回)	各89件(12回)
	博物館ニュース発送件数(発送回数)		各1,202件(4回)	各1183件(4回)	各1179件(4回)



中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
5-2 広報活動の強化	Eメールサービス登録者数	250人/年	331人	342人	351人
5-3 インターネットによる情報発信の推進	HP総アクセス数	6,500,000件/年	6,806,418件	8,902,900件	8,623,599件
	新規コンテンツ数	30ページ/年	213ページ/年	76ページ/年	115ページ/年
	内容の更新頻度	月3回以上	5.2回/月	4.9回/月	4.5回/月
	双方向的な情報交換の推進に向けた検討			SNSの特性を活かした情報発信の方法を検討した。	FBページを新設し、運用を開始した。

※第3期中期活動目標よりHP総アクセス数の評価指標及び目標値を変更した。

●自己評価

(5-1)

- ・資料提供件数は27件と平成26年度より1件減少し、目標値の30件/年に達しなかった。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、積極的な資料提供が必要である。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみである。27年度は98件で、26年度より27件減った。
- ・マスコミ出演等件数は12件と26年度より6件減少し、目標値の15件/年を下回った。

(5-2)

- ・広報手段の新規開拓状況としては、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。また、企画展のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、チラシ・ポスター等の配布先を選定拡充した。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- ・電子メールサービス登録者数は351人と、26年度より9人増え、目標値を上回った。

(5-3)

- ・インターネットによる情報発信においては、27年度は1年間でホームページに約862万件のアクセスがあった。26年度の約890万件から減少しているものの、目標値を大幅に上回っている。近年のアクセス数の大幅な増加は、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴ったものと考えられる。
- ・新規コンテンツ数は115ページ/年と、目標値を大幅に大きく上回った。27年度は常設展示室のフレッシュアップにともなった多言語展示解説システムの導入にあたり、44件のコンテンツを追加したことにより、26年度を大きく上回った。
- ・内容の更新頻度は4.5回/月(54回/年)と26年度より減少したが、目標値を上回った。主な更新内容として、展示案内、公募ボランティアによる活動報告、月間催し物案内が挙げられ、それぞれの更新頻度は17回、17回、12回と高頻度で更新を行っている。上述の内容のみならず、博物館が発信する新しい情報を積極的に更新していく必要がある。
- ・ホームページ以外での新たな情報発信、情報交換の方法として、3月18日からFacebookページの運用を開始した。

## (6) 県民協働・参画

## ●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	301人	289人	266人
	個人会員		80人	68人	73人
	家族会員		221人(59組)	221人(60組)	193人(51組)
	会員の継続率	前年度会員の70%	78%	72%	78%
	個人会員		79%	70%	88%
	家族会員		77%	75%	67%
	友の会行事実施回数	6回/年	7回(166人)	10回(250人)	7回(175人)
	展示利用率	50%	52%	52%	44%
	個人会員		51%	44%	37%
	家族会員		53%	60%	55%
	延べ利用者数	会員数	299人	244人	238人
	個人会員		128人	93人	130人
	家族会員		171人	151人	108人
	会報の発行回数	3回/年	2回	2回	2回
普及行事支援件数		2回	2回	1回	
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		25人	23人	23人
	公募ボランティア活動回数(全体・班会合、イベント)		合計40回 会合37回 イベント3回	合計44回 会合43回 イベント1回	合計27回 会合24回 イベント3回
	企画運営型行事等件数		3回(8/3-4、2/11)	1回(2/11)	3回(8/8-9、2/11)
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		特別陳列1件、部門展示1件	ロビー展示2件、トピックコーナー3件	企画展1件、特別陳列1件、移動展1件、部門展示1件
	県民との協働による普及行事の実施状況		11件(友の会2件、公募ボランティア2件ほか)	6件(友の会2件、公募ボランティア1件ほか)	5件(友の会1件、公募ボランティア1件ほか)
	県民参画型調査の件数	2件/年	3件	4件	3件/年

## ●自己評価

## (6-1)

- 友の会会員数は、平成26年度は289人、27年度は266人で、23人の減少である。内訳は、個人会員が68人から73人で5人の増加、家族会員が221人(60組)から193人(51組)で28人(9組)の減少となっている。これは、こどもの成人等の理由で家族会員から個人会員となった事例が7件あったことなどが影響している。
- 会員の継続率は、26年度は72%、27年度は78%と、目標値に達している。
- 友の会行事の実施回数は7回で、参加者数は175人であった。27年度は天候不良による中止が2回あり、参加予定者は41人であった。
- 展示利用率は、26年度は52%であったが、27年度は44%となり、目標値を下回った。今後、友の会会員の特典である、各種案内の確実性・限定性・迅速性を会員獲得のために広報していく必要がある。

## (6-2)

- 公募ボランティアは、26年度から継続したボランティア18人に加えて、新規ボランティア5人が加わり、合計23人が参加した。

- ・27年度は2月11日の「博物館Vキング」に向けて公募ボランティアとともに職員で構成した3グループにより、「恐竜」と「古代」をキーワードにして、博物館資料を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。この準備・打ち合わせ等を行う会合回数が25、26年度に比べて大幅に減っていて、効率よく作業や打ち合わせを行うことができた。また、グループ数や対応できる担当学芸員が少なかったことも関係している。
- ・博物館資料や博物館の活動の紹介を目的として、徳島大学で開催された第19回科学体験フェスティバル in 徳島に「博物館資料のレプリカを作ろう！」を2日間にわたり出展した。

(6-3)

- ・企画展「阿波木偶箱まわしの世界」、特別陳列「シェルズ」、移動展「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」、部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」を県民と協働し開催した。(1-6再掲)
- ・「文化の森こどもの日フェスティバル」において、博物館友の会との協働によるブースを設置し、友の会会員とともに運営した。(2-4再掲)
- ・イベントボランティアを公募し、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。(2-4再掲)
- ・普及行事の内、「漂着物を探そう!」、「部門展示『白亜紀の化石』展示解説」「若杉山たんけん」の3行事を県民(ボランティア等)との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。(2-4再掲)

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	790	688	754
	周知状況			HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		24	36	26
	講演会等の受講者数		(1,468)	(1,407)	(892)
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		31	30	30
	機関・団体等への協力状況			2	1
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		3	3	3
	学生・院生指導人数		1	1	1
	博物館実習生受入人数	20人/年	18(11大学)	12(6大学)	19(10大学)
	学芸員養成科目受講者数		124	127	124
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	15	14
	学会等役員受託数		8	9	10
	学会等事務局受託数		5	6	6
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		8	6	7
	博物館関連団体加入数		6	6	6
	連携事業等の実施数		9	8	16
			移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展1回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展3回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携



## ●自己評価

## (7-1)

- ・レファレンス件数は平成26年度から66件増加し、目標値500件を上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多いとみてよい。分野別の件数では、27年度は動物（昆虫）がもっとも多い145件、次いで、歴史129件、動物（脊椎）124件、植物96件であった。これらの分野で全体の66%を占めていた（詳細はp.50参照）。
- ・レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

## (7-2)

- ・27年度の講師派遣は26件で、26年度から10件減少した。分野別にみると、歴史が12件で最も多く、次いで民俗が4件であった。この両分野で全体の62%を占めた。
- ・派遣先の受講者数は、21件において概数が記録されており、892人であった。

## (7-3)

- ・各種委員会等の委員等受諾数は30件で、26年度と同じだった。これらのうち16件（53%）は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。
- ・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。27年度は、歴史資料保存ネットワーク・徳島との連携により、台風による水損被害を受けた歴史資料の処置に協力した。

## (7-4)

- ・27年度の大学における非常勤講師の受諾数は3件で、26年度と同じであった。
- ・27年度の博物館実習生の受入人数は19人で、26年度に比べて7人増加し、目標値の20人には及ばなかった。これとは趣旨が異なるが、同じ期間に徳島県インターンシップ実習学生2人を受け入れた。
- ・学生・院生の研究指導は、1人に対して行った。受入人数については、今のところ目標値を定めておらず、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- ・県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。27年度は、延べ124人を指導した。

## (7-5)

- ・27年度の学会や研究会の当館における開催数は14回で、26年度より1回減少した。これらには毎月例会が開催される「みどりクラブ」が含まれている。目標値は定めていない。
- ・学会等役員受託数は10件で、26年度より1件増加した。目標値は定めていない。
- ・学会等の事務局受託数は6件で、26年度と同じである。目標値は定めていない。

## (7-6)

- ・博物館関連団体の委員等受託数は7件で、26年度より1件増加した。目標値は定めていない。
- ・博物館関連団体加入数は6件で、26年度と同じである。これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
- ・他館等との連携事業数は16件で、26年度より8件増加した。移動展の開催数の変動とともに、海陽町立博物館と共催している海部自然・文化セミナーの回数が増加したことによる。そのほか、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会及び研修会を実施したり、県内外の博物館との連携事業を行ったりした。目標値は定めていない。

(8) マネージメント (経営)

●中期活動目標及び27年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	25年度実績	26年度実績	27年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示の点検及び改善	「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の実施	文化の森開園 25 周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」による常設展フレッシュアップ
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「天下の台所大坂と徳島」 12% 「エイリアンスピースーズ」 10% 「みんなの化石コレクション」 3%	「いただきま〜す!」 3% 「まんまるワールド」 15% 「四国へんろ展」 10%	「瓦から見る古代の阿波」 11% 「シエルズ」 7% 「阿波木偶箱まわし」 11%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		1 件 (公募ボランティア事業)	1 件 (みんなで創るユニバーサルミュージアム事業)	2 件 (安全安心の文化施設モデル事業、公募ボランティア事業)
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 28,747千円	2月補正後 48,745千円	2月補正後 27,701千円
	外部資金獲得数		申請8、採択3、継続2	申請9、採択2、継続4	申請13、採択4、継続3
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		防火防災訓練計画の研修 10月16日 緊急地震速報対応訓練 11月29日	自衛消防隊の防火防災訓練 9月3、24日 文化財防火デーに徳島市消防局と防火訓練実施 1月26日 AED含む救命講習	自衛消防隊の防火防災訓練 12月17日
	危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立		文化の森三館棟4館で連携した危機管理体制の整備	生物収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置 動物研究室書棚固定	歴史民俗・考古・地学収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		東京文化財研究所、文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修	文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修 全国博物館協会大会	文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第3期中期活動目標の策定、事業別の目標値の検討及び各事業の使命への貼り付け	第3期中期活動目標の運用開始	第3期中期活動目標の運用開始
	自己点検評価の状況		24年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	25年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	26年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月10日	博物館協議会 9月17日	博物館協議会 9月30日

●自己評価

(8-1)

・平成 27 年度は、展示室の点検を日常的に行うとともに、26 年度に取り組んだ「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の成果を活かし、文化の森開園 25 周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」による常設展フレッシュアップなどを進め、より多くの人たちが利用しやすい施設への改善を図った。

(8-2)

- ・27年度も企画展で観覧者へのアンケートを行った。アンケート結果によれば、90%前後が県内在住者であった。県外の利用者の割合は、春季企画展「瓦から見る古代の阿波」で11%、夏季特別陳列「シェルズ」で7%、秋季企画展「阿波木偶箱まわしの世界」で11%であった。
- ・文化の森の他館と連携して、イベントや展示等の広報の強化に努めた。27年度はとくに、文化の森開園25周年記念事業、鳥居龍蔵記念博物館開館5周年記念事業の推進に注力した。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。27年度は25件であった。
- ・25年度から始めた講座室の有料貸し出しの利用は、4件であった。

(8-3)

- ・「安全安心の文化施設モデル事業」のうち常設展フレッシュアップの実施において、徳島視覚支援学校などと連携して取り組んだ。
- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「科学体験フェスティバル in 徳島」(徳島大学)に出展したほか、「文化の森ウィンターフェスティバル」におけるイベント「博物館Vキング」を実施した。
- ・様々な連携による事業展開は、運営基盤の強化につながる取り組みであり、意義があった。

(8-4)

- ・厳しい財政状況のなか、27年度も経常予算や政策的予算のシーリングが継続された。「安全安心の文化施設モデル事業」は、文化の森振興本部に予算計上された。
- ・外部資金は、調査研究のための科学研究費補助金を7件申請したが、3件の継続が認められただけで、新規採択はなかった。民間資金は5件申請し、3件採択された。また文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業について、鳥居龍蔵記念博物館を中心とする実行委員会に当館も参画して申請した事業が採択された。

(8-5)

- ・自衛消防隊の訓練を12月に行った。
- ・震災対策として、歴史民俗収蔵庫・考古収蔵庫・地学収蔵庫の棚の一部において落下防止の耐震ベルトを設置した。今後、さらに設置箇所を増やす予定である。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

(8-6)

- ・文化庁・国立歴史民俗博物館などが開催した研修会等に、職員4人を派遣した。

(8-7)

- ・26年9月に策定した第3期中期活動目標にもとづいて、26年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた(外部評価)。



# X 観覧者統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計とはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

## ●平成27年度 常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館日数	有料観覧者							無料観覧者													観覧者総数				
		個人			団体(割引20%)				学校教育					個人												
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	有料観覧者計	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高校		計	小学生	中学生	高校生	障がい者		高齢者	その他		
									園数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数									校数	人数
4月	26	400	9	12	147	2	1	571	0	0	0	0	0	0	0	0	397	43	17	51	279	638	1,425	1,996		
5月	27	508	12	3	212	4	0	739	1	16	26	1,565	0	0	0	0	27	1,581	1,108	96	92	102	722	3,644	7,345	8,084
6月	25	583	31	2	206	35	0	857	1	6	3	283	0	0	0	0	4	289	336	25	32	111	494	450	1,737	2,594
7月	27	303	14	0	99	23	0	439	1	35	0	0	0	0	0	1	35	774	63	38	97	365	2,096	3,468	3,907	
8月	26	-	-	-	-	-	-	-	2	167	2	18	0	0	0	0	4	185	1,855	153	73	52	597	5,777	8,692	8,692
9月	10	176	7	1	61	0	0	245	0	0	0	0	0	0	0	0	275	17	25	25	107	829	1,278	1,523		
10月	27	486	20	6	205	3	0	720	5	354	13	868	0	0	0	18	1,222	485	54	22	84	243	868	2,978	3,698	
11月	25	252	6	12	157	1	12	440	2	142	7	285	0	0	1	37	10	464	832	87	49	90	453	2,525	4,500	4,940
12月	24	313	16	4	108	1	0	442	0	0	1	6	0	0	0	1	6	285	44	20	102	150	403	1,010	1,452	
1月	24	452	23	1	215	5	3	699	3	167	2	26	0	0	0	5	193	431	27	41	63	160	680	1,595	2,294	
2月	24	352	31	5	173	5	0	566	0	0	1	38	0	0	0	1	38	441	20	19	63	185	1,366	2,132	2,698	
3月	27	375	28	1	138	5	3	550	4	250	1	26	0	0	0	5	276	404	51	43	37	228	959	1,998	2,548	
計	292	4,200	197	47	1,721	84	19	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	7,623	680	471	877	3,983	20,235	38,158	44,426

※7月18日(土)～8月30日(日)は、「家族でおでかけ・節電キャンペーン」により無料。

## ●常設展観覧者数累計(平成2～27年度)

(単位：人)

年度	開館日数	有料観覧者										無料観覧者													観覧者総数			
		個人			団体(割引20%)				減免(割引50%)			学校教育					個人											
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	有料観覧者計	大人		小・中学生	有料観覧者計	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高校		計	小学生	中学生	高校生		障がい者	高齢者	その他
									高齢者	障がい者			計	園数	人数	校数	人数	校数	人数	校数								
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	-	-	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	-	-	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	-	-	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
25	307	5,148	195	55	585	32	8	-	-	-	-	-	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	-	-	-	-	-	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,050	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	-	-	-	-	-	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
計	7,734	360,196	25,974	99,682	34,743	2,516	5,011	53,685	5,751	59,436	175	220	587,953	645	30,889	1,872	151,172	333	39,765	168	18,477	3,018	240,303	160,962	13,784	299,130	714,179	1,302,132

※平成24年9月より、高齢者(65歳以上)及び障がい者は無料。

●平成27年度 企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者							無料観覧者											観覧者総数						
			個人			団体(割引20%)		減免(割引50%)		有料観覧者	学校教育					個人						舞踊観覧者計					
			一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高校生・大学生	小・中学生	高齢者		幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生	障がい者	その他							
第1回企画展「瓦から見る古代の阿波-寺院と役所-」	平成27.4.24～27.6.7	39	458	18	3	112	2	0	355	948	0	0	24	1,439	0	0	0	0	24	1,439	491	47	34	136	1,123	3,270	4,218
第2回企画展「阿波木筒箱まわりの世界」	平成27.10.31～27.11.29	26	240	21	0	114	2	5	472	854	2	85	7	285	0	0	1	37	10	407	319	56	27	102	1,203	2,114	2,968
合計		65	698	39	3	226	4	5	827	1,802	2	85	31	1,724	0	0	1	37	34	1,846	810	103	61	238	2,326	5,384	7,186

●企画展観覧者数・累計

(単位：人)

年度	名称	開催期間	開催日数	有料観覧者							無料観覧者					総観覧者数								
				個人			団体(割引20%)		減免(割引50%)		有料観覧者	無料観覧者												
				一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高校生・大学生	小・中学生	高齢者		障がい者	計	小学生	中学生		高校生	その他	無料観覧者計					
3 (1991)	里帰り文化財名品展	平成3.4.5～3.5.5	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	-	-	-	-	513	513	8,687		
	和泉層群の化石	平成3.7.21～3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	-	-	-	-	259	259	8,654		
	人形芝居がやってきた	平成3.10.11～3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	-	-	-	-	217	217	2,847		
	阿波の刀剣	平成4.2.18～4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	0	462	40	502	0	0	3,750	-	-	-	-	299	299	4,049		
4 (1992)	四国の古墳	平成4.4.24～4.5.24	26	2,566	256	745	169	55	31	473	21	494	0	0	4,316	-	-	-	-	387	387	4,703		
	甲虫の世界	平成4.7.21～4.8.30	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5	15,607	-	-	-	-	349	349	15,956		
	徳島の指定文化財	平成4.10.20～4.11.15	24	1,299	56	79	144	0	0	439	9	448	0	0	2,026	-	-	-	-	407	407	2,433		
	折り・のろい・ほらい	平成5.4.20～5.5.23	29	1,989	362	492	0	0	0	236	8	244	0	0	3,087	-	-	-	-	274	274	3,361		
5 (1993)	南アメリカの自然	平成5.7.24～5.9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	284	13	297	1	0	11,949	-	-	-	-	257	257	12,206		
	鳥居龍藏の見たアジア	平成5.10.12～5.11.21	37	1,524	79	148	84	21	83	460	7	467	1	0	2,407	-	-	-	-	1,201	1,201	3,608		
	人間に光あれ	平成6.4.26～6.5.29	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,811	462	2,098	-	-	7,371	7,371		
6 (1994)	祖谷 その自然とくらし	平成6.7.26～6.9.4	36	1,910	131	444	104	0	41	336	12	348	0	1	2,979	-	-	-	-	266	266	3,245		
	描かれた弥生人のくらし	平成6.10.7～6.11.13	33	800	56	184	61	0	236	209	3	212	0	0	1,549	-	-	-	-	258	258	1,807		
	東洲斎写楽と役者絵の世界	平成7.3.4～7.3.19	14	4,883	521	432	57	0	0	719	21	740	0	5	6,638	-	-	-	-	697	697	7,335		
	よみがえる古代の輝き	平成7.4.21～7.5.21	26	2,595	279	601	6	10	561	446	18	464	0	0	4,516	-	-	-	-	468	468	4,984		
7 (1995)	貝の世界	平成7.7.22～7.9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	416	37	453	0	3	10,816	-	-	-	-	2,127	2,127	12,943		
	戦争から豊かな未来へ	平成7.10.17～7.11.19	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,103	499	4,016	-	-	14,618	14,618		
	銅鑼の美	平成8.4.2～8.5.12	36	2,199	362	528	2	0	843	485	30	515	27	0	4,476	-	-	-	-	1,524	1,524	6,000		
8 (1996)	鉱物の世界	平成8.7.19～8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	0	359	22	381	5	1	6,382	-	-	-	-	981	981	7,363		
	目で見る博物学	平成8.10.18～8.12.1	39	1,214	75	245	2	37	487	210	12	222	1	0	2,283	-	-	-	-	455	455	2,738		
	阿波の近世絵画	平成9.4.22～9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	-	-	-	-	379	379	2,406		
9 (1997)	吉野川の自然	平成9.7.18～9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	448	27	475	0	1	4,235	-	-	-	-	938	938	5,173		
	ネアンデルタール人の復活	平成9.9.20～9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	-	-	-	-	664	664	4,621		
	海ほむすぶ	平成10.4.21～10.5.24	30	937	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	-	-	-	-	465	465	1,833		
10 (1998)	チョウとガ	平成10.7.18～10.8.30	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	-	-	-	-	2,427	2,427	10,889		
	瀬戸内海のおいたち	平成10.10.10～10.11.23	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	-	-	-	-	584	584	3,319		
	大名行列	平成11.4.20～11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	725	442	26	468	0	1	3,325	-	-	-	-	426	426	3,751		
11 (1999)	伊能忠敬が描いた日本	平成11.9.10～11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	475	22	497	0	5	3,577	-	-	-	-	659	659	4,236		
	新発見考古速報展1999	平成11.10.24～11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	-	-	-	-	1,688	1,688	4,751		
	藍のよそおい	平成12.4.18～12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	626	22	648	0	0	2,656	-	-	-	-	-	383	383	3,039		
12 (2000)	さよなら20世紀	平成12.6.1～12.9.9	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,745	6,745	6,745		
	侵入者たち	平成12.7.18～12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	-	-	-	-	1,669	1,669	7,847		
	世紀末大博覧会	平成12.10.20～12.11.26	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,888	741	5,155	-	-	15,784	15,784		
	クントゥル・ワシ神殿の発掘	平成13.4.6～13.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	-	-	-	-	821	821	6,037		
13 (2001)	門出のセレモニ	平成13.7.17～13.8.26	36	889	69	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	-	-	-	-	-	489	489	1,818		
	信仰と美術	平成14.2.19～14.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	-	-	-	-	760	760	4,304		
14 (2002)	貝化石が語る海の記憶	平成14.4.12～14.5.12	27	2,125	47	32	0	0	300	11	311	0	0	3,544	-	-	-	-	-	486	2,545	771	3,802	6,317
	海道をゆく	平成14.7.20～14.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	-	-	-	-	55	1,051	702	1,808	3,194
	古代のわざ	平成14.10.11～14.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	-	-	-	-	60	1,618	468	2,146	3,724
15 (2003)	歴史を決めた戦い	平成15.4.22～15.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	-	-	-	-	483	1,567	704	2,754	5,353
	アイヌ工芸品展	平成15.7.19～15.8.31	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	317	2,455	7,657	-	-	10,429	10,429		
	アンモナイトのすべて	平成15.10.17～15.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	-	-	-	-	266	3,757	1,458	5,481	9,095
16 (2004)	サメの世界	平成16.4.24～16.5.30	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	-	-	-	-	182	6,622	2,681	9,485	16,704
	エビとカニ	平成16.8.12～16.9.20	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	-	-	-	-	128	3,689	2,581	6,398	11,965
	石とくらし	平成16.10.22～16.11.28	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	-	-	-	-	55	1,796	767	2,617	4,141
17 (2005)	縄文の美	平成17.4.26～17.5.29	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	-	-	-	-	187	2,388	650	3,225	6,259
	絶滅	平成17.7.22～17.8.31	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	-	-	-	-	227	3,355	1,528	5,110	9,140
	ふるさと再発見	平成17.10.22～17.11.27	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,036	-	-	-	-	29	1,451	529	2,009	3,045
18 (2006)	奇跡の化石たち	平成18.4.28～18.6.18	45	3,900	113	32	106	0	0	538	41	579	0	0	4,730	-	-	-	-	273	5,189	1,640	7,102	11,832
	世界の種と実	平成18.7.22～18.8.31	36	3,076	122	0	4	0	0	373	71	444	0	0	3,646	-	-							

●特別陳列観覧者数累計（平成4～27年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平成5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平成6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平成7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平成8.2.6～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展 「自然コレクション」	平成11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平成12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 －細川・三好氏と阿波－	平成13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 －在日コリアンの労働史－	平成14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平成15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて －知里幸恵「アイヌ神謡集」への道－	平成15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美 －赤羽刀とその他の館蔵品－	平成16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平成16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平成16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平成18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平成18.2.18～3.19	26	3,848
旅と祈りの道 －阿波の巡礼－	平成19.1.19～3.18	51	7,200
徳島域下町の世界	平成20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平成21.1.27～3.15	42	7,517
蝶に魅せられて －愛好家たちのコレクション－	平成21.7.18～8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平成21.9.19～10.4	14	1,886
マンガラ －チベット・ネパールの仏たち－	平成21.12.12～22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平成22.7.17～9.5	44	10,364
博物館の宝もの	平成23.7.15～9.4	46	15,336
海からどんぶらこ －浜辺の漂着物－	平成24.4.27～6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平成24.9.25～10.3	8	702
みんなの化石コレクション	平成25.10.18～12.1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平成26.3.7～3.19	11	1,537
シェルズ	平成27.7.18～8.30	38	12,963
合計		809	189,643

●移動展観覧者数（平成14～27年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界（海南町立博物館）	平成14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展－江戸から昭和まで－ （藍住町歴史館藍の館）	平成16.12.2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平成17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平成17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平成18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物 北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平成18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平成19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成19.6.5～7.22	42	1,977
中世阿波の板碑（藍の館）	平成19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自然の博物館）	平成20.5.3～5.5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書館・資料館）	平成20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成20.9.25～11.9	41	956
達磨経百態 横山天然の世界（藍の館）	平成21.4.4～4.29	22	250
知らざる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成21.7.18～8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平成21.7.25～8.30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成21.9.25～11.5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平成21.11.21～22.1.25	52	220
“ジオプラザ阿南” 那賀川流域と県南部地域の化石展（阿南市科学センター）	平成22.7.17～8.15	26	1,431
旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展（日和佐図書館・資料館）	平成22.7.21～9.5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」① （貞光ゆうゆう館）	平成22.9.18～9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」② （海陽町立博物館）	平成22.9.23～10.3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③ （松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平成22.10.9～10.17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書館資料館）	平成23.7.22～9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書館資料館）	平成24.9.6～9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平成25.1.26・27	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺（日和佐図書館資料館）	平成25.7.5～7.31	22	493
九州・五島行き－以西底曳き網漁業－ （美波町由岐公民館）	平成25.10.25～11.4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平成26.4.15～5.13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセンター）	平成27.7.1～9.30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平成27.10.3～10.18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平成27.12.6～28.1.6	26	500
合計		896	43,937

●博物館利用者総数年度別一覧

（単位：人）

年度	常設展		常設観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展	普及行事参加者	その他	利用者総数
	有観覧者	無観覧者							
2	88,722	8,555	97,277	-	-	-	646	-	97,923
3	99,282	37,835	137,117	24,237	-	-	1,387	-	162,741
4	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8	22,434	34,687	57,121	16,101	-	-	2,419	-	75,641
9	18,573	26,147	44,720	12,200	-	-	2,232	-	59,152
10	16,590	22,301	38,891	16,041	-	-	1,890	-	56,822
11	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
27	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	93,872
累計	587,953	714,179	1,302,132	505,997	189,643	43,993	133,181	221,105	2,396,051

※特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。  
※その他に、出前授業の人数を加算（平成25年度～）

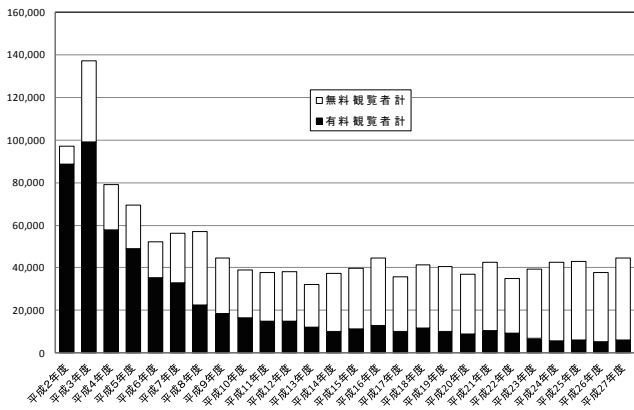


●人権啓発展等観覧者数

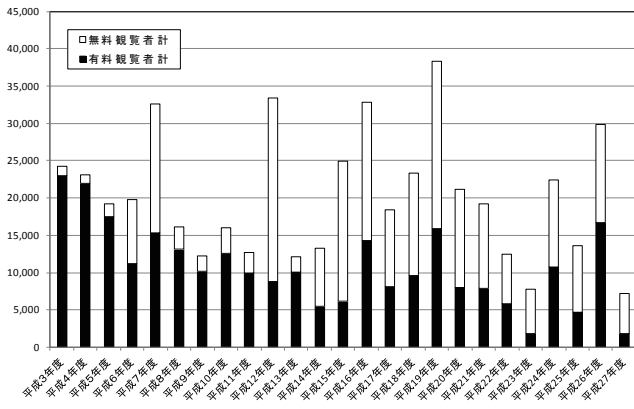
(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平成12. 8. 26～9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平成13. 8. 4～8. 12	8	1,290
〃 第2回	平成13. 12. 4～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平成14. 7. 27～8. 4	8	1,066
〃 第2回	平成14. 12. 3～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平成15. 8. 2～8. 10	8	1,414
〃 第2回	平成15. 12. 2～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平成16. 8. 7～8. 15	8	1,568
〃 第2回	平成16. 12. 7～12. 12	6	753
2005年人権問題啓発展	平成17. 8. 6～8. 14	8	1,594
〃 第2回	平成17. 12. 6～12. 11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平成18. 8. 5～8. 13	8	1,532
〃 第2回	平成18. 12. 5～12. 10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平成19. 12. 4～12. 9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平成20. 12. 2～12. 7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平成21. 12. 1～12. 6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平成22. 11. 30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平成23. 12. 6～12. 11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平成24. 12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平成25. 12. 4～12. 10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平成26. 12. 10～12. 16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平成27. 12. 9～12. 15	6	270
合計		150	18,403

●常設展観覧者数 (平成2～27年度)



●企画展観覧者数 (平成2～27年度)



●その他(啓発展を除く共催事業)観覧・参加者数 (平成15～27年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平成15. 7. 19～8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平成16. 7. 30～8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平成17. 8. 20～8. 28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平成18. 3. 25～3. 26	2	555
子どもの絵	平成18. 4. 29～5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平成18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平成19. 2. 2～2. 3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平成19. 2. 17～2. 18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平成19. 10. 27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光-守護町勝瑞から城下町徳島へ-」(徳島城博物館)	平成19. 12. 4～20. 1. 27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平成20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成20. 8. 9～8. 10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平成20. 10. 18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平成20. 11. 15～11. 16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成21. 8. 8～8. 9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平成22. 2. 20～3. 31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平成22. 4. 1～4. 18	16	25,113
軌跡-継続と蓄積-	平成22. 10. 23～11. 23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平成23. 2. 5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平成23. 3. 21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平成23. 7. 20～8. 28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成23. 8. 6～8. 7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平成23. 10. 29～12. 4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平成24. 1. 28～3. 11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成24. 8. 4～8. 5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク①	平成24. 9. 30	1	5
鳥居ミュージアムトーク②	平成24. 11. 25	1	27
鳥居特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ-北方のまなざし-」	平成25. 1. 26～3. 3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成25. 8. 3～8. 4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書-外国語・学問・文学-」	平成25. 8. 30	1	50
鳥居ミュージアムトーク①	平成25. 9. 29	1	14
鳥居ミュージアムトーク②	平成25. 11. 24	1	14
共催事業第63回四国中世史研究会	平成25. 12. 22～12. 23	2	47
鳥居ミュージアムトーク③	平成26. 1. 19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-」	平成26. 1. 25. ～3. 2	32	1,753
鳥居ミュージアムトーク①	平成26. 6. 15	1	9
鳥居ミュージアムトーク②	平成26. 9. 14	1	7
鳥居ミュージアムトーク③	平成27. 11. 23	1	18
鳥居ミュージアムトーク④	平成27. 1. 17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-」	平成27. 1. 24～3. 1	32	2,827
鳥居ミュージアムトーク①	平成27. 6. 14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成27. 8. 9～8. 10	2	1,743
ufotable15周年展	平成27. 9. 26～10. 12	25	8,180
鳥居ミュージアムトーク②	平成27. 11. 22	1	11
鳥居ミュージアムトーク③	平成28. 1. 17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵-世界に広がる知の遺産-」	平成28. 1. 23～2. 28	32	1,831
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見-国内外の視点から-」	平成28. 2. 21	1	199
合計		486	196,067

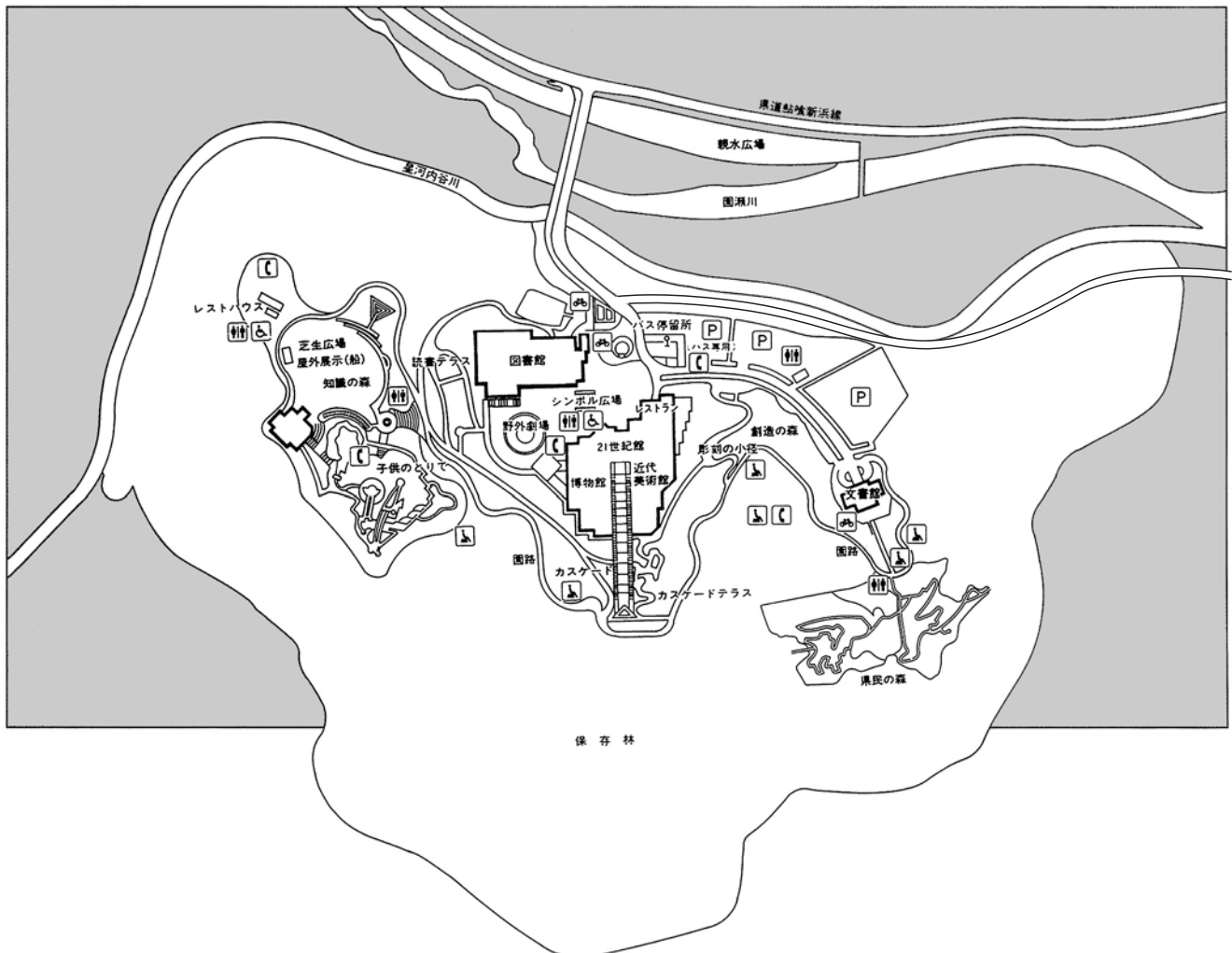
# XI 施設の概要

## 1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和55年 1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年 2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年 3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年 3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年 1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年 8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年 3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年 3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年 7月	博物館展示工事着手
平成元年 4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2年 3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3年 2月	博物館資料収集委員会設置
平成 4年 3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 7年 7月～8年 3月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館開館 5 周年記念事業を実施
平成 8年 4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成12年10～11月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催
平成15年 7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成17年10～11月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見—15 の人・もの・場所—」を開催
平成22年 4月～23年 3月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成27年 4月～28年 3月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施

## 2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363㎡（3館棟）
- 延床面積 22,382㎡（4館合計－積層部分を含めると 23,814㎡）  
8,063㎡（博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施工
  - 建築 …………… 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
  - 電気 …………… 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
  - 空調 …………… 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
  - 管 …………… 朝日工業社・大成設備 共同企業体
  - エレベーター …………… (株)東芝
  - 家具 …………… 富士ファニチア(株)
  - 移動展示ケース …………… (株)三井
  - 展示 …………… (株)丹青社





### 3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

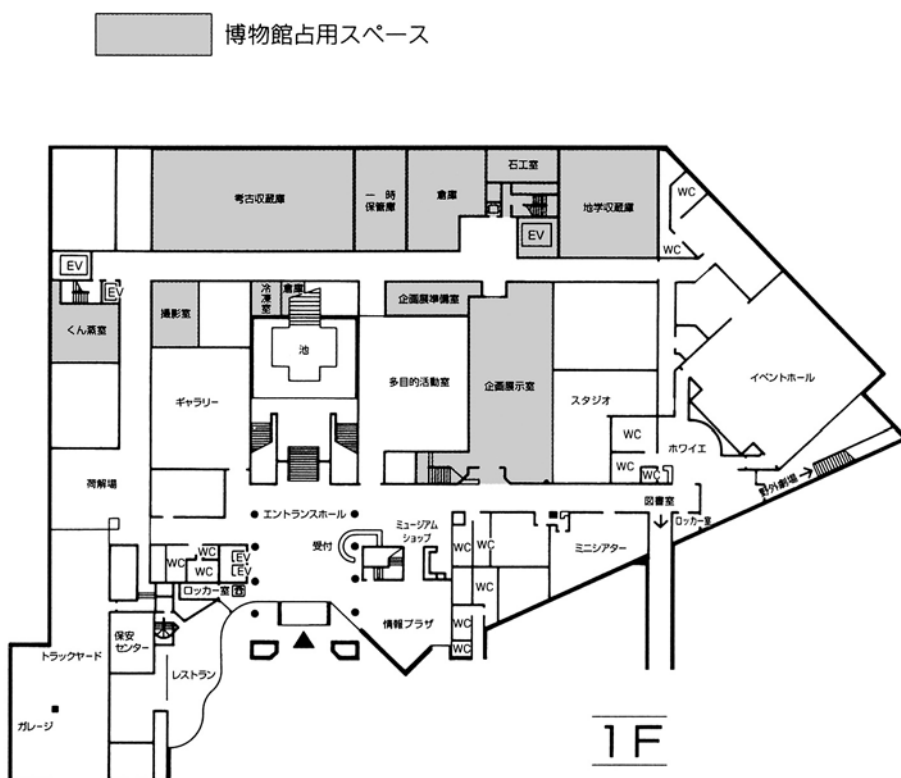
2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

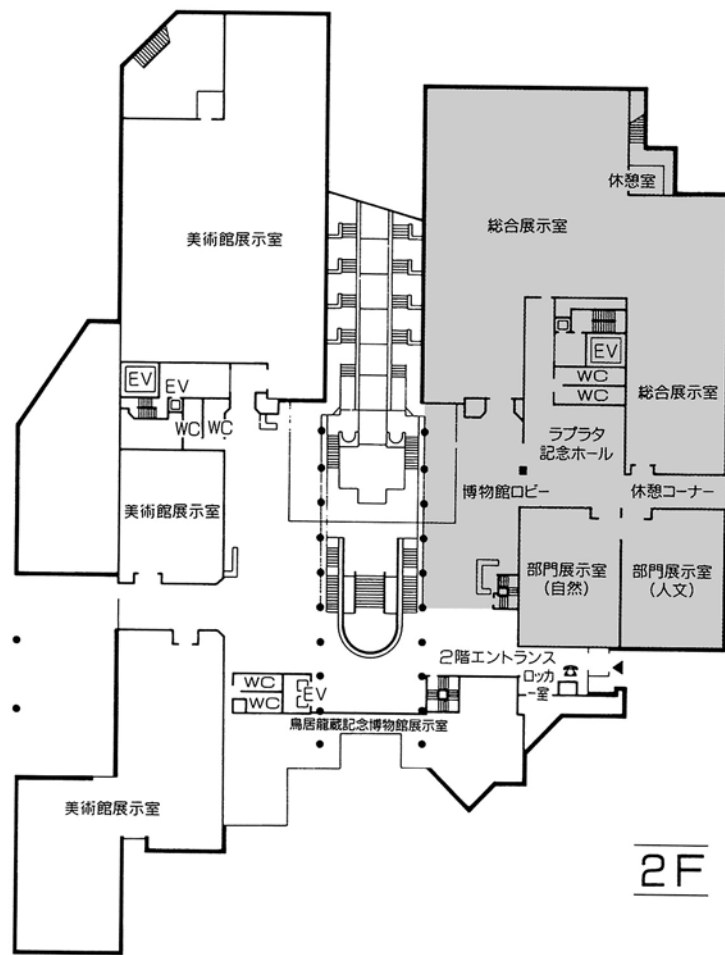
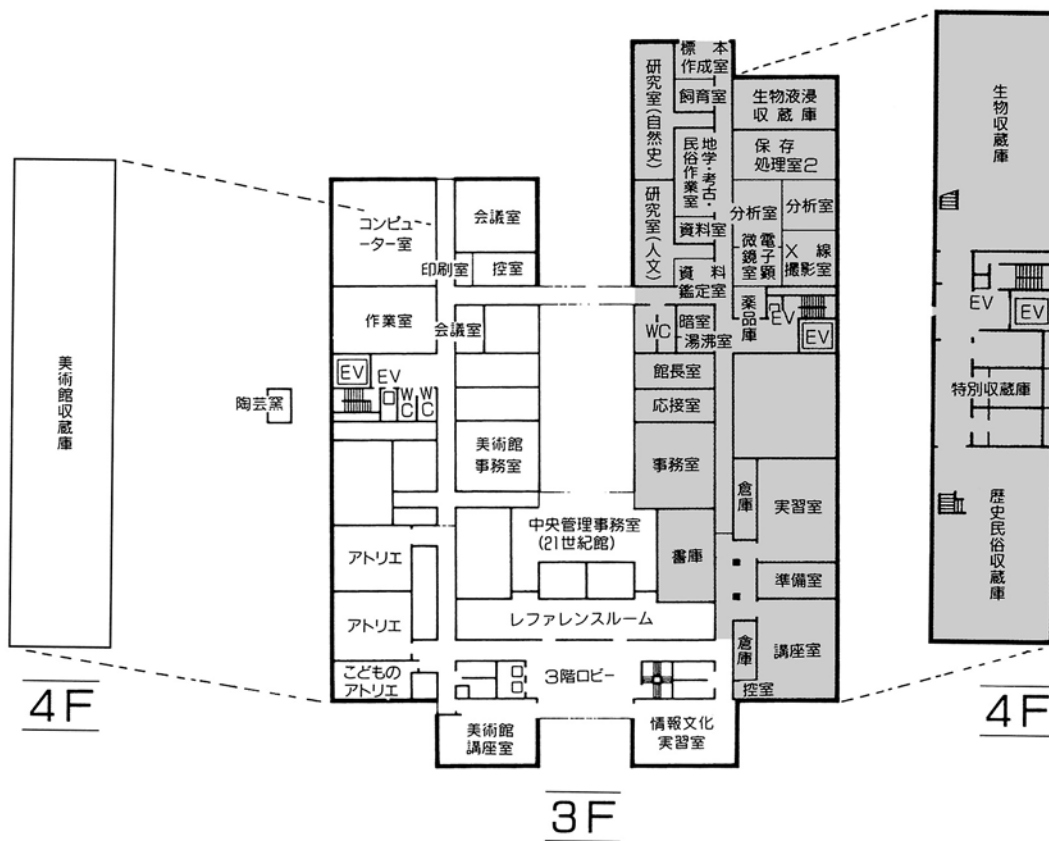
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。





## XII 例 規

### ●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号  
最近改正 平成28年3月18日 徳島県条例第33号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認め



るときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 別表第1（第4条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20人以上をいう。以下同じ。）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者（学齢に達しない者を除く。）	1人1回	200円	160円		

#### 別表第2（第4条関係）

区分	単位	金額
博物館講座室	午前	2,160円
	午後	3,490円

(他館の施設等は省略)

(備考)

1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時から午後9時までをいう。

2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表

の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。

- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

## ●徳島県立博物館管理規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

最近改正 平成25年3月29日 徳島県教育委員会規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を館長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、館長が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 館長は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとする

きは、直ちにその旨を文書で館長に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

別記様式 省略

## ●徳島県立博物館協議会規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成24年3月30日 徳島県教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。



## ●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号  
最近改正 平成28年3月31日 徳島県教育委員会規則第3号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。
- (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の職は省略)

- 2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が 教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課長補佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的な事務に従事する。
係長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に関し命ぜられた事項を処理する。
主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務又は技術に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

#### 第4章 附属機関

(附属機関)

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

